

地方公会計標準ソフトウェア

インストール手順書(スタンドアロン PC 編)

本手順書は、平成 31 年 4 月 25 日のリリース以降に地方公会計標準ソフトウェアをダウンロードし、初期インストールを行う場合の地方公会計向け前提ミドルウェア及び地方公会計標準ソフトウェアのインストール及び初期セットアップ手順を示す文書です。

平成 31 年 4 月 25 日のリリースより前に地方公会計標準ソフトウェアをダウンロードし、すでにインストールを行っている場合は、本手順書ではなく、別冊資料「バージョンアップ手順書」のとおり、地方公会計標準ソフトウェアのバージョンアップ作業を行ってください。

令和2年2月

地方公共団体情報システム機構

D05-01-70

《他社所有名称に関する表示》

Microsoft Excel, Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。本マニュアルではそれぞれ、Excel, Internet Explorer と略称致します。

Microsoft Access Database Engine は米国 Microsoft Corporatrion の登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

そのほか、本手順書に掲載したソフトウェア名、プログラム名、システム名などは一般に各社の商標、あるいは登録商標です。

はじめに

本手順書は、地方公会計標準ソフトウェアの稼働環境を構築する方法について説明するものです。
なお、本手順書は、システム構成パターン A を対象としています。システム構成パターンについては、付録 A をご参照ください。

■ マニュアルの構成

本手順書は 7 章から構成されており、その概要は以下の通りです。

1 システムを構築する前に

地方公会計標準ソフトウェアの稼働環境を構築する前に知っておくべき内容について説明しています。

2 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール

地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール方法について説明しています。

3 スタンドアロン PC のセットアップ 1

スタンドアロン PC のセットアップ用ファイルの設定方法について説明しています。

4 スタンドアロン PC のセットアップ 2

スタンドアロン PC の DB セットアップ方法について説明しています。

5 スタンドアロン PC のセットアップ 3

スタンドアロン PC の AP セットアップ方法について説明しています。

6 OS 再起動後の確認

OS 再起動後の確認方法について説明しています。

7 スタンドアロン PC のセットアップ 4

クライアントのセットアップ方法について説明しています。

付録

目次

1 システムを構築する前に	1
1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境	2
1.2 環境構築の流れ	6
2 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール	7
2.1 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れ	8
2.2 HiRDB Server Version 9 のインストール	9
2.3 COBOL2002 のインストール	20
2.4 SORT のインストール	26
2.5 SEWB+/標準サブルーチンのインストール	32
2.6 uCosminexus Application Server のインストール	37
2.7 HiRDB/Run Time Version 9(64)のインストール	44
3 スタンドアロン PC のセットアップ 1	53
3.1 セットアップ用ファイルの設定	54
4 スタンドアロン PC のセットアップ 2	61
4.1 DB のセットアップ	62
5 スタンドアロン PC のセットアップ 3	85
5.1 AP のセットアップ	86
6 OS 再起動後の確認	100
6.1 OS 再起動後の確認	101
7 スタンドアロン PC のセットアップ 4	103
7.1 地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップ	104
7.2 地方公会計標準ソフトウェアの画面の起動確認	107
7.3 地方公会計標準ソフトウェアの初回ログイン時の作業	112
7.4 地方公会計標準ソフトウェアの利用開始にあたって	113
付録	114
付録 A システム構成パターン	115
付録 B パスワード変更手順	117
付録 C システム環境変数 PATH 追加手順	121

1 システムを構築する前に

この章では、地方公会計標準ソフトウェアの稼働環境を構築する前に知っておくべき内容について説明します。

1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境

1.2 環境構築の流れ

1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境

ここでは、地方公会計標準ソフトウェアの前提環境について説明します。

- 1) **必ず、本手順書で作業する直前に、最新版の地方公会計標準ソフトウェアのプログラムをダウンロードしてください。**最新版の地方公会計標準ソフトウェアのプログラムは、地方公会計標準ソフトウェア配布用 Web サイトの「地方公会計標準ソフトウェアダウンロード」画面から地方公会計標準ソフトウェアのプログラムをダウンロードします。地方公会計標準ソフトウェア配布用 Web サイトからプログラムをダウンロードすると、「Setup.zip」ファイルがダウンロードされます。ダウンロードした「Setup.zip」ファイルを用いて、第 2 章以降の手順に従いインストール作業を実施してください。
- 2) 地方公会計標準ソフトウェアのシステム構成と本手順書で設定する範囲の関連を以下の図に示します。地方公会計標準ソフトウェアは、スタンドアロン PC に地方公会計標準ソフトウェアを導入し、同じスタンドアロン PC で地方公会計標準ソフトウェアを操作します。

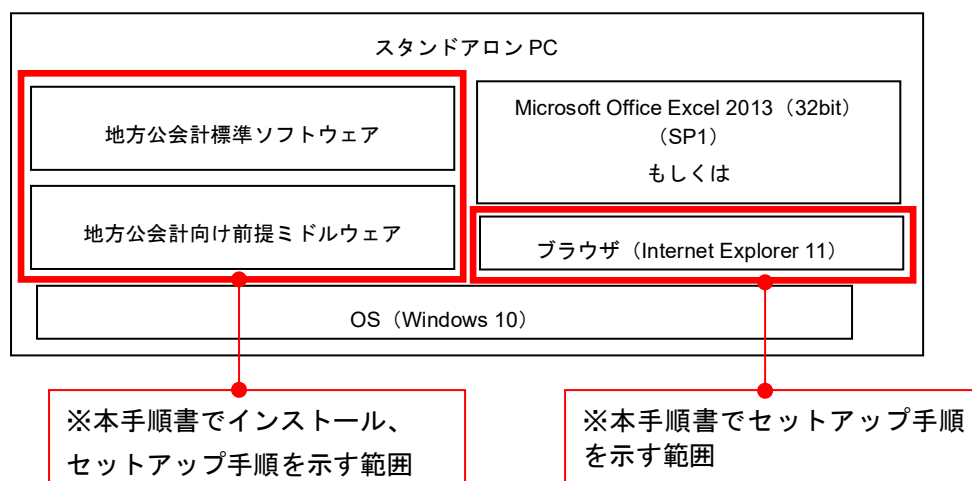


図 1-1 地方公会計標準ソフトウェアのシステム構成と本手順書で設定する範囲

上図に示す本手順書でインストール、セットアップ手順を示す範囲以外の以下の点については、事前に完了しておく必要があります。

- ①システム仕様書の要件にあったハードウェアが準備されていること。なお、地方公会計標準ソフトウェアの稼働環境は、他システムが稼働していない独立した新規の稼働環境となっていること。また、**本手順書は、新規で OS をインストールした直後の状態から作業を開始することを前提としているため、過去に他システムが稼働していた環境を流用する場合は、OS を再インストールし、新規で OS をインストールした直後の状態と同等の状態とすることを推奨します。**
- ②OS の設定をすること **(時刻同期の設定がされていることが望ましい。時刻同期の設定がされていない場合でもシステム日付と時刻を正しく設定していること)。**
- ③地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール媒体 (ISO イメージファイル又は CD) のいずれかを入手済みであること。
 - ・基本版地方公会計向け前提ミドルウェアセット
 - ・スタンドアロン PC 版地方公会計向け前提ミドルウェアセット (形名 : P-2CZY-2514)

④元号対応版地方公会計前提ミドルウェアのインストール媒体（ISO イメージファイル）を入手済みであること。

⑤スタンドアロン PC に Microsoft Office Excel 2013（32bit）（SP1）もしくは Microsoft Office Excel 2016（32bit）、ブラウザ（Internet Explorer 11）がインストールされていること。

3) 本手順書で使用する以下の項目について、事前に決めてください。

（注）以下の表に記載の推奨値のとおりにインストールする場合は、本手順書のとおりインストールができます。

なお、インストール先を以下の表に記載の推奨値以外に変更する場合は、本手順書に記載のパスをその変更したパスに読み替えてください。

また、インストール先を以下の表に記載の推奨値以外に変更する場合は、各項目の設定値には、半角英数字 50 文字以内とし、スペースや記号（- | ; & > < ` ‘ “ \$ 等）を使用しないでください。

また、以下の項目の設定値は、今後、地方公会計標準ソフトウェアのバージョンアップ等を行う際にも使用するため、事前に決めた設定値を保管しておいてください。

表 1-2 事前に決めておく必要のある本手順書で使用する項目

項番	項目	推奨値	備考
1	スタンドアロン PC の IP アドレス		OS 設定時の値
2	スタンドアロン PC のホスト名		OS 設定時の値
3	地方公会計前提ミドルウェア [ユーザ情報] のユーザ名		職員名など
4	地方公会計前提ミドルウェア [ユーザ情報] の会社名		団体名など
5	作業フォルダ	C:¥	
6	本手順書内に記載している 作業フォルダ	kokaikai	
7	アプリケーションログ フォルダ	kokaikai¥log	
8	インストール先ドライブ	C:¥	
9	HiRDB のインストール先	win32app¥hitachi¥hirdb_s	
10	COBOL2002 のインストール先	Program Files (x86)¥Hitachi¥COBOL2002	
11	SORT のインストール先	Program Files (x86)¥Hitachi¥SORT	
12	SEWB+/標準サブルーチンのインストール先	Program Files (x86)¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB	
13	uCosminexus Application Server のインストール先	Program Files¥Hitachi¥Cosminexus	
14	HiRDB/Run Time のインストール先	Program Files¥HITACHI¥HiRDB	
15	Microsoft Access Database Engine のインストール先	Program Files¥Microsoft Office	

1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境

項番	項目	推奨値	備考
16	業務データ格納先ドライブ	C:¥	C ドライブの空き容量が確保できない場合は、別ドライブでもよい。
17	HiRDB セットアップ先	win32app¥hitachi¥hirdb_s¥area	
18	ダウンロード／アップロードファイルフォルダ	kokaikai_ap¥online	
19	Cosminexus Management Server の管理ユーザアカウントの管理ユーザ ID	kokaikai_CMSadmin	
20	Cosminexus Management Server の管理ユーザアカウントのパスワード	Kok@ike1	
21	システム構成パターン		
22	減価償却パターン		
23	自治体コード		5 桁
24	会計年度		西暦 4 桁
25	団体名		全角文字 20 文字以内
26	インストールユーザ	kokaikai	インストールする OS ユーザ
27	地方公会計標準ソフトウェアの初期登録ユーザ (admin) のパスワード		半角英数字 20 文字以内 (ユーザ名称 admin は変更不可)

なお、システム仕様書の要件にあったハードディスクの空き容量が確保されていることを確認してください。表 1-2 で事前に決めた項番 8 のインストール先ドライブ、項番 16 の業務データ格納先ドライブが、推奨値のドライブ以外の場合は、以下のドライブを事前に決めたドライブに読み替えてください。

システム構成パターン A（償却パターンが年割）の場合

C ドライブに空き容量が 260GB 以上あること（項番 16 の業務データ格納先ドライブが C ドライブ以外の場合は、C ドライブに空き容量が 50GB 以上、業務データ格納先ドライブに空き容量が 210GB 以上あること）

システム構成パターン A（償却パターンが月割／日割）の場合

C ドライブに空き容量が 260GB 以上あること（項番 16 の業務データ格納先ドライブが C ドライブ以外の場合は、C ドライブに空き容量が 50GB 以上、業務データ格納先ドライブに空き容量が 210GB 以上あること）

システム構成パターンについては、付録 A をご参照ください。

- 4) スタンドアロン PC の場合は、インストール作業及び地方公会計標準ソフトウェアの操作を実施する OS ユーザは、必ず Administrator 権限を持つ同一のユーザで実施してください。また、本ユーザは OS 上から削除しないでください。なお、本手順書では、ユーザ名：kokaikai（Administrator 権限）のユーザでインストール及び地方公会計標準ソフトウェアの操作を実施することを前提としているため、適宜ユーザ名を読み替えてください。
- 5) インストール用の作業フォルダ（本手順書上の推奨値は C:¥kokaikai）はインストール作業後も削除しないでください。

- 6) ノート PC をご使用の場合は、インストール作業や地方公会計標準ソフトウェアの操作の途中で、ディスプレイを閉じないでください。実行中の処理が途中で止まり、正常に完了できない場合があります。
- 7) 地方公会計標準ソフトウェアでは OS の設定を行っているため、ドメインのセキュリティポリシー等で設定が書き換えられないように実施してください。もしくは、地方公会計標準ソフトウェアに使用するスタンドアロン PC をネットワークに接続しないでください。

1.2 環境構築の流れ

ここでは、環境構築の流れについて説明します。

環境構築の流れ、および参照先を次の図に示します。**環境構築は、必ず以下の図に示す構築の流れ通りに実施してください。構築を順番通りに実施しなかった場合、正常に環境が構築できない場合があります。**



図 1-3 構築の流れと参照先

2 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール

この章では、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール方法について説明します。

- 2.1 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れ
- 2.2 HiRDB Server Version 9 のインストール
- 2.3 COBOL2002 のインストール
- 2.4 SORT のインストール
- 2.5 SEWB+/標準サブルーチンのインストール
- 2.6 uCosminexus Application Server のインストール
- 2.7 HiRDB/Run Time Version 9(64)のインストール

2.1 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れ

ここでは、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れについて説明します。地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールは、スタンドアロン PC で実施してください。

地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れ、およびこの章での参照先を次の図に示します。**地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールは、必ず以下の図に示す地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れ通りに実施してください。地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールを順番通りに実施しなかった場合、正常に地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールができない場合があります。**



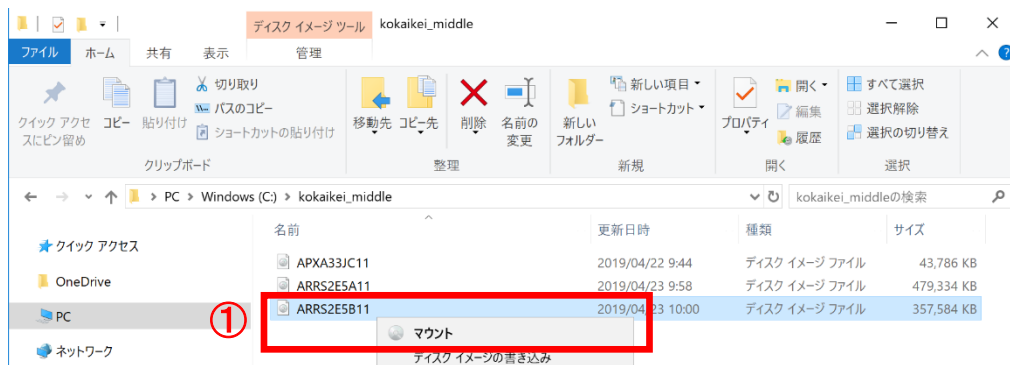
図 2-1 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストールの流れと参照先

2.2 HiRDB Server Version 9 のインストール

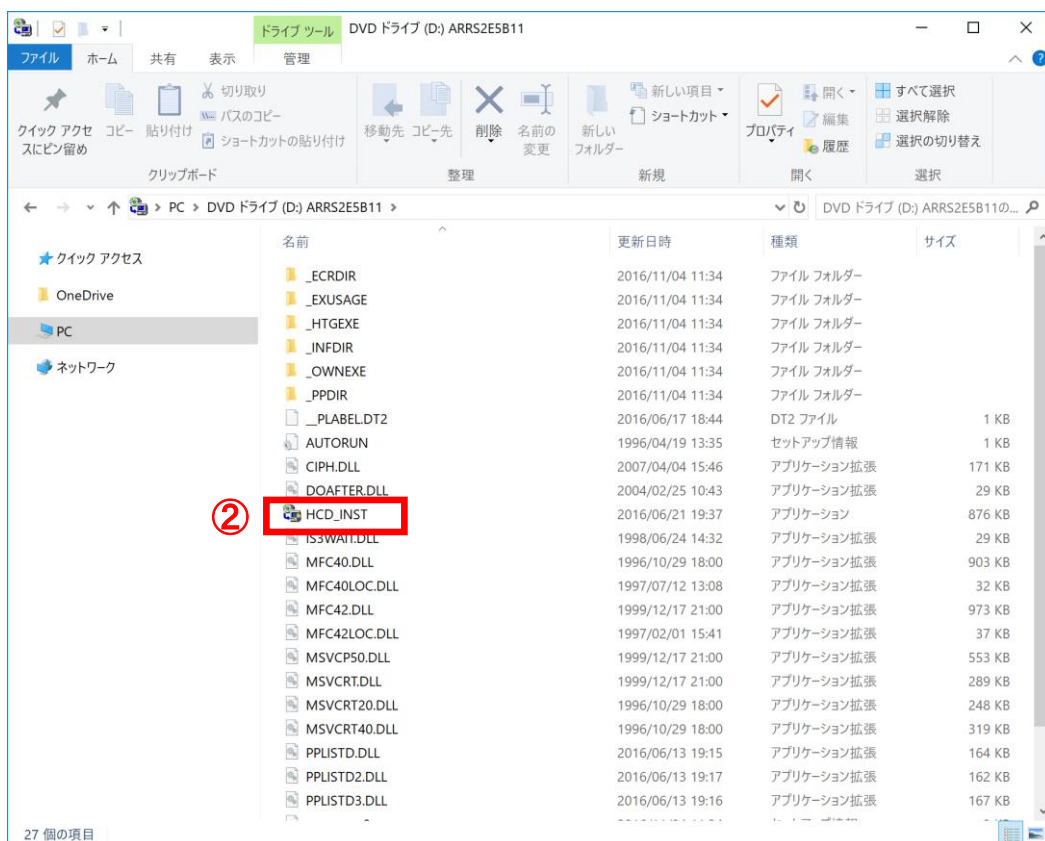
ここでは、HiRDB Server Version 9 のインストール方法について説明します。

1) 地方公会計向け前提ミドルウェアを基本版地方公会計向け前提ミドルウェアダウンロードサイトから ISO イメージファイルで入手した場合は、

- ① 「ARRS2E5B11」又は「ARRS2E5B11.iso」を選択した状態で右クリックし、[マウント]をクリックします。

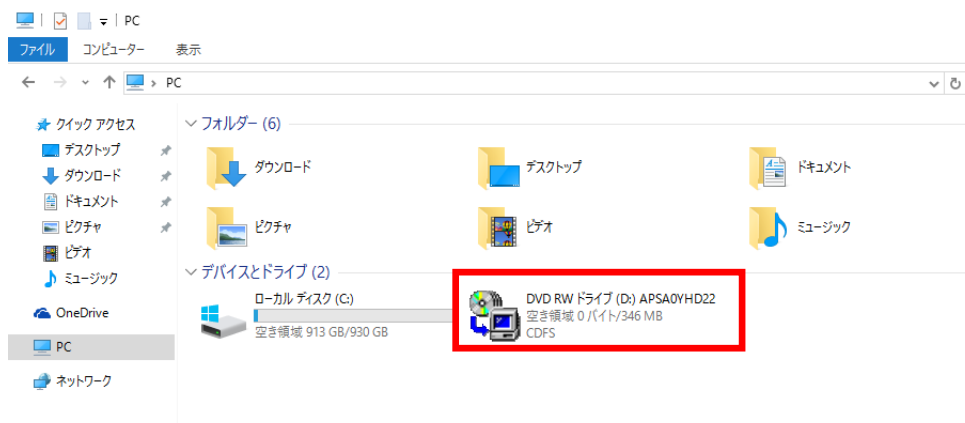


- ② ドライブとして認識された「ARRS2E5B11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



2.2 HiRDB Server Version 9 のインストール

地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合は、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM を CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブに挿入すると、[日立総合インストーラ] 画面が開きます。自動的に開かない場合は、エクスプローラー（キーボードの [Windows] キーを押しながら [E] キーを押すと起動します。）を開き、そこで表示される [PC] 下の CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブをダブルクリックします。それでも [日立総合インストーラ] 画面が開かない場合は、「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。

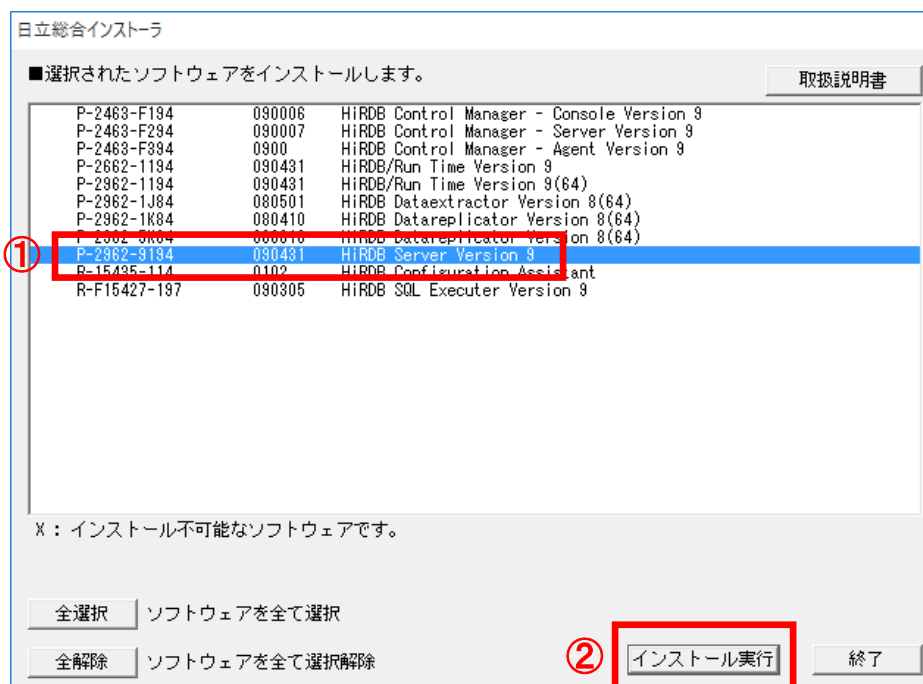


2) [ユーザアカウント制御] 画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。

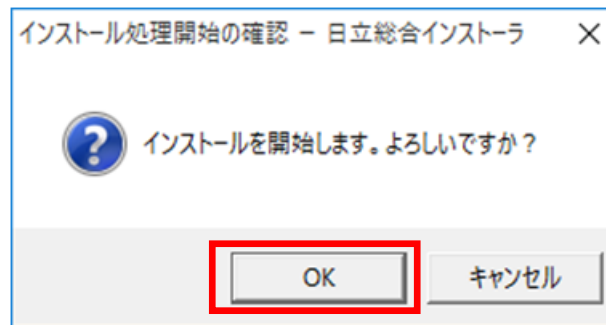
3) [日立総合インストーラ] 画面で、

- ① [HiRDB Server Version 9] を選択します。
- ② [インストール実行] ボタンをクリックします。

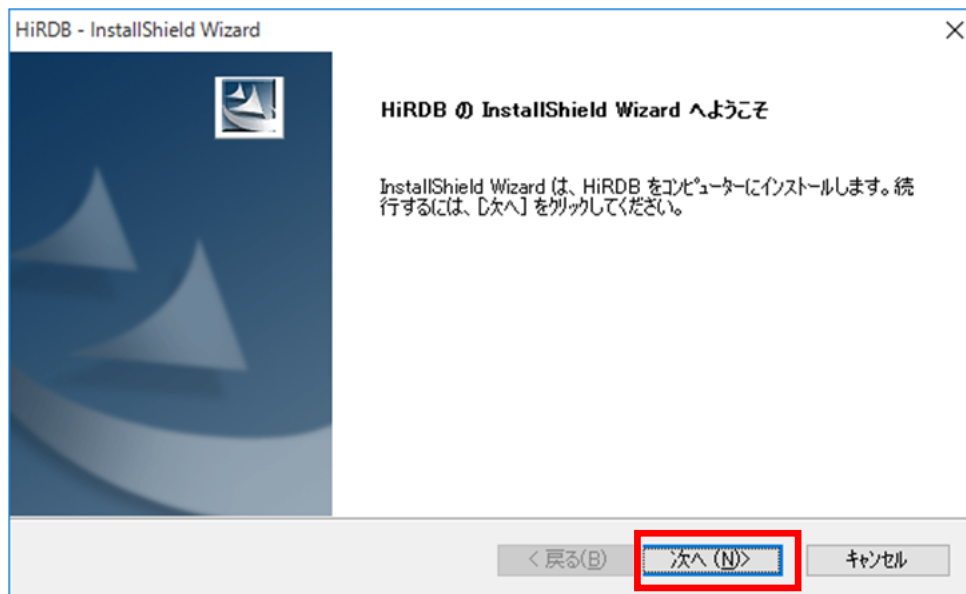
地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合で、かつ、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM が複数枚ある場合は、何れかのインストール CD-ROM の総合インストーラに [HiRDB Server Version 9] が含まれていますので、探してください。



- 4) [インストール処理開始の確認] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。

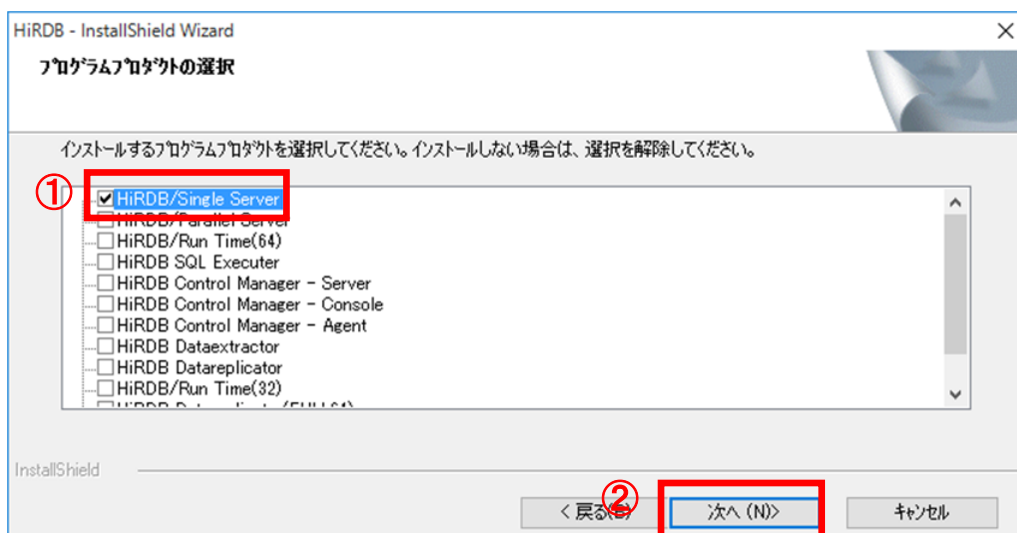


- 5) [ようこそ] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



- 6) [プログラムプロダクトの選択] 画面で、

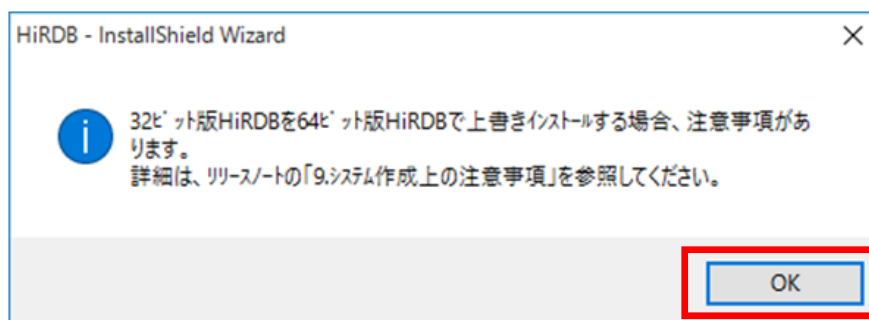
- ① [HiRDB/Single Server] チェックボックスをクリックします (チェックが付きます)。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。



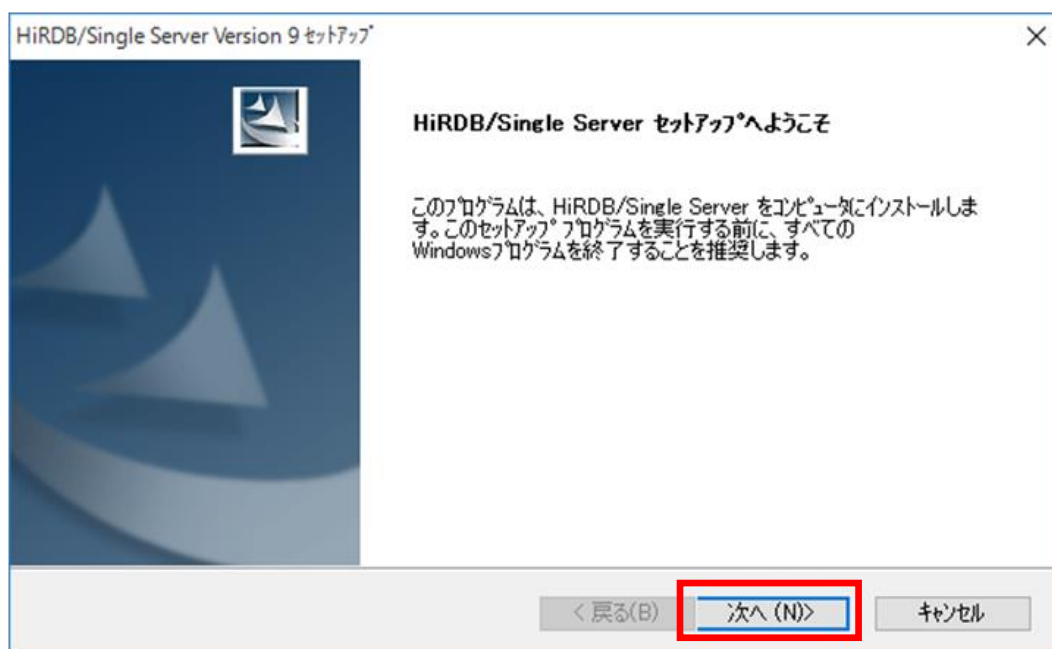
- 7) インフォメーション画面で、[OK] ボタンをクリックします。



- 8) インフォメーション画面で、[OK] ボタンをクリックします。

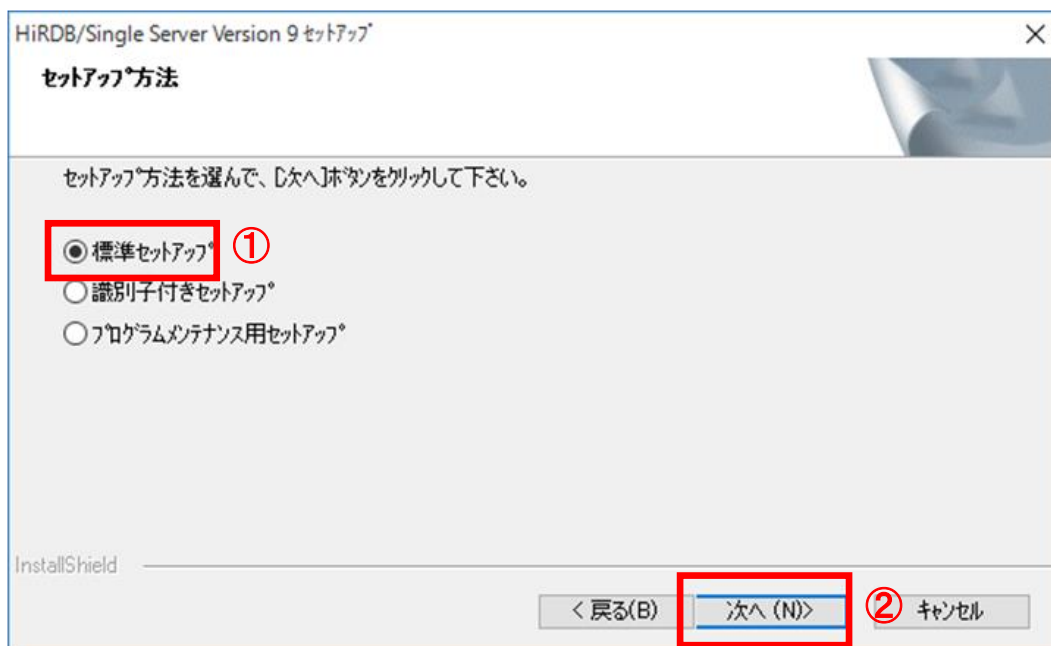


- 9) [ようこそ] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



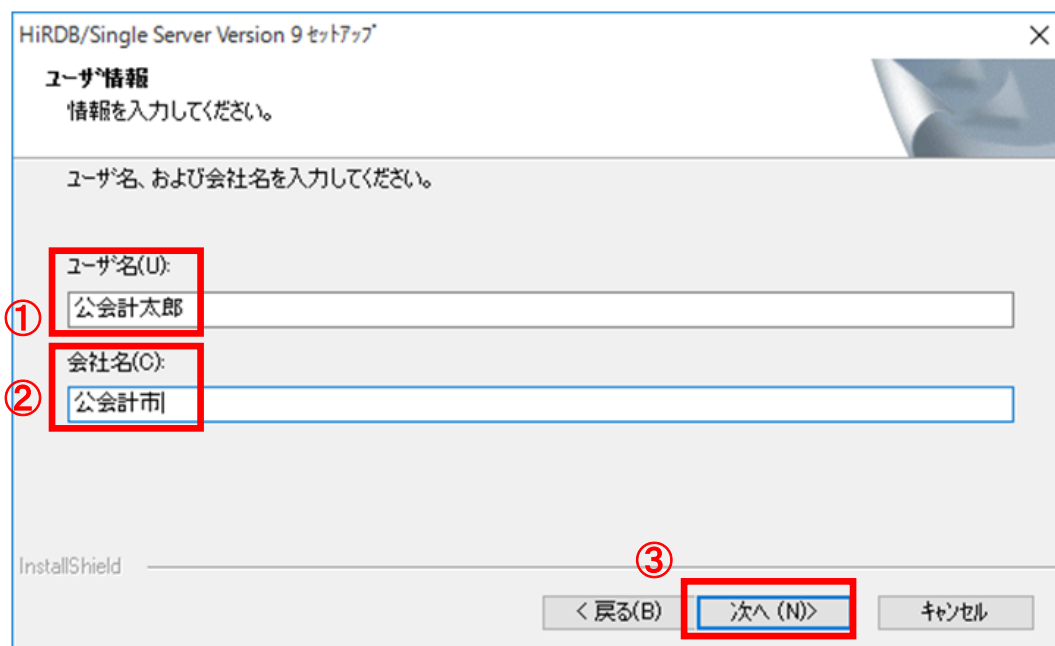
10) [セットアップ方法] 画面で、

- ① 「標準セットアップ」欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。

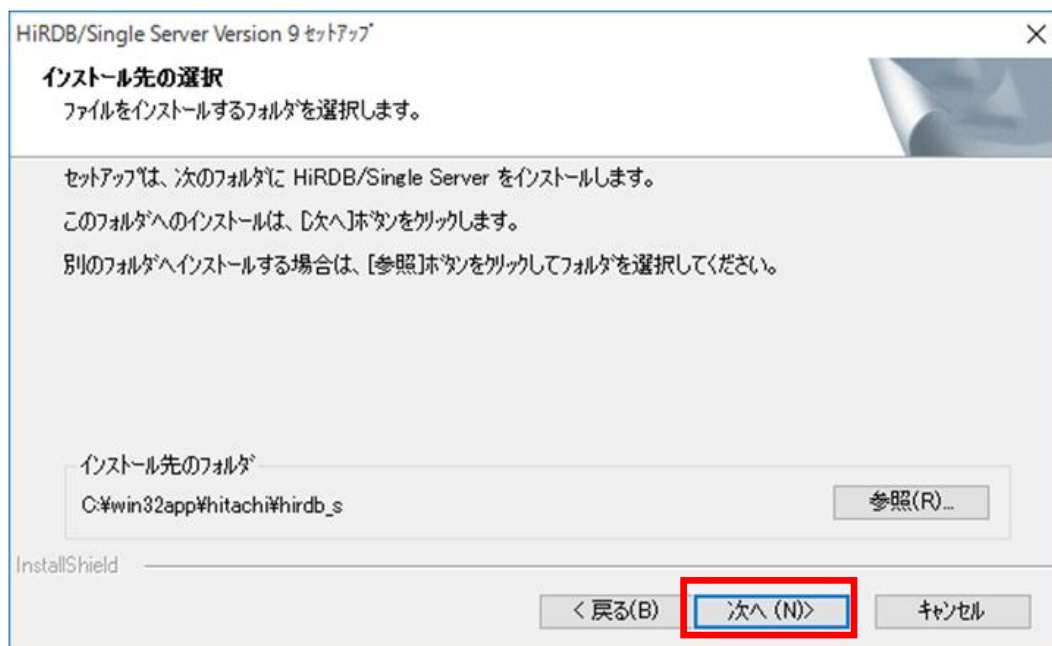


11) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3) で事前に決めた「ユーザ名 (ユーザ情報)」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [会社名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3) で事前に決めた「会社名 (ユーザ情報)」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

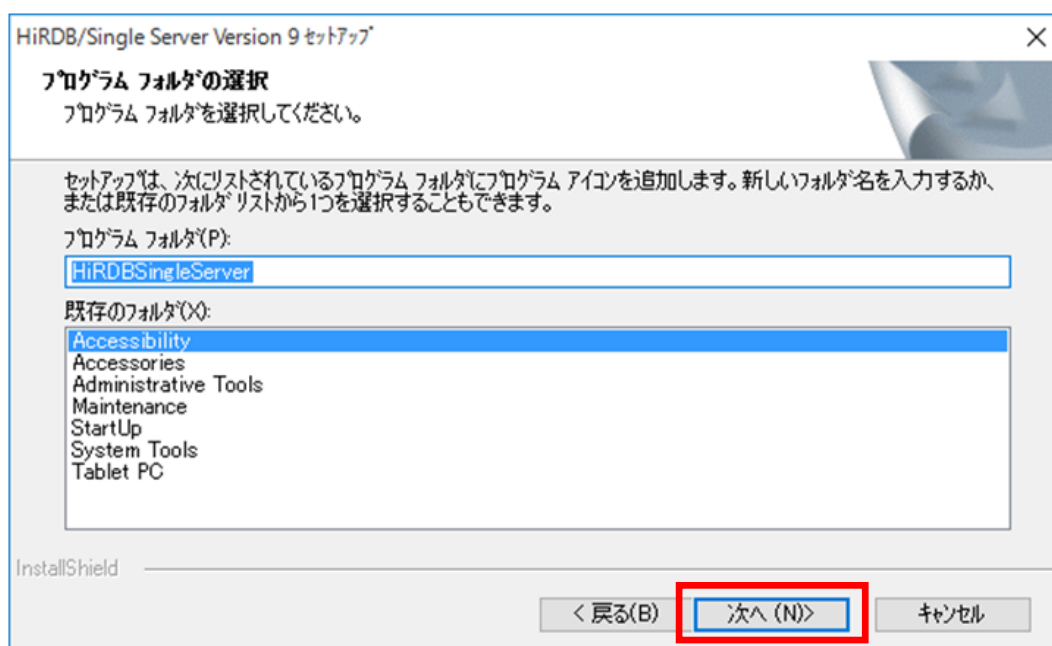


- 12) [インストール先の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



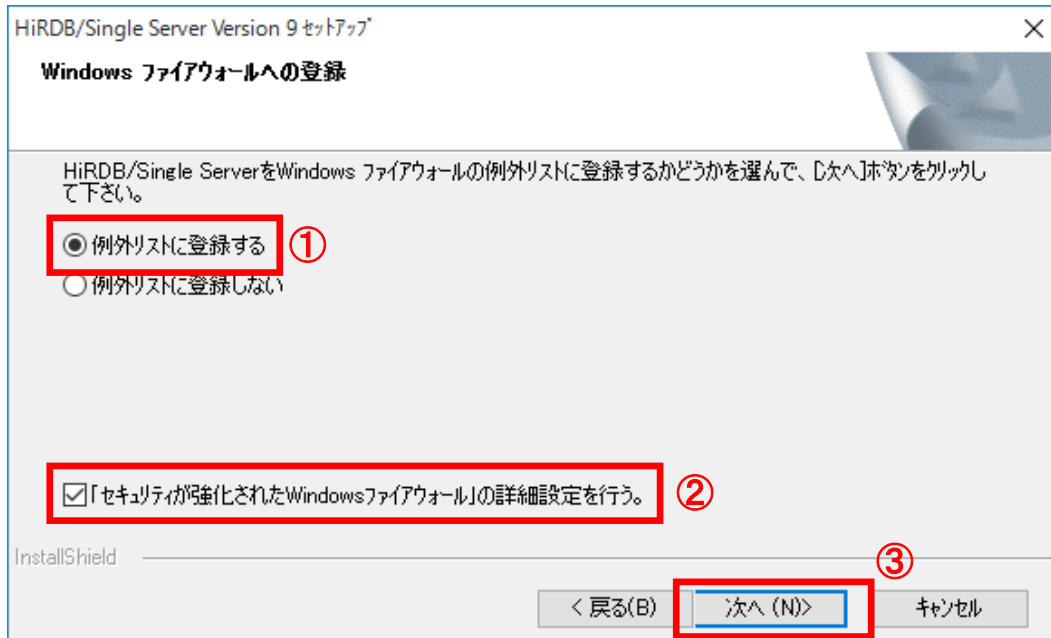
(注) インストール先のフォルダは、「C:\win32app\hitachi\hirdb_s」が推奨です。
インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックして任意のインストール先のフォルダを設定してください。

- 13) [プログラムフォルダの選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



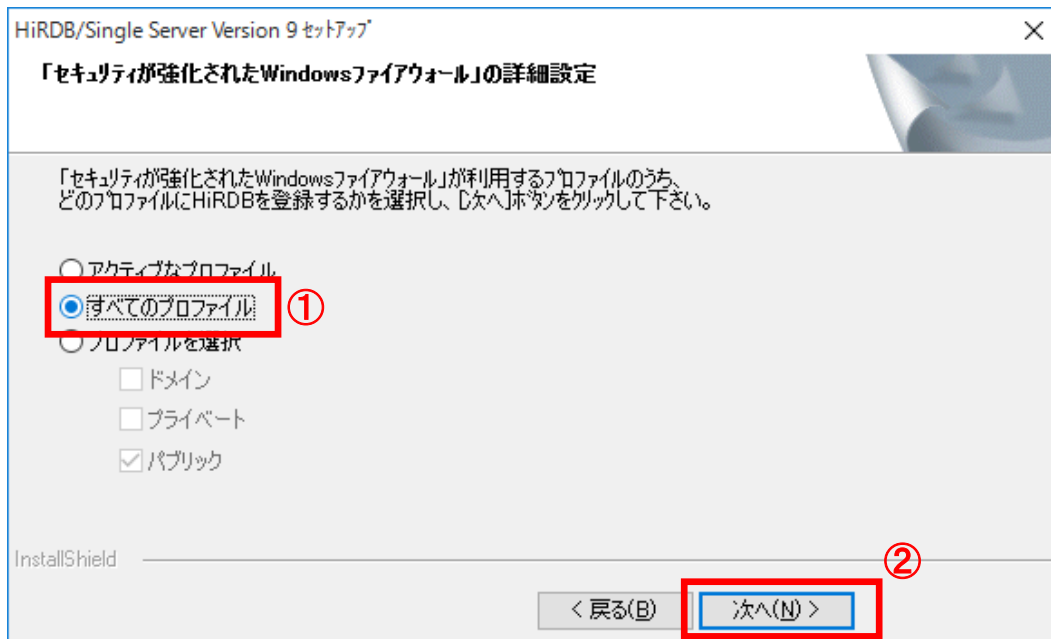
14) [Windows ファイアウォールへの登録] 画面で、

- ① 「例外リストに登録する」 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] の詳細設定を行う。] チェックボックスをクリックします (チェックが付きます)
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

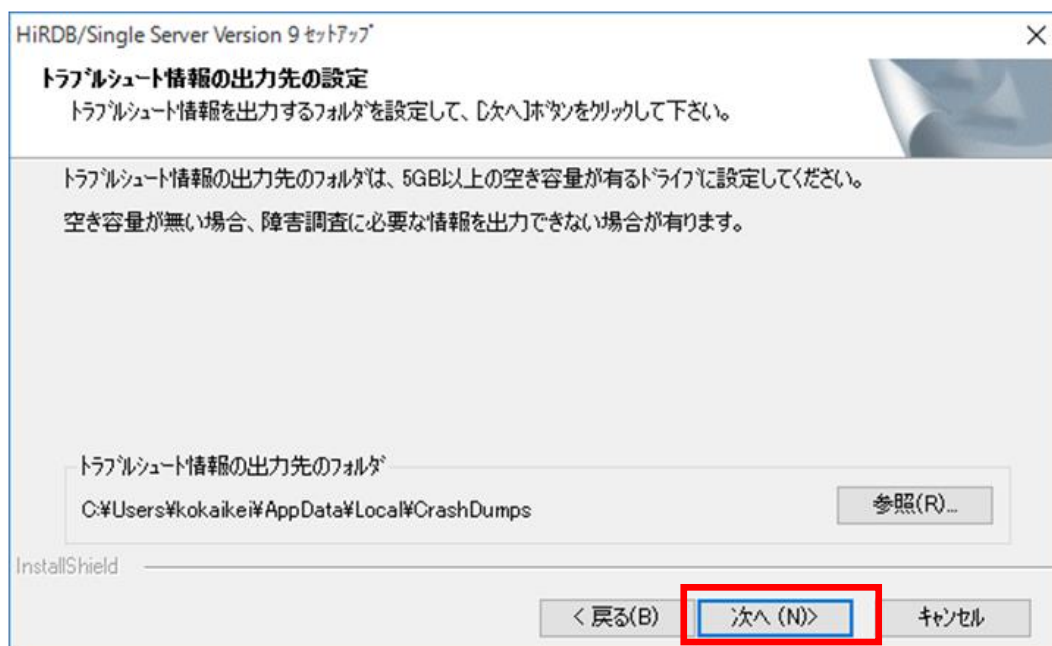


15) [「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」の詳細設定] 画面で、

- ① 「すべてのプロファイル」 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。

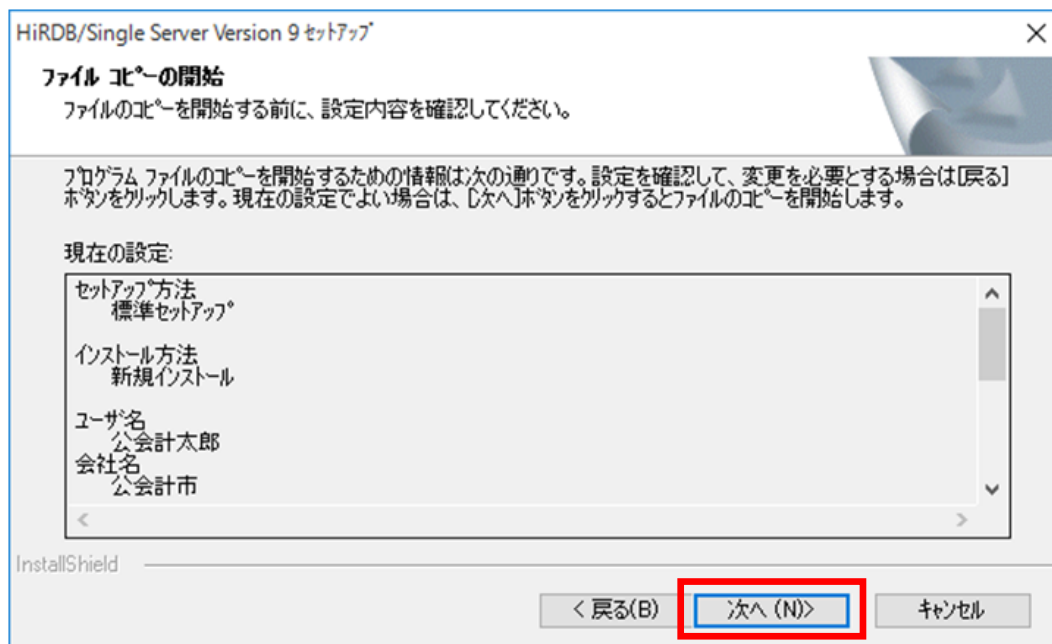


- 16) [トラブルシューティング情報出力先の設定] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



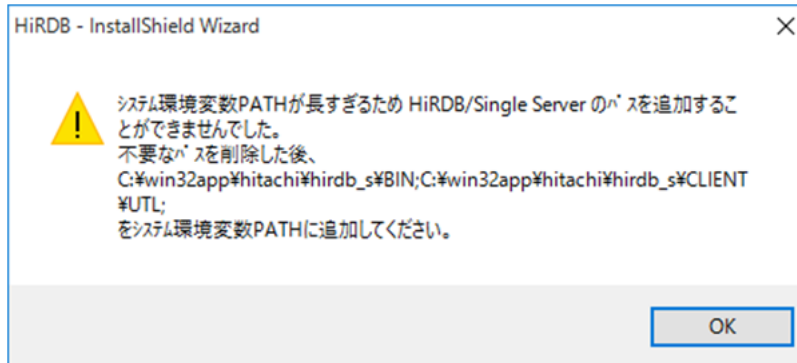
(注) トラブルシューティング情報の出力先のフォルダは、デフォルト値（初期値）から変更しないでください。

- 17) [ファイルコピーの開始] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



(注) ここで表示されるユーザー名と会社名は、2.2 節の項番 11) で入力したユーザー名と会社名になります。

- 18) HiRDB のインストールが開始されます。

(注) HiRDB のインストールの途中で以下の画面が表示された場合

HiRDB のインストール時にシステム環境変数 PATH に自動的にパスが追加されますが、システム環境変数 PATH が長すぎる場合（過去に他システムが稼働していた環境を流用した場合等に発生することがあります）は、上記の画面にて警告が表示され、自動的に追加されません。

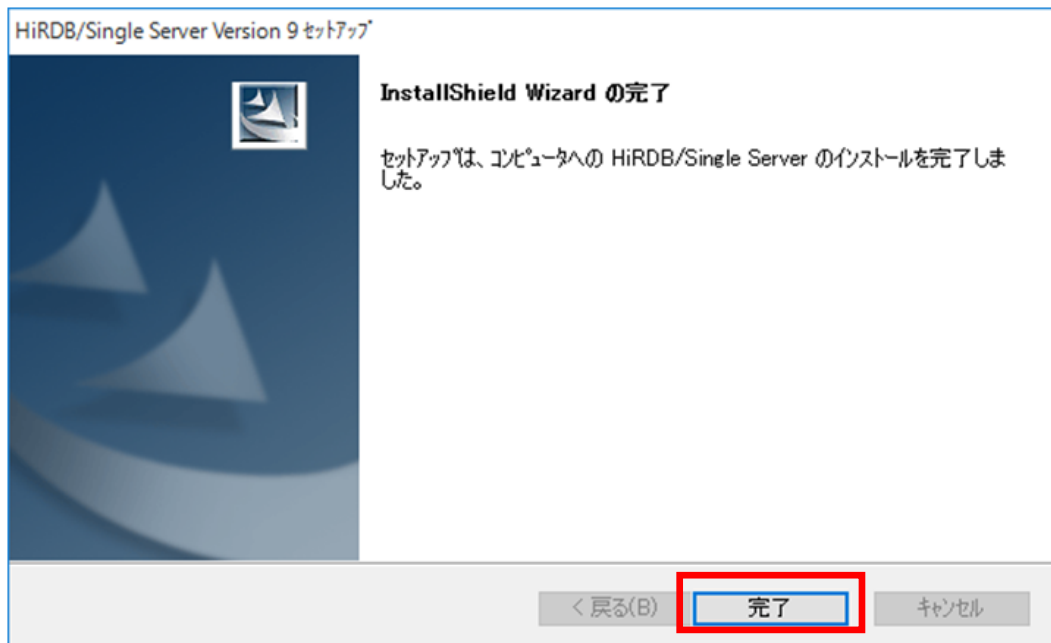
そのため、過去に他システムが稼働していた環境を流用する場合は、OS を再インストールし、新規で OS をインストールした直後の状態と同等とした上で、再度インストールを実施ください。

OS 再インストールが不可能な場合は、手動でシステム環境変数 PATH から不要なパスを削除した後、以下のパスを追加してください。

C:\win32app\hitachi\hirdb_s\BIN;C:\win32app\hitachi\hirdb_s\CLIENT\UTL;

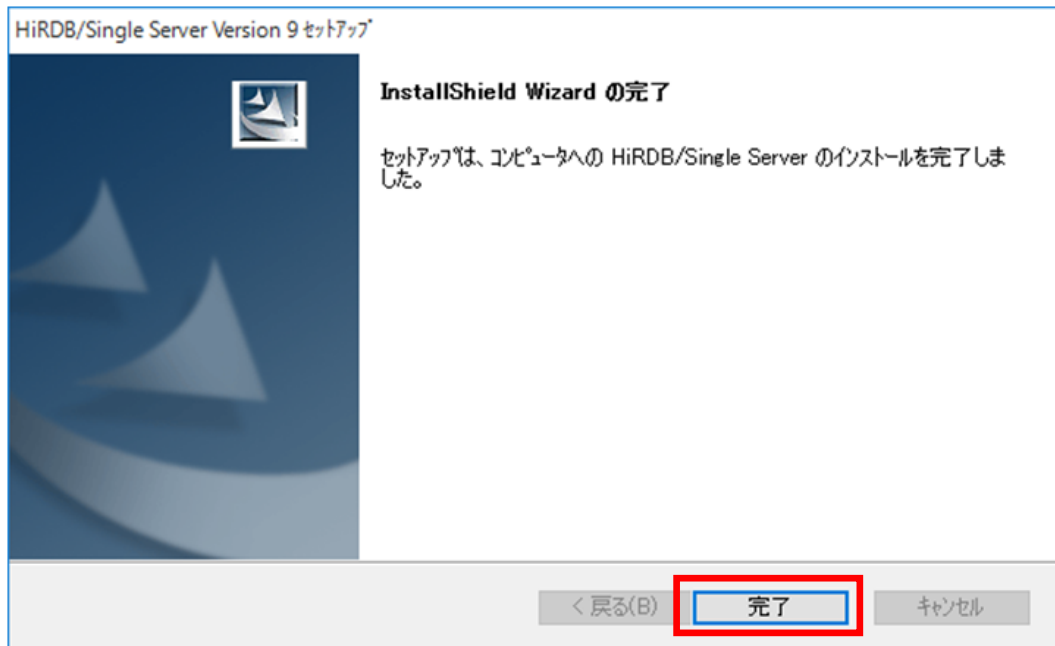
手動でシステム環境変数 PATH にパスを追加する手順は、付録 C をご参照ください。

- 19) [InstallShield Wizard の完了] 画面で、[完了] ボタンをクリックします。

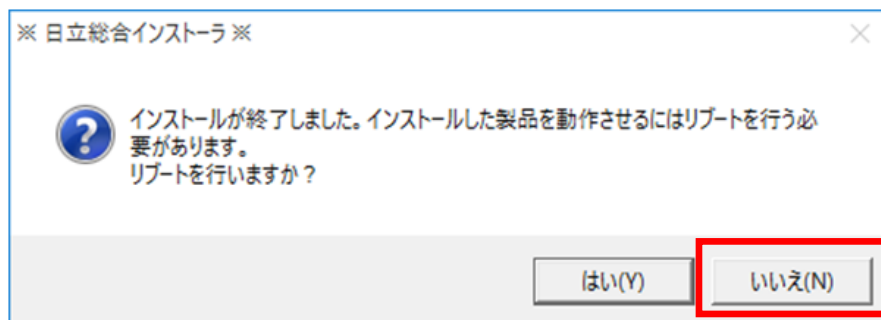


2.2 HiRDB Server Version 9 のインストール

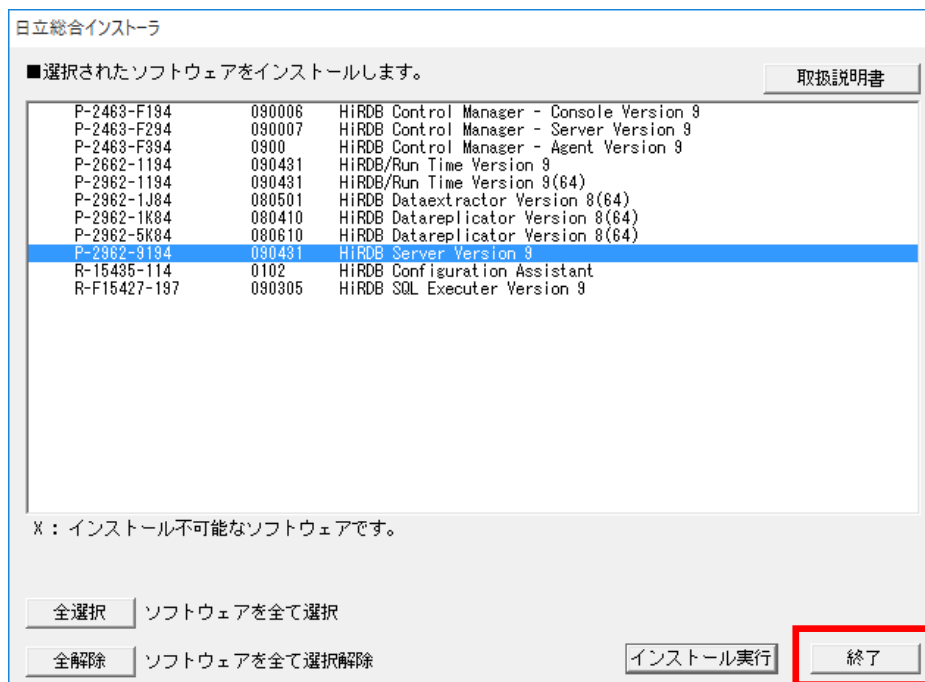
20) [InstallShield Wizard の完了] 画面で、[完了] ボタンをクリックします。



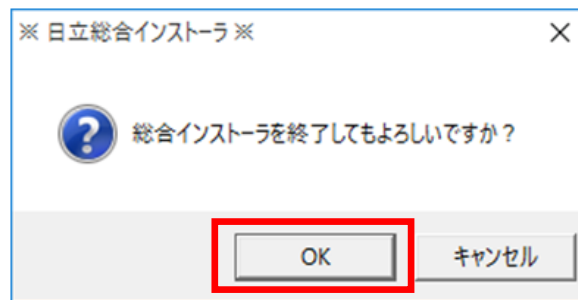
21) リポート画面で、[いいえ] ボタンをクリックします。



22) [日立総合インストーラ] 画面で、[終了] ボタンをクリックします。



23) 終了メッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。

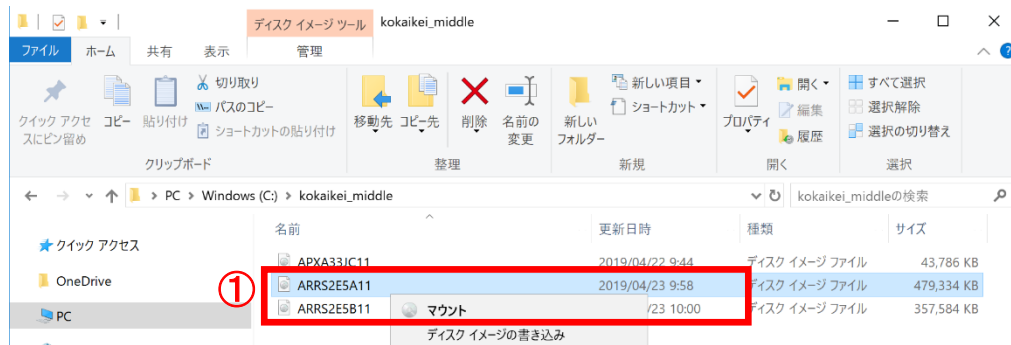


2.3 COBOL2002 のインストール

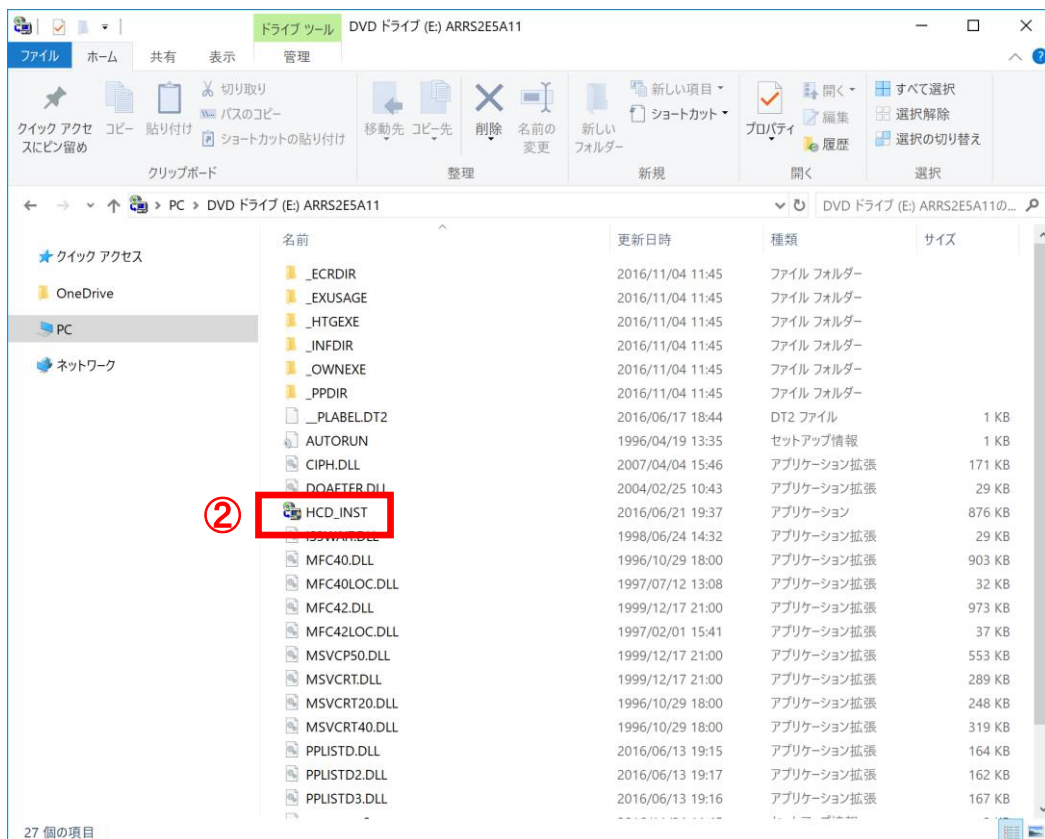
ここでは、COBOL2002 のインストール方法について説明します。

1) 地方公会計向け前提ミドルウェアを基本版地方公会計向け前提ミドルウェアダウンロードサイトから ISO イメージファイルで入手した場合は、

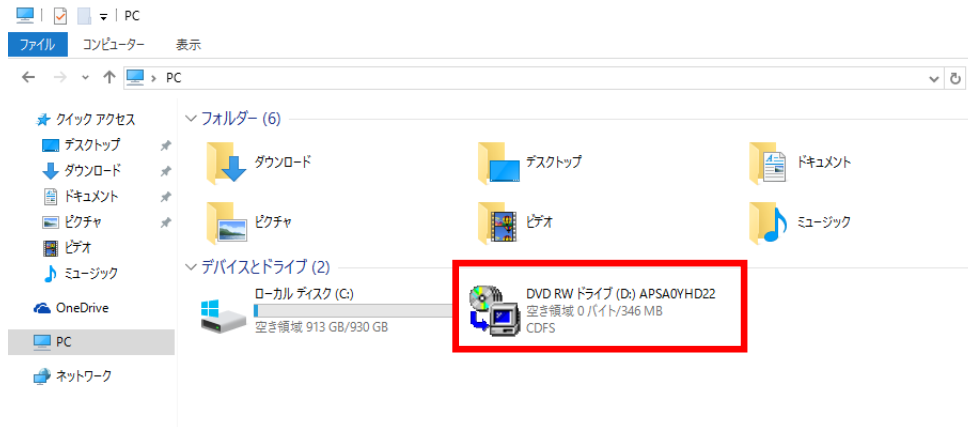
- ① 「ARRS2E5A11」又は「ARRS2E5A11.iso」を選択した状態で右クリックし、[マウント]をクリックします。



- ② ドライブとして認識された「ARRS2E5A11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合は、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM を CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブに挿入すると、[日立総合インストーラ] 画面が開きます。自動的に開かない場合は、エクスプローラー（キーボードの [Windows] キーを押しながら [E] キーを押すと起動します。）を開き、そこで表示される [PC] 下の CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブをダブルクリックします。それでも [日立総合インストーラ] 画面が開かない場合は、「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。

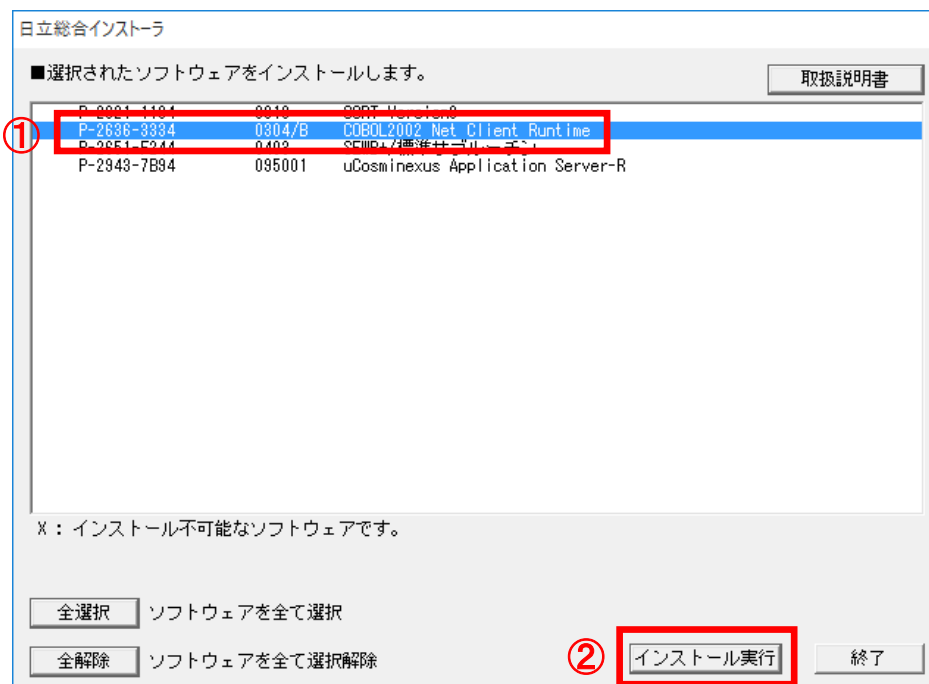


2) [ユーザアカウント制御] 画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。

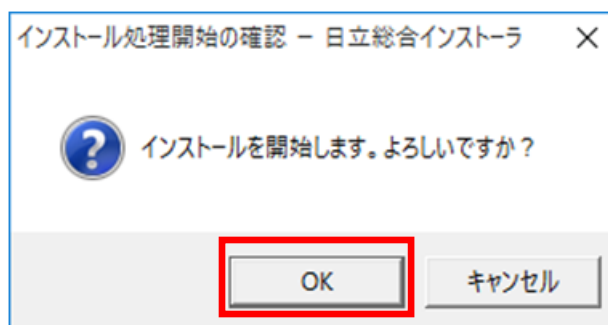
3) [日立総合インストーラ] 画面で、

- ① [COBOL2002 Net Client Runtime] を選択します。
- ② [インストール実行] ボタンをクリックします。

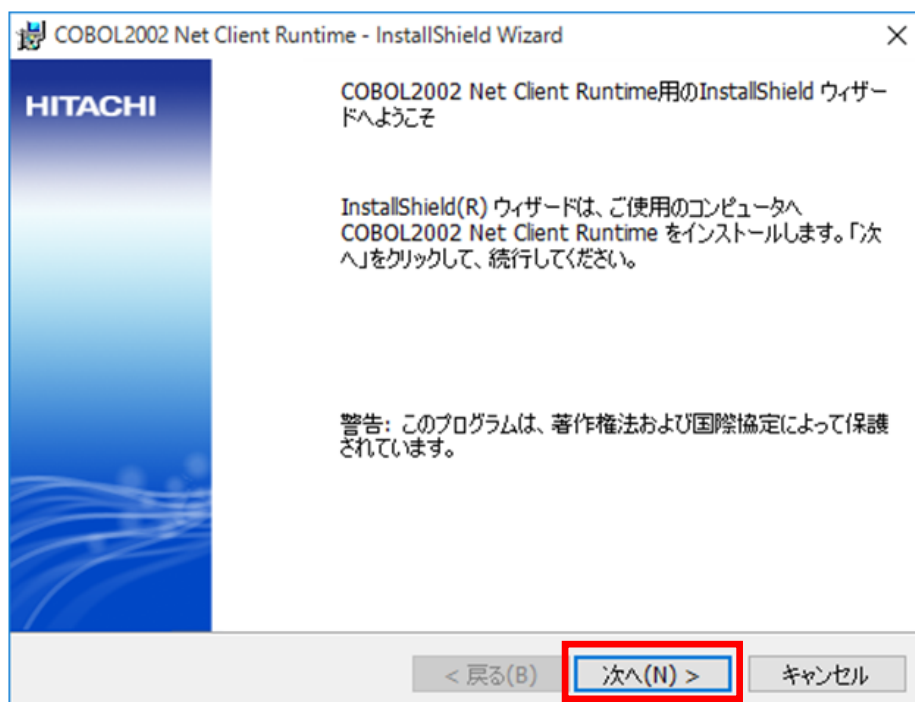
地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合で、かつ、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM が複数枚ある場合は、何れかのインストール CD-ROM の総合インストーラに [COBOL2002 Net Client Runtime] が含まれていますので、探してください。



- 4) [インストール処理開始の確認] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



- 5) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



6) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「ユーザ名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [会社名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「会社名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

COBOL2002 Net Client Runtime - InstallShield Wizard

ユーザ情報
情報を入力してください。

HITACHI

① ユーザ名(U):
公会計太郎

② 会社名(C):
公会計市

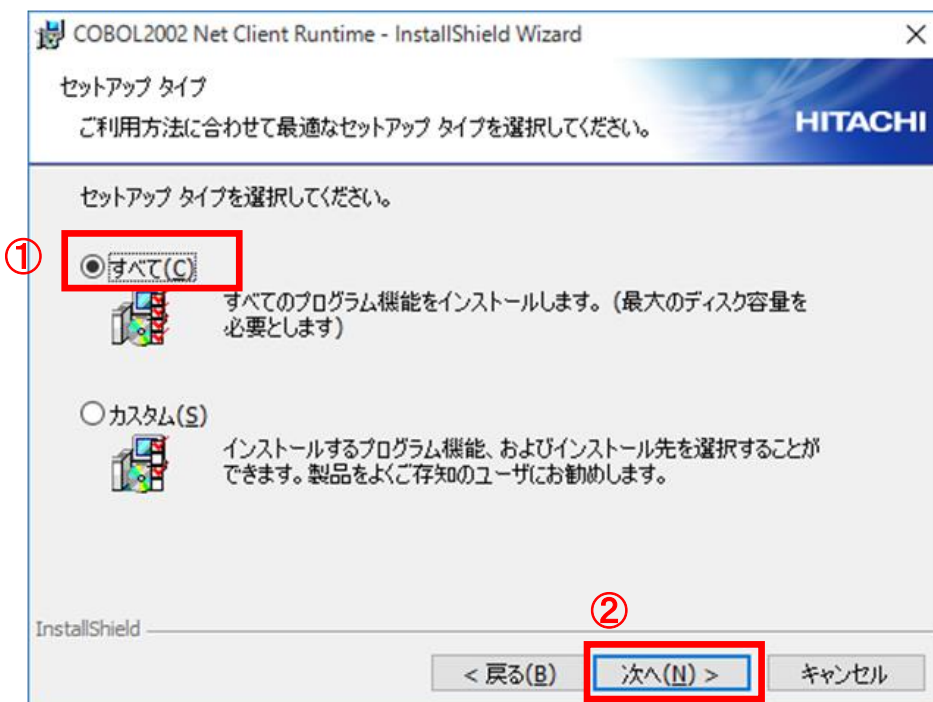
InstallShield

③ 次へ(N) >

< 戻る(B) キャンセル

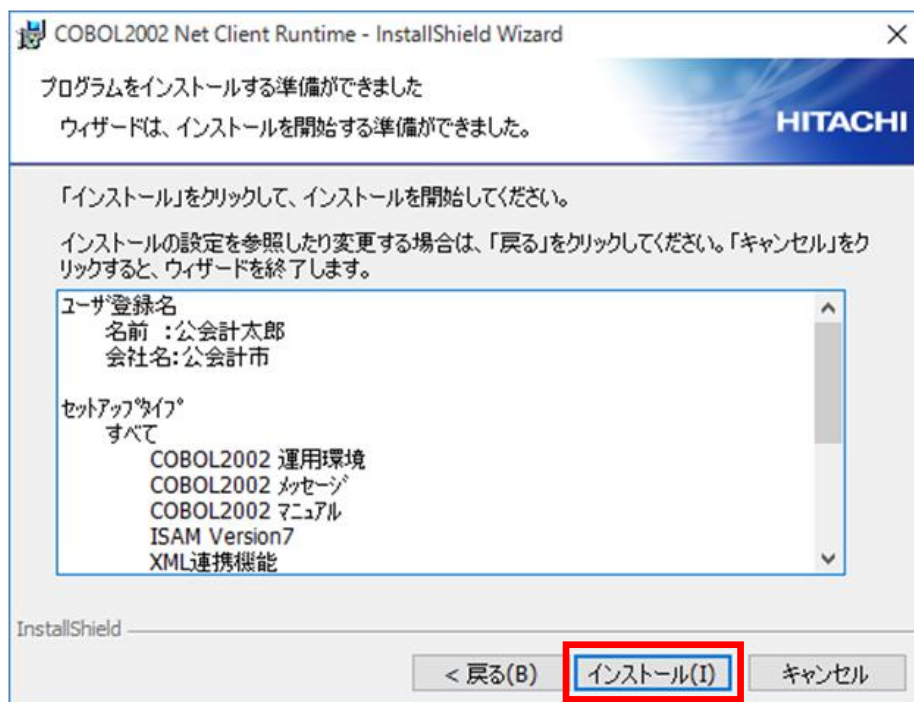
7) [セットアップタイプ] 画面で、

- ① [すべて] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。



(注) インストール先のフォルダは「C:\Program Files (x86)\Hitachi\COBOL2002」が推奨です。インストール先のフォルダを変更する場合は、[カスタム] 欄ラジオボタンを選択して任意のインストールフォルダを設定してください。

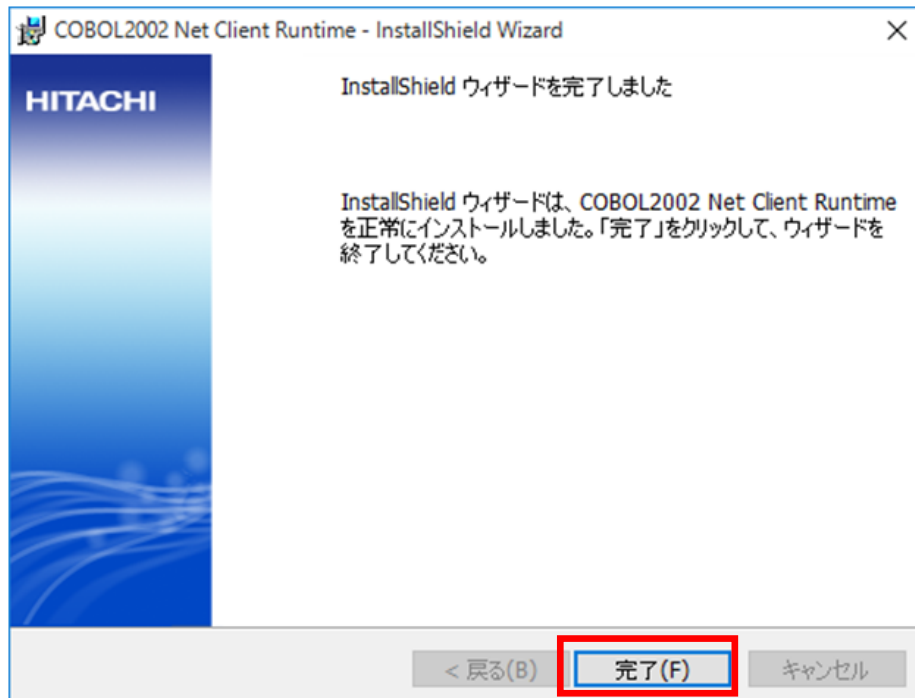
8) [プログラムをインストールする準備ができました] 画面で、[インストール] ボタンをクリックします。



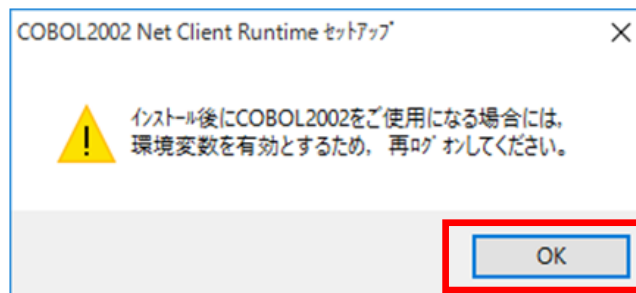
(注) ここで表示されるユーザ名と会社名は、2.3 節の項番 6)で入力したユーザ名と会社名になります。

す。

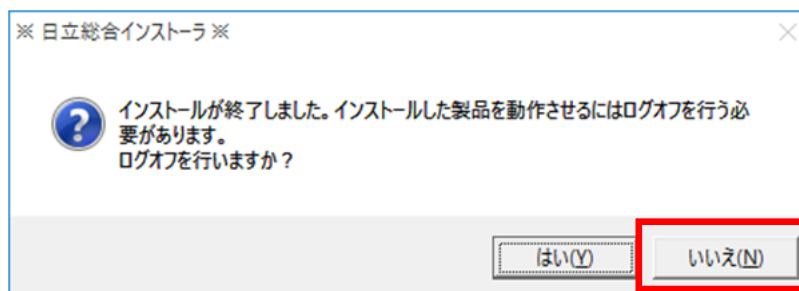
- 9) セットアップの完了画面で、[完了] ボタンをクリックします。



- 10) 再ログインメッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。



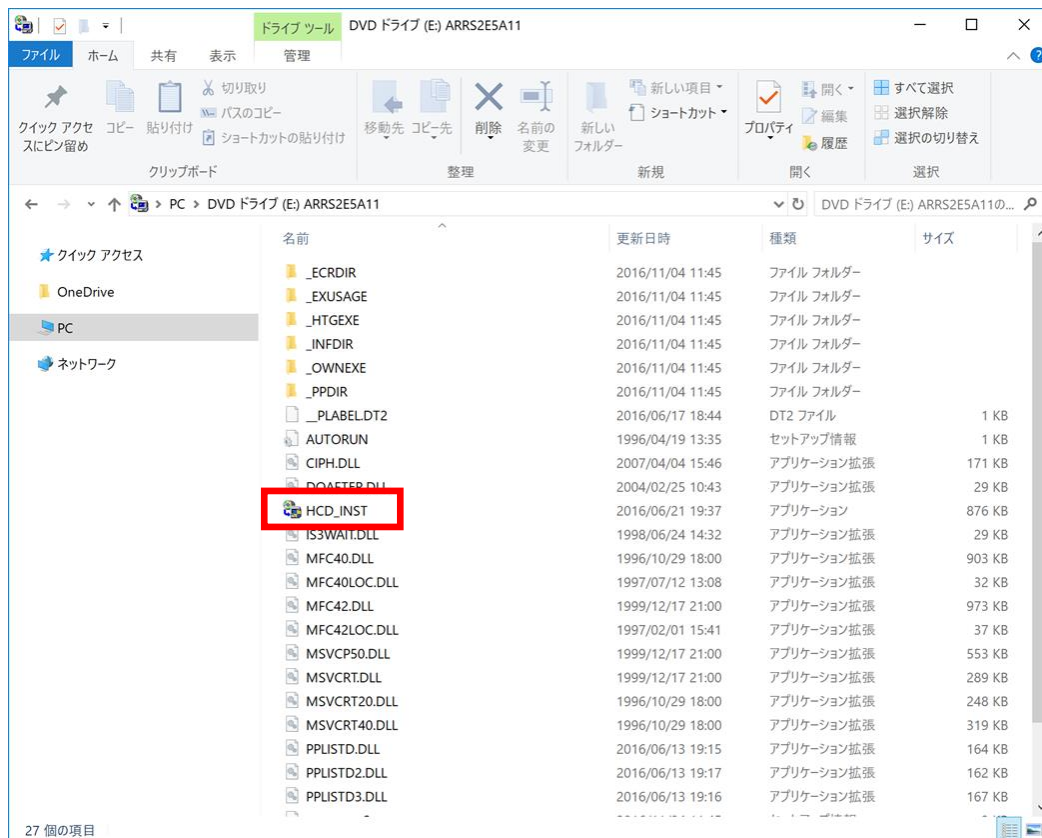
- 11) ログオフメッセージ画面で、[いいえ] ボタンをクリックします。



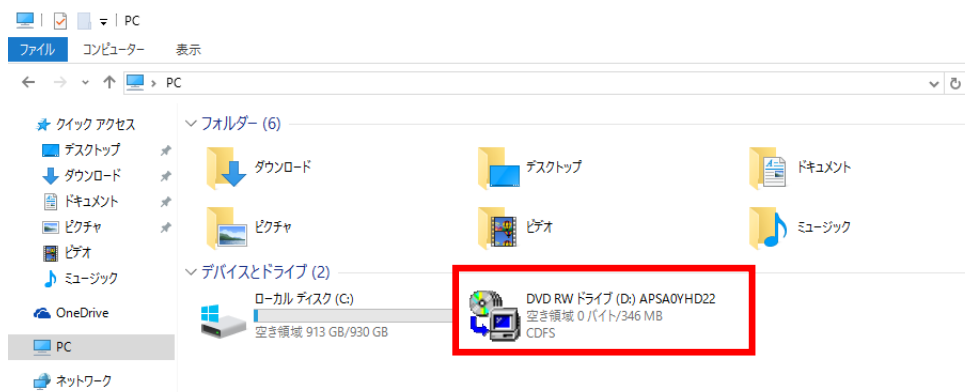
2.4 SORT のインストール

ここでは、SORT のインストール方法について説明します。

- 1) 地方公会計向け前提ミドルウェアを基本版地方公会計向け前提ミドルウェアダウンロードサイトから ISO イメージファイルで入手した場合は、ドライブとして認識されている「ARRS2E5A11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。

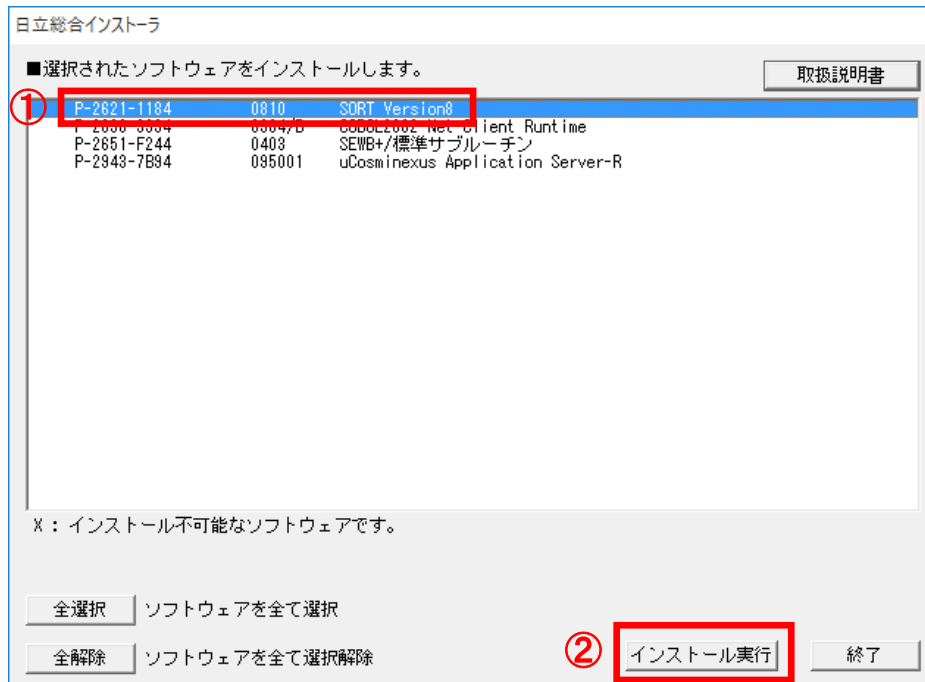


地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合は、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM を CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブに挿入すると、[日立総合インストーラ] 画面が開きます。自動的に開かない場合は、エクスプローラー（キーボードの [Windows] キーを押しながら [E] キーを押すと起動します。）を開き、そこで表示される [PC] 下の CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブをダブルクリックします。それでも [日立総合インストーラ] 画面が開かない場合は、「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。

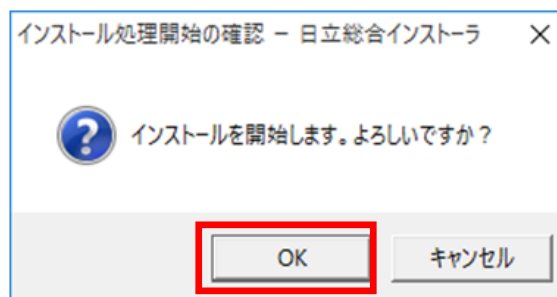


- 2) [ユーザアカウント制御] 画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- 3) [日立総合インストーラ] 画面で、
- ① [SORT Version8] を選択します。
 - ② [インストール実行] ボタンをクリックします。

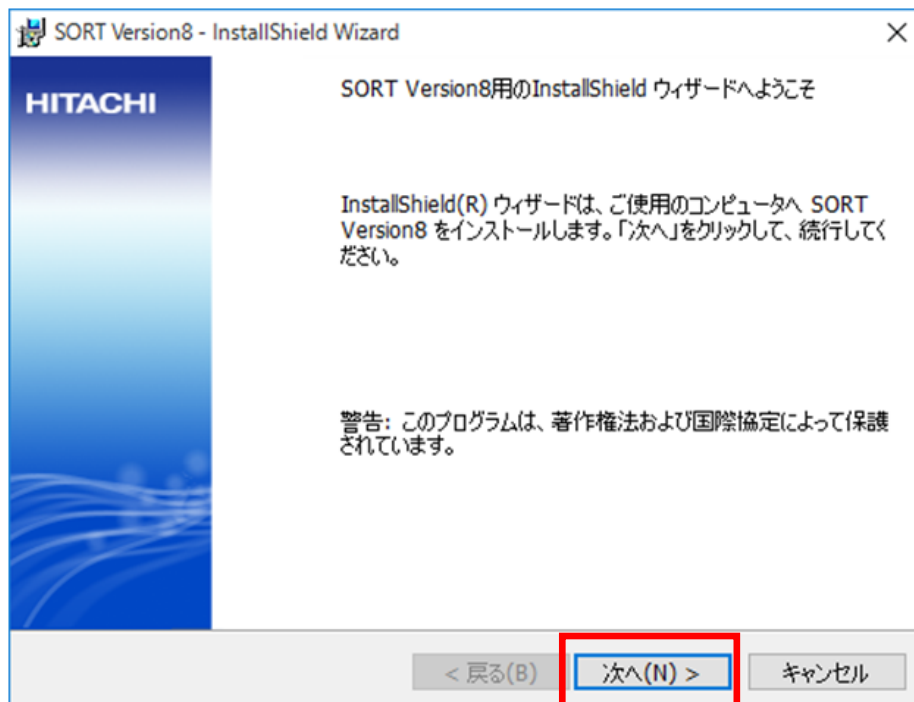
地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合で、かつ、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM が複数枚ある場合は、何れかのインストール CD-ROM の総合インストーラに [SORT Version8] が含まれていますので、探してください。



- 4) [インストール処理開始の確認] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



5) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

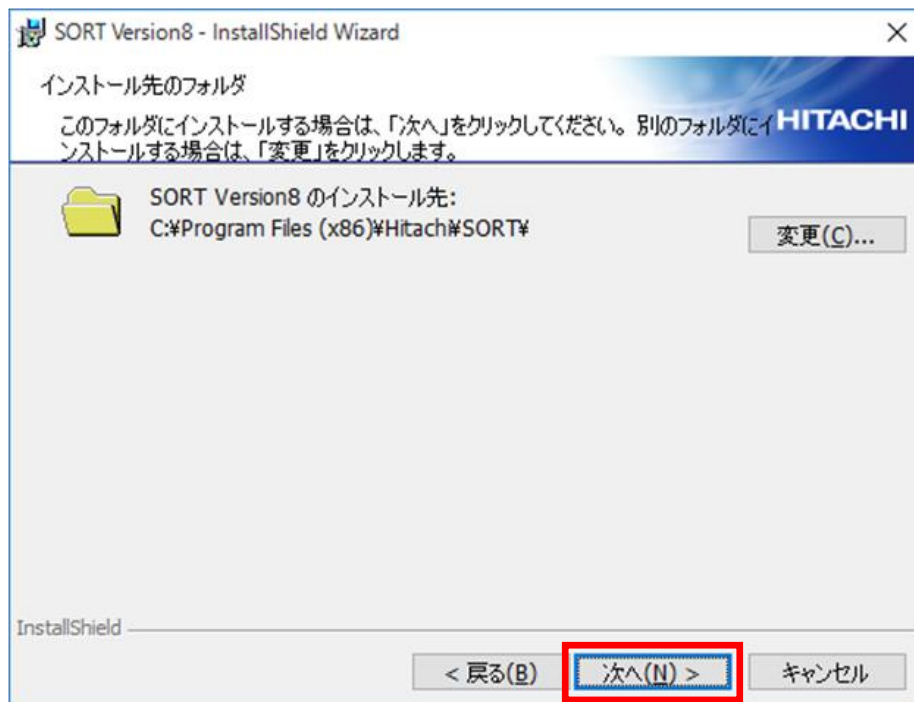


6) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「ユーザ名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [所属] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「会社名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

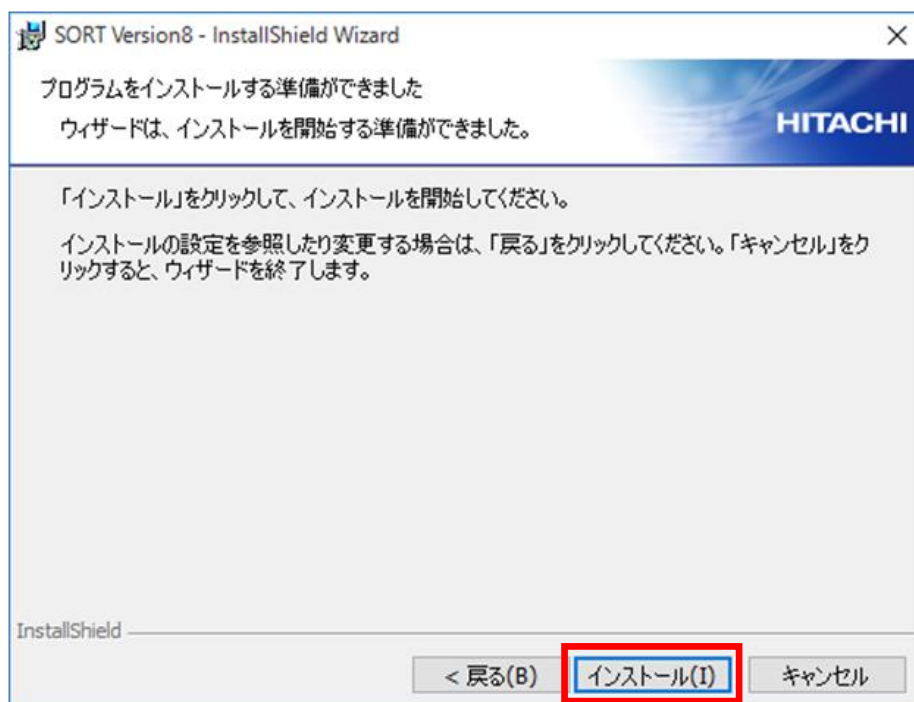


- 7) [インストール先のフォルダ] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

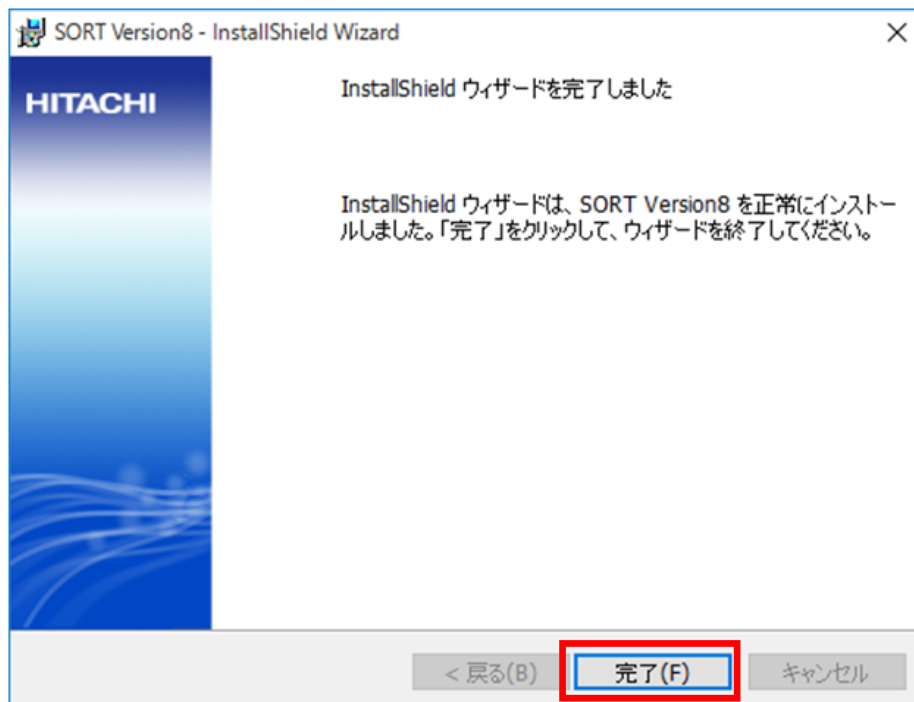


(注) インストール先のフォルダは、「C:\Program Files (x86)\Hitachi\SORT\」が推奨です。インストール先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックして任意のインストール先のフォルダを設定してください。

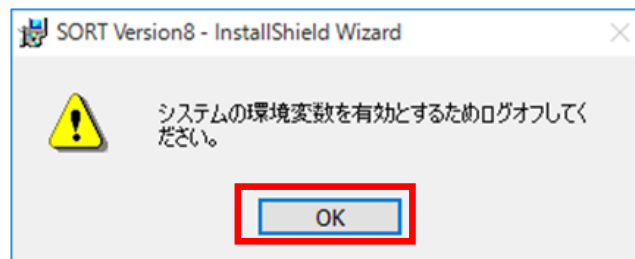
- 8) [プログラムをインストールする準備ができました] 画面で、[インストール] ボタンをクリックします。



9) セットアップの完了画面で、[完了] ボタンをクリックします。

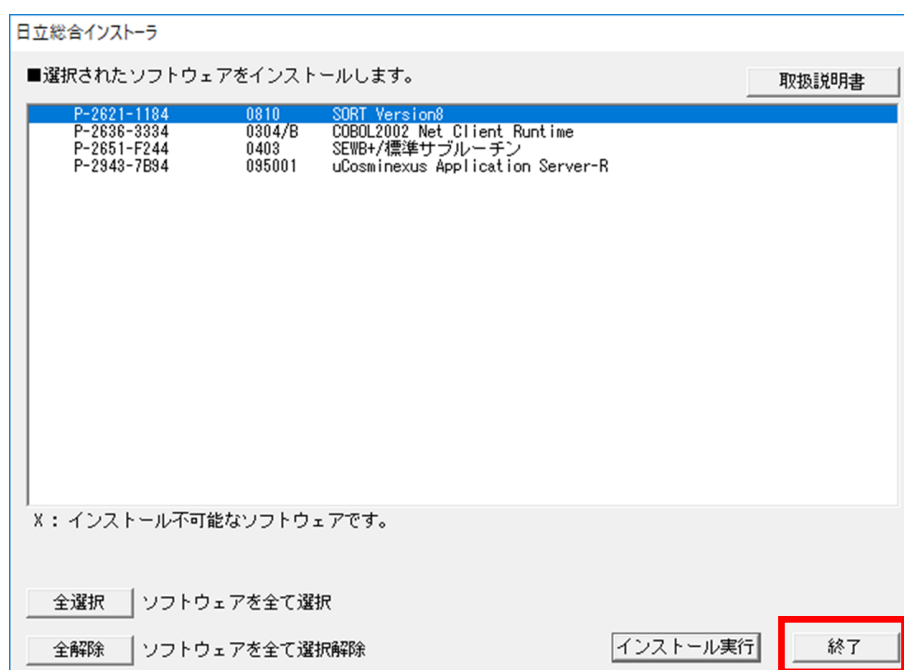


10) ログオフメッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。

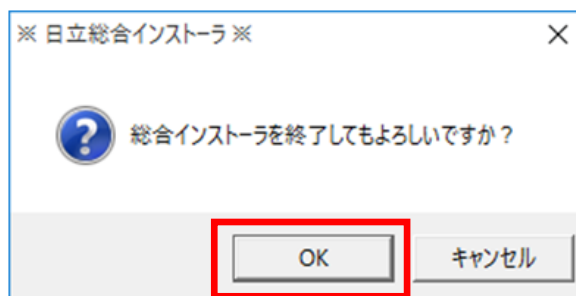


(注) [OK] ボタンをクリックしても自動的にログオフされませんが、ここではログオフする必要はありません。

11) [日立総合インストーラ] 画面で、[終了] ボタンをクリックします。



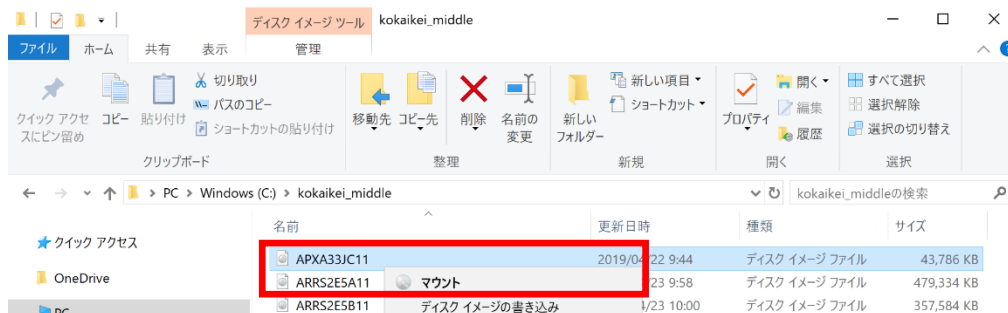
12) 終了メッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。



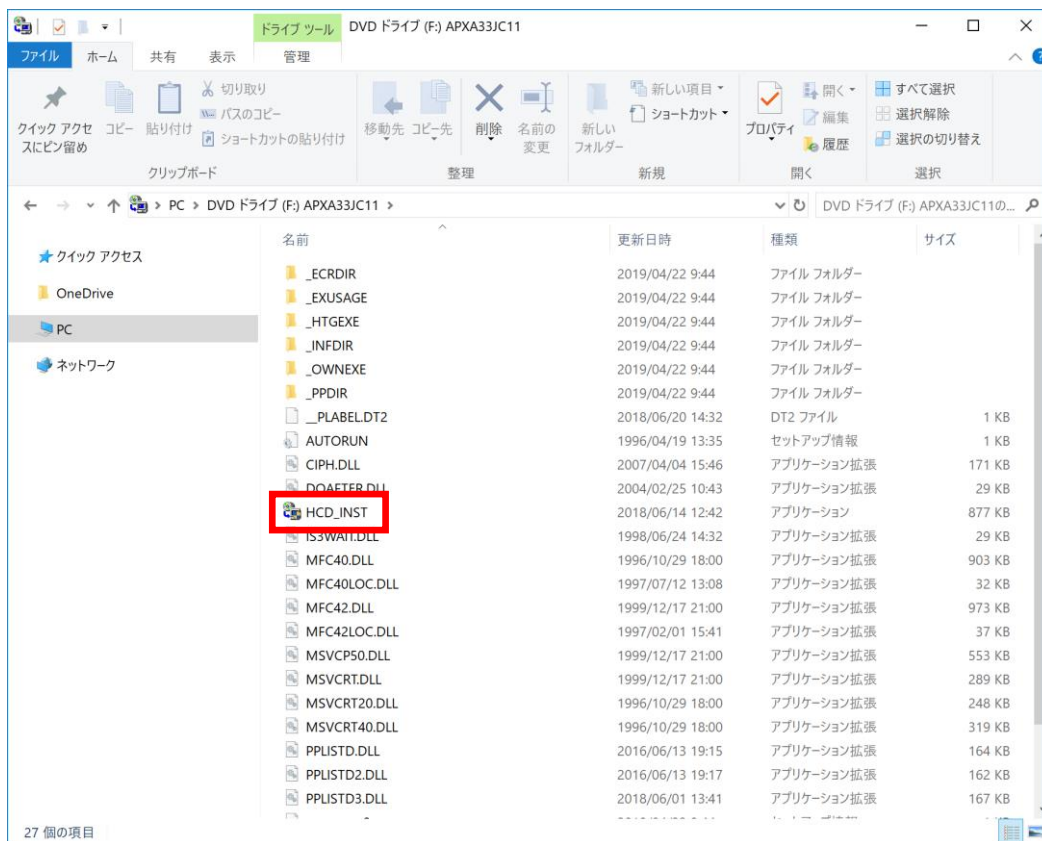
2.5 SEWB+/標準サブルーチンのインストール

ここでは、SEWB+/標準サブルーチンのインストール方法について説明します。

- 1) 地方公会計標準ソフトウェア配布用 Web サイトの「地方公会計標準ソフトウェアダウンロード」画面から ISO イメージファイルで入手した**元号対応版**地方公会計向け前提ミドルウェア「APXA33JC11」又は「APXA33JC11.iso」を選択した状態で**右クリック**し、「マウント」をクリックします。



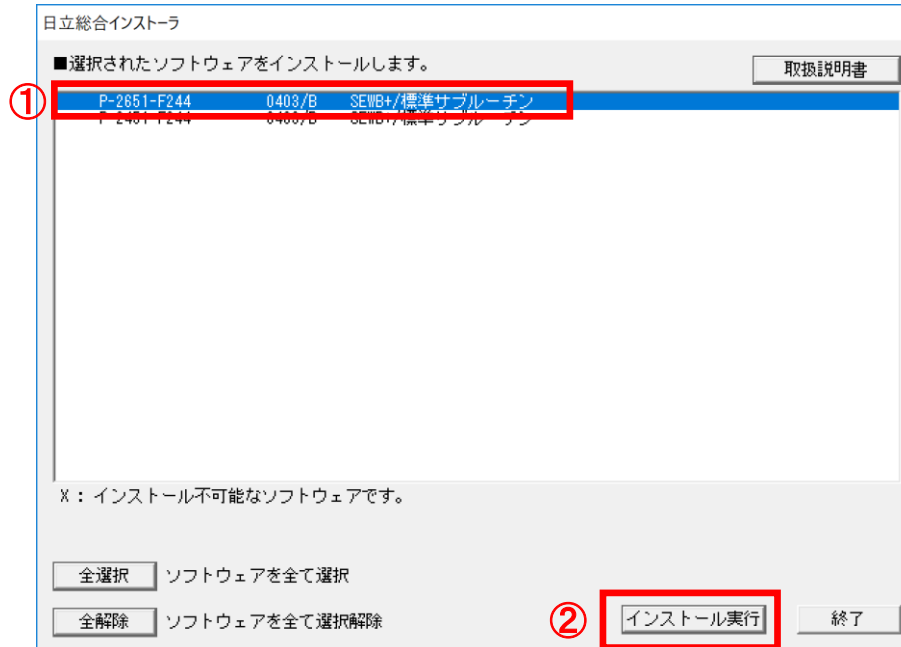
- 2) ドライブとして認識された「APXA33JC11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



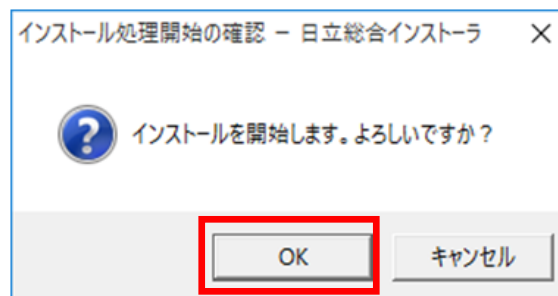
- 3) 「ユーザアカウント制御」画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。

4) [日立総合インストーラ] 画面で、

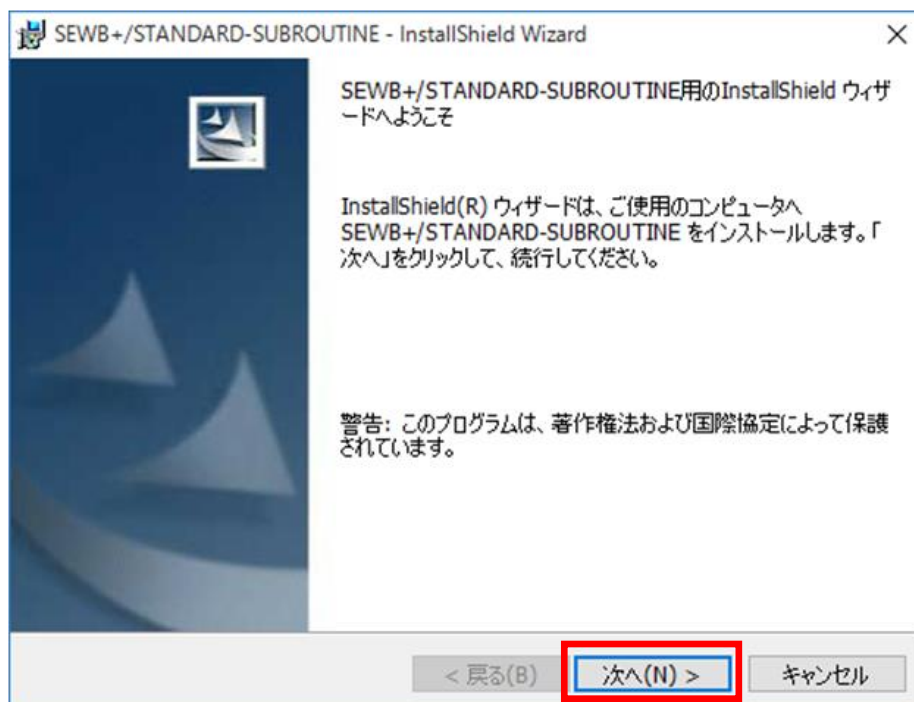
- ① [SEWB+/標準サブルーチン] を選択します。先頭に”P-2651-F244”が付いた方を選択してください。
- ② [インストール実行] ボタンをクリックします。



5) [インストール処理開始の確認] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。

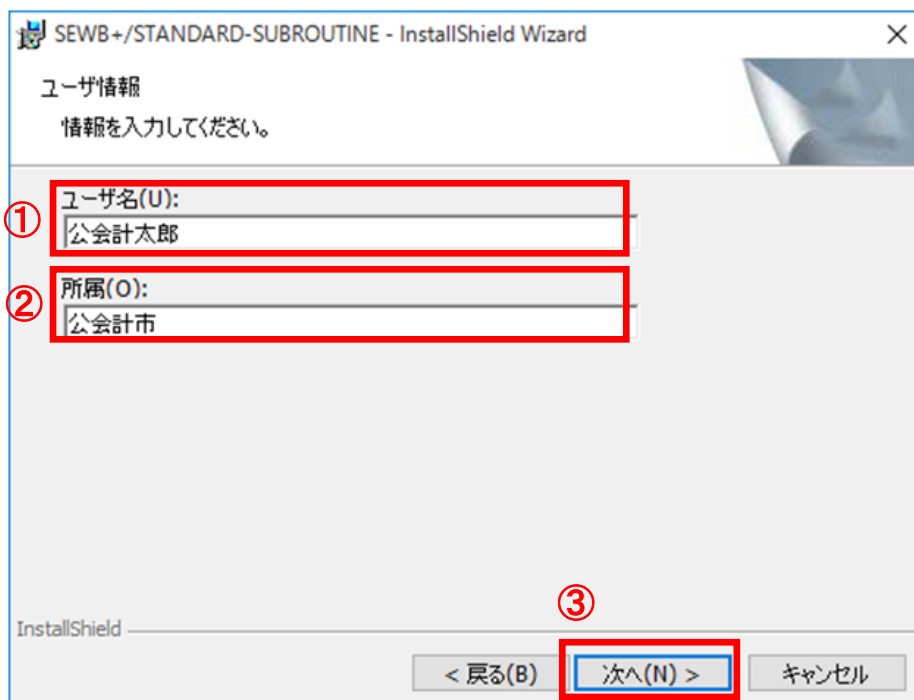


6) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

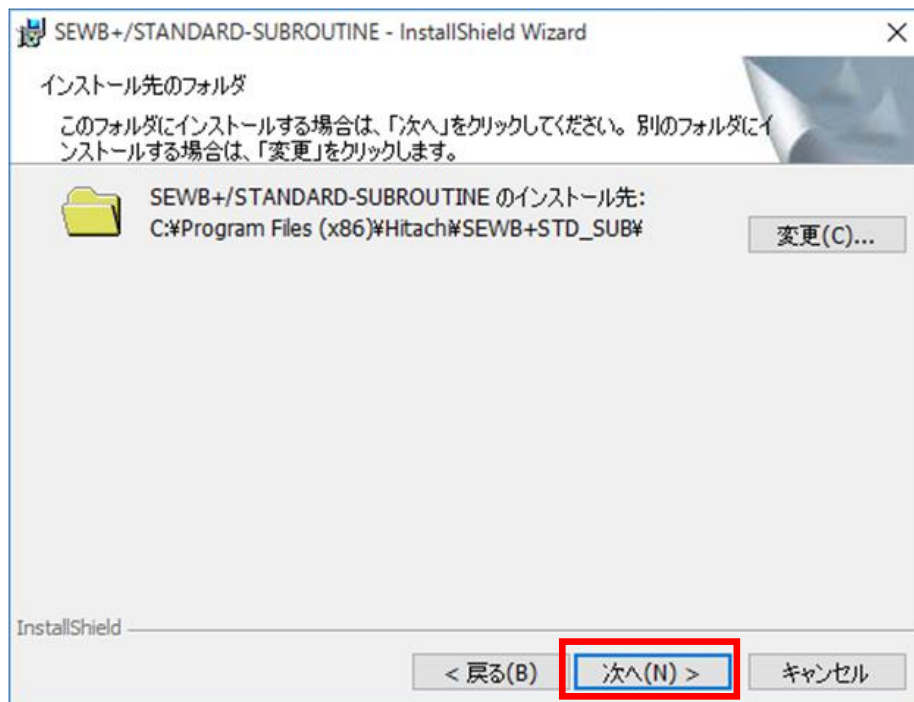


7) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「ユーザ名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [所属] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「会社名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

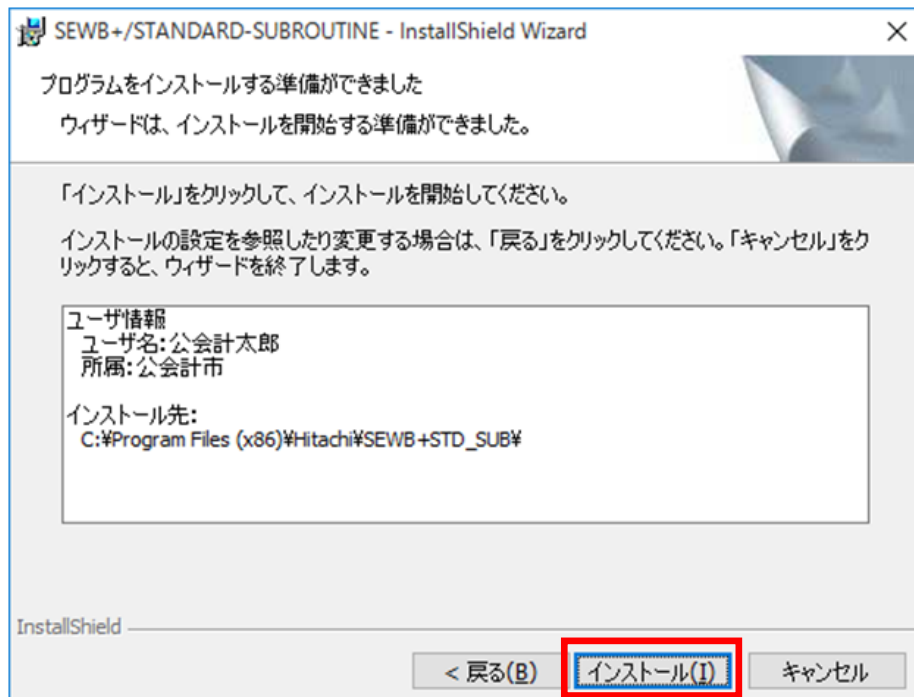


- 7) [インストール先のフォルダ] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



(注) インストール先のフォルダは、「C:\Program Files (x86)\Hitachi\SEWB+STD SUB\」が推奨です。インストール先のフォルダを変更する場合は、[変更] ボタンをクリックして任意のインストール先のフォルダを設定してください。

- 8) [プログラムをインストールする準備ができました] 画面で、[インストール] ボタンをクリックします。



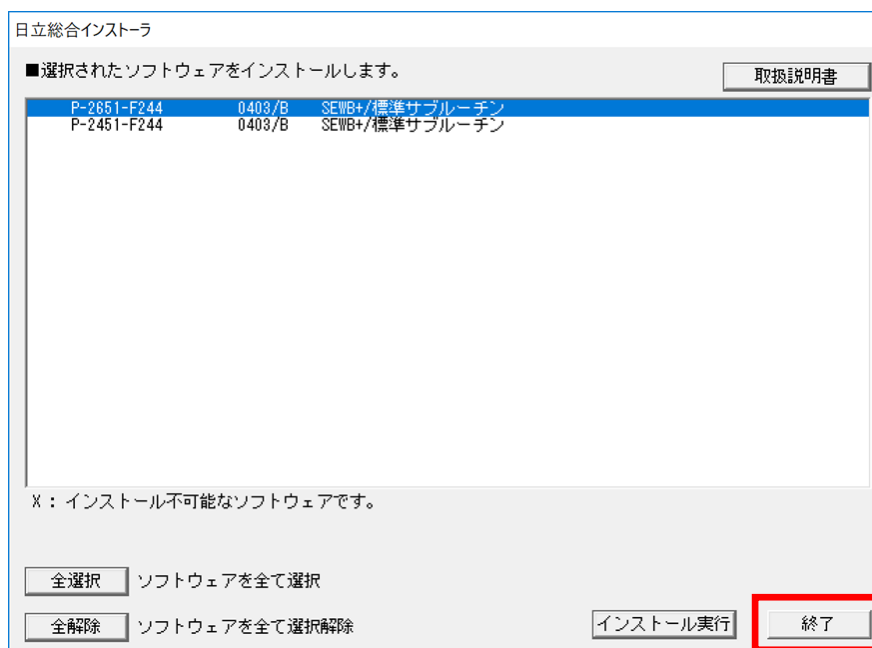
(注) ここで表示されるユーザ名と所属は、2.5 節の項番 6)で入力したユーザ名と会社名になります。

2.5 SEWB+/標準サブルーチンのインストール

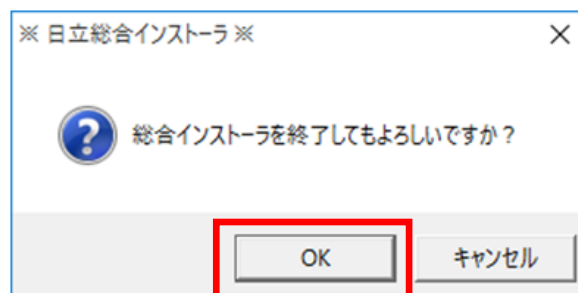
9) セットアップの完了画面で、[完了] ボタンをクリックします。



10) [日立総合インストーラ] 画面で、[終了] ボタンをクリックします。



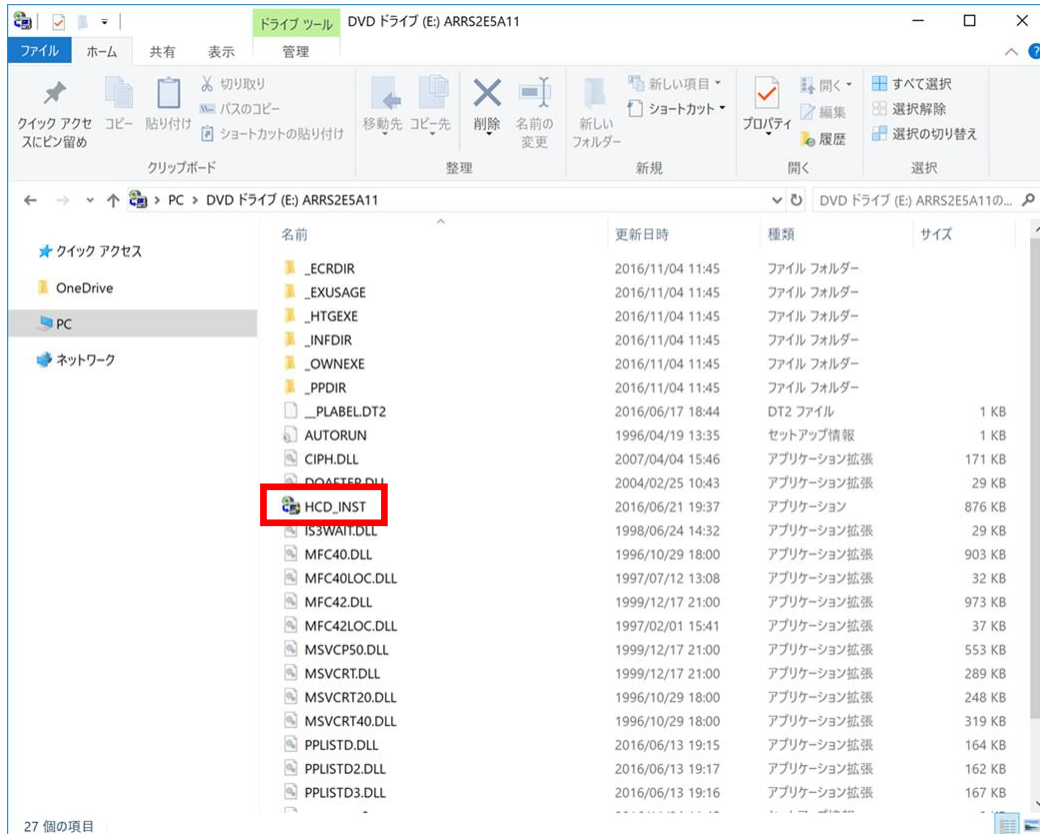
11) 終了メッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。



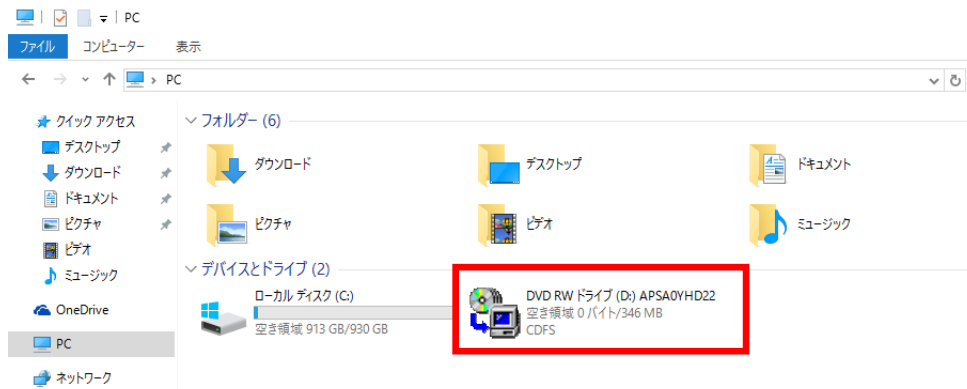
2.6 uCosminexus Application Server のインストール

ここでは、uCosminexus Application Server のインストール方法について説明します。

- 1) 地方公会計向け前提ミドルウェアを基本版地方公会計向け前提ミドルウェアダウンロードサイトから ISO イメージファイルで入手した場合は、ドライブとして認識されている「ARRS2E5A11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合は、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM を CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブに挿入すると、[日立総合インストーラ] 画面が開きます。自動的に開かない場合は、エクスプローラー（キーボードの [Windows] キーを押しながら [E] キーを押すと起動します。）を開き、そこで表示される [PC] 下の CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブをダブルクリックします。それでも [日立総合インストーラ] 画面が開かない場合は、「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



2.6 uCosminexus Application Server のインストール

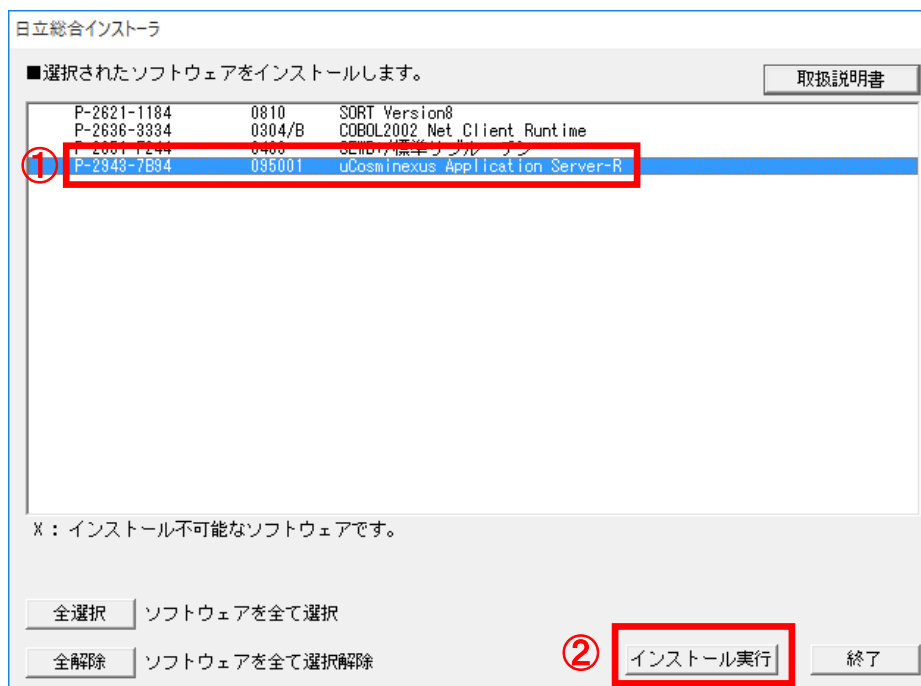
2) [ユーザアカウント制御] 画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。

3) [日立総合インストーラ] 画面で、

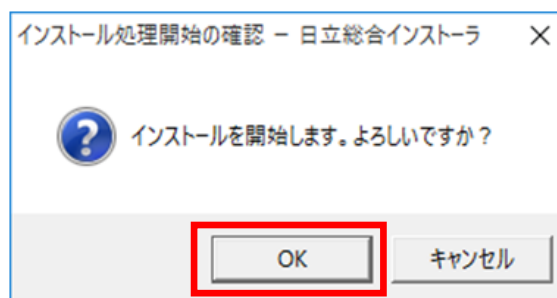
① [uCosminexus Application Server-R] を選択します。

② [インストール実行] ボタンをクリックします。

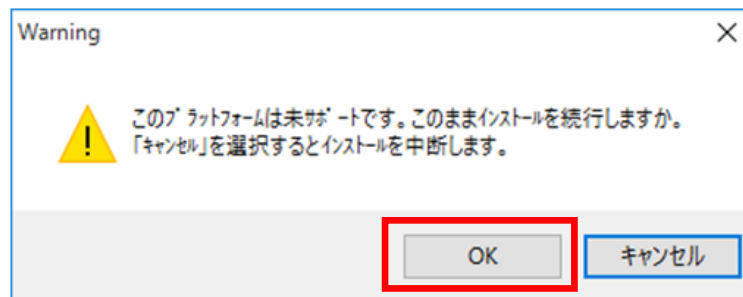
地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合で、かつ、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM が複数枚ある場合は、何れかのインストール CD-ROM の総合インストーラに [uCosminexus Application Server-R] が含まれていますので、探してください。



4) [インストール処理開始の確認 - 日立総合インストーラ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



5) [Warnig] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。

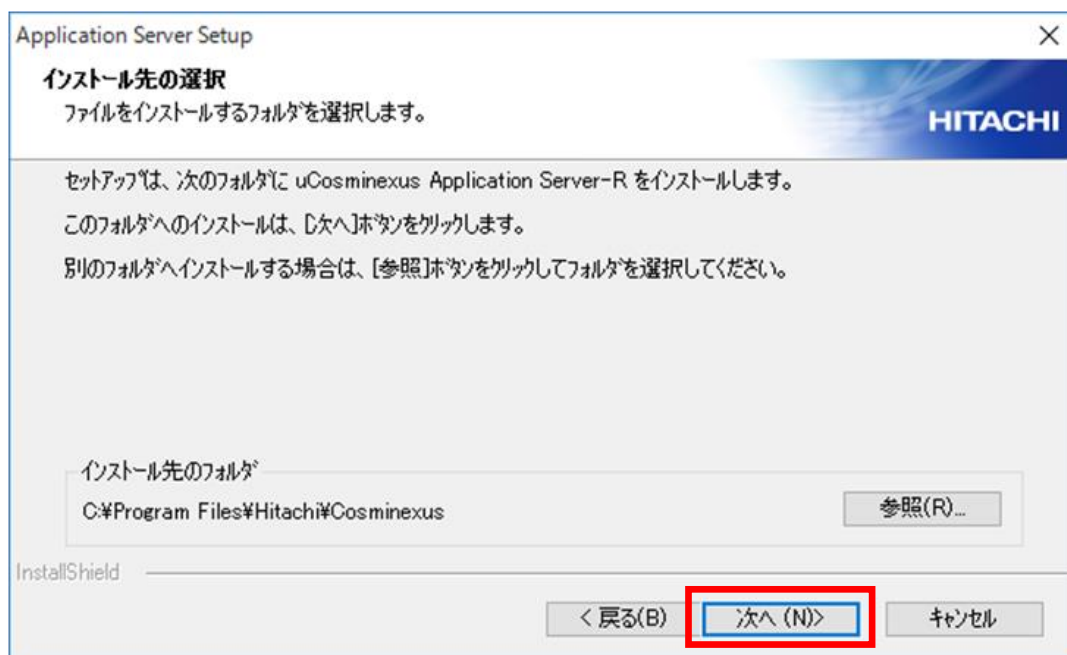


(注) 「このプラットフォームは未サポートです。」のメッセージが表示されますが、インストール及び地方公会計標準ソフトウェアの操作には影響ありません。

6) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

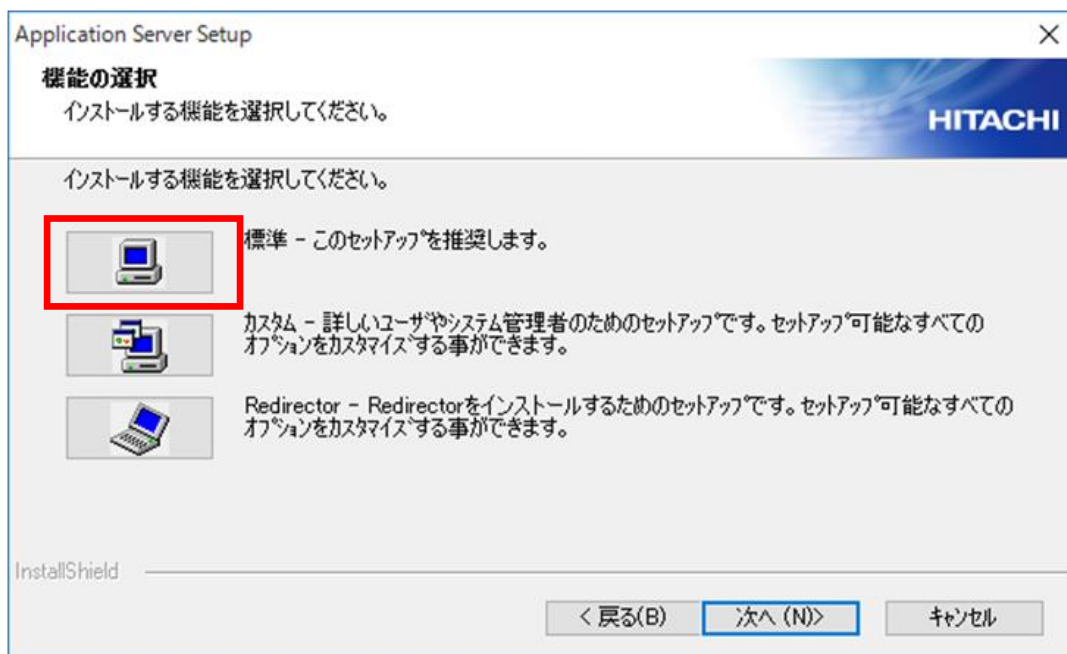


- 7) [インストール先の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



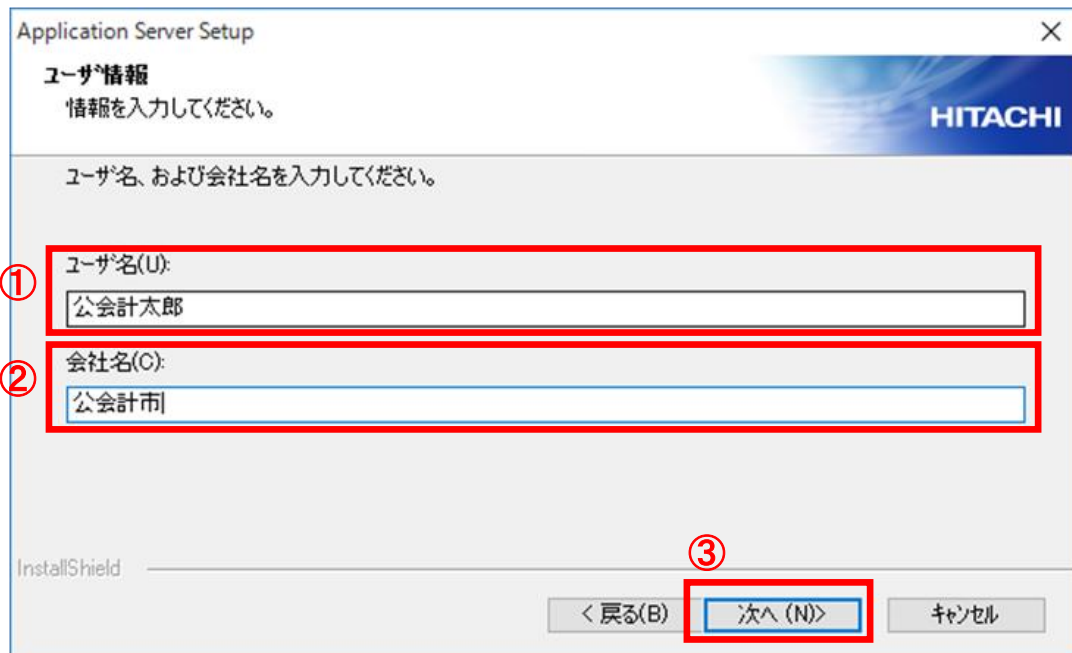
(注) インストール先のフォルダは、「C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus」が推奨です。インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックして任意のインストール先のフォルダを設定してください。

- 8) [機能の選択] 画面で、[標準 - このセットアップを推奨します。] の左にあるボタンをクリックします。



9) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「ユーザ名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [会社名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「会社名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。



Application Server Setup

ユーザ情報
情報を入力してください。

ユーザ名、および会社名を入力してください。

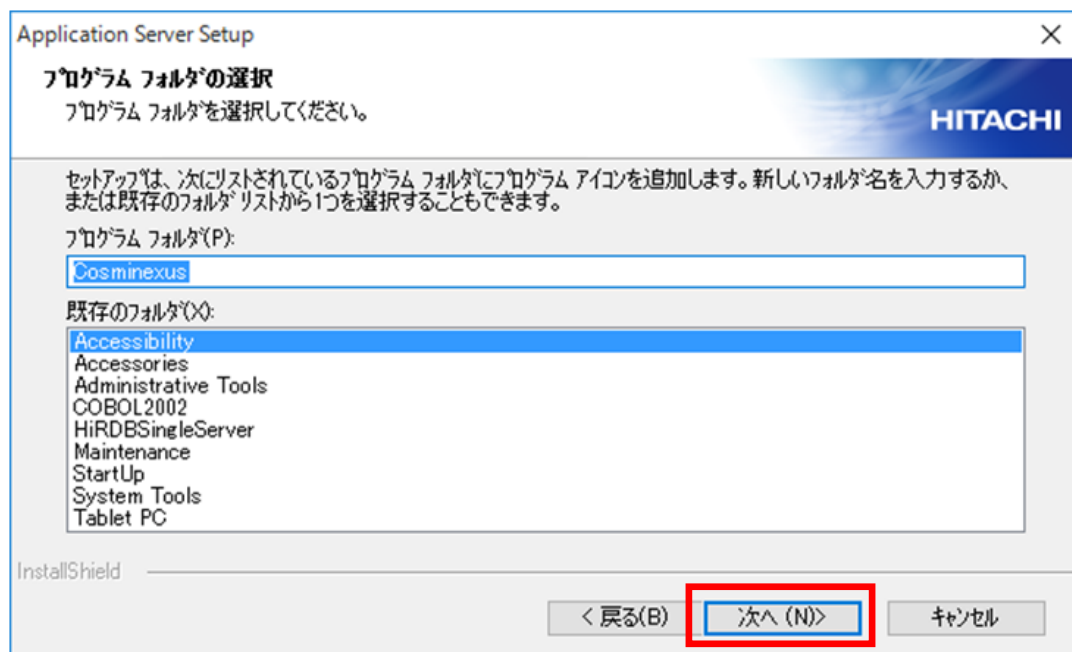
① ユーザ名(U):
公会計太郎

② 会社名(O):
公会計市

InstallShield

③ < 戻る(B) 次へ (N)> キャンセル

10) [プログラム フォルダの選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



Application Server Setup

プログラム フォルダの選択
プログラム フォルダを選択してください。

セットアップは、次にリストされているプログラム フォルダにプログラム アイコンを追加します。新しいフォルダ名を入力するか、または既存のフォルダリストから1つを選択することもできます。

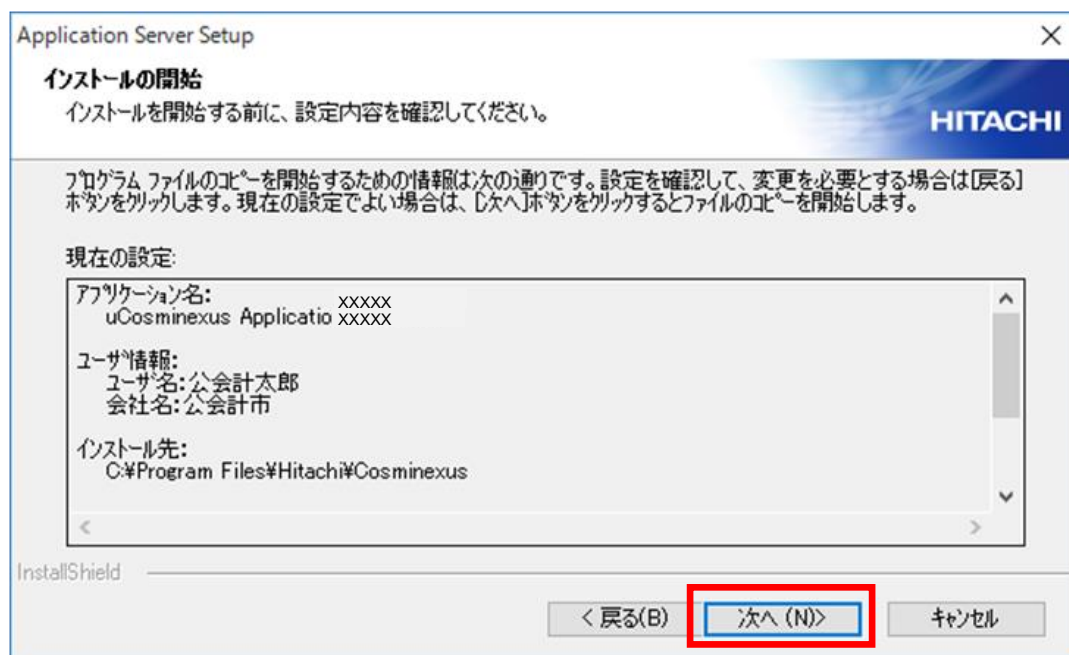
プログラム フォルダ(P):
Cosminexus

既存のフォルダ(O):
Accessibility
Accessories
Administrative Tools
COBOL2002
HiRDBSingleServer
Maintenance
StartUp
System Tools
Tablet PC

InstallShield

< 戻る(B) 次へ (N)> キャンセル

- 11) [インストールの開始] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

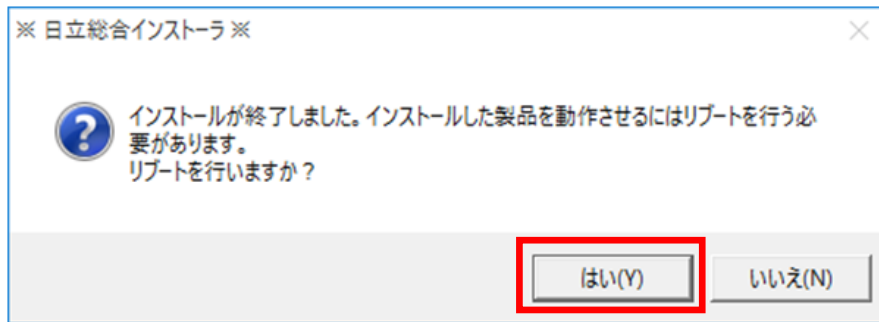


(注) ここで表示されるユーザ名と会社名は、2.6 節の項番 9)で入力したユーザ名と会社名になります。

- 12) Application Server のインストールが開始されます。以降、10 分程度、インストール処理が実行されます。
- 13) [セットアップの完了] 画面で、[完了] ボタンをクリックします。



- 14) [日立総合インストーラ] 画面で、[はい] ボタンをクリックします。



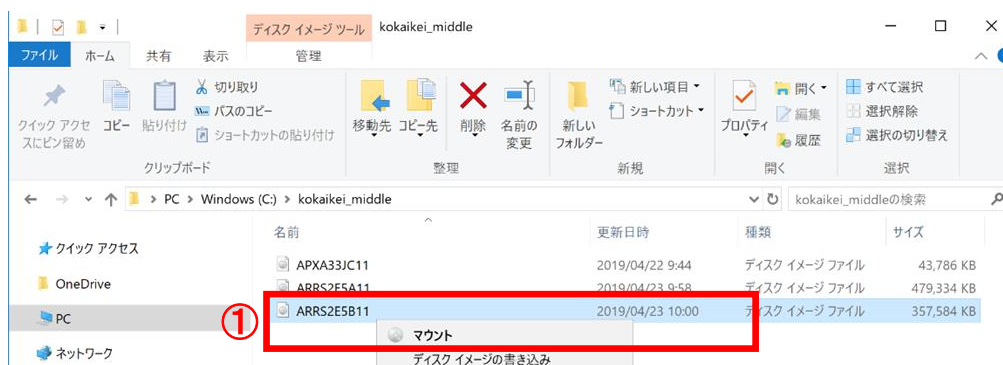
- 15) OS が再起動します。OS が起動したら、インストールを実施している Administrator 権限のユーザで再度ログインしてください。

2.7 HiRDB/Run Time Version 9(64)のインストール

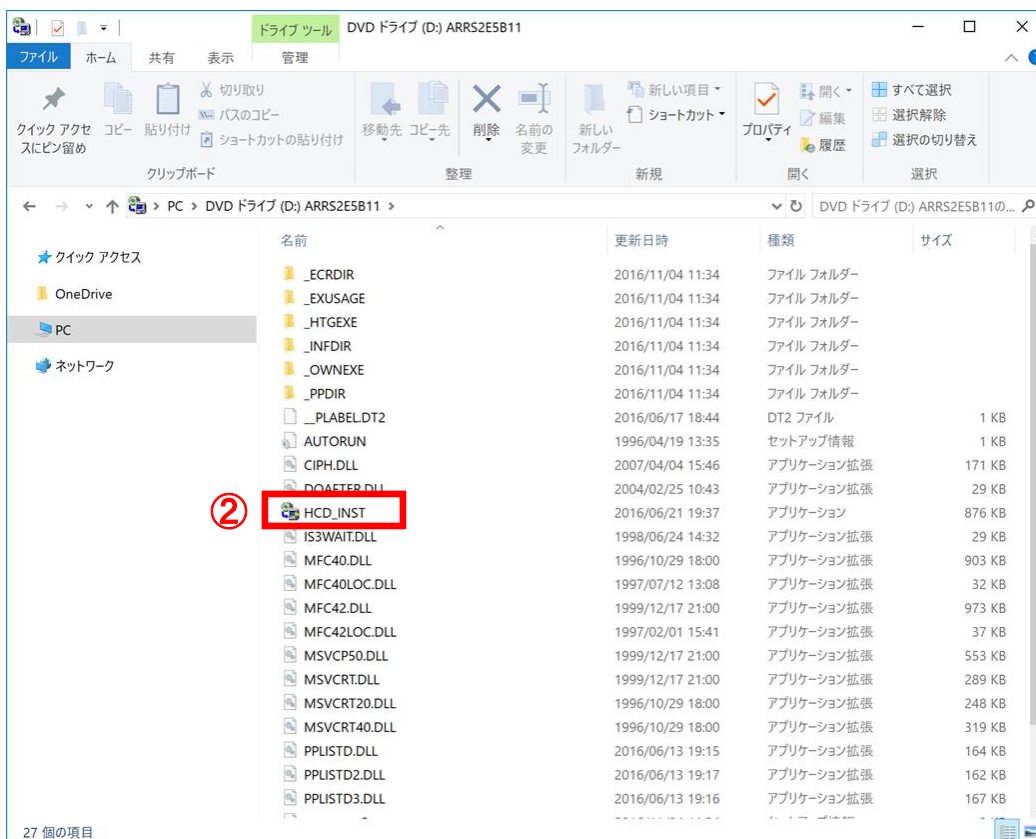
ここでは、HiRDB/Run Time Version 9(64)のインストール方法について説明します。

12) 地方公会計向け前提ミドルウェアを基本版地方公会計向け前提ミドルウェアダウンロードサイトから ISO イメージファイルで入手した場合は、

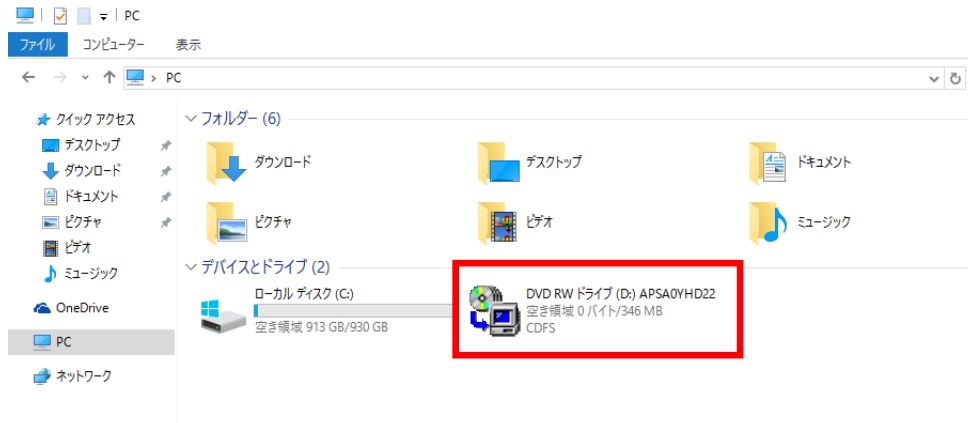
- ① 「ARRS2E5B11」又は「ARRS2E5B11.iso」を選択した状態で右クリックし、[マウント]をクリックします。



- ② ドライブとして認識された「ARRS2E5B11」下の「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。



地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合は、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM を CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブに挿入すると、[日立総合インストーラ] 画面が開きます。自動的に開かない場合は、エクスプローラー（キーボードの [Windows] キーを押しながら [E] キーを押すと起動します。）を開き、そこで表示される [PC] 下の CD-ROM 又は DVD-RW 又は BR-RE ドライブをダブルクリックします。それでも [日立総合インストーラ] 画面が開かない場合は、「HCD_INST」又は「HCD_INST.EXE」をダブルクリックします。

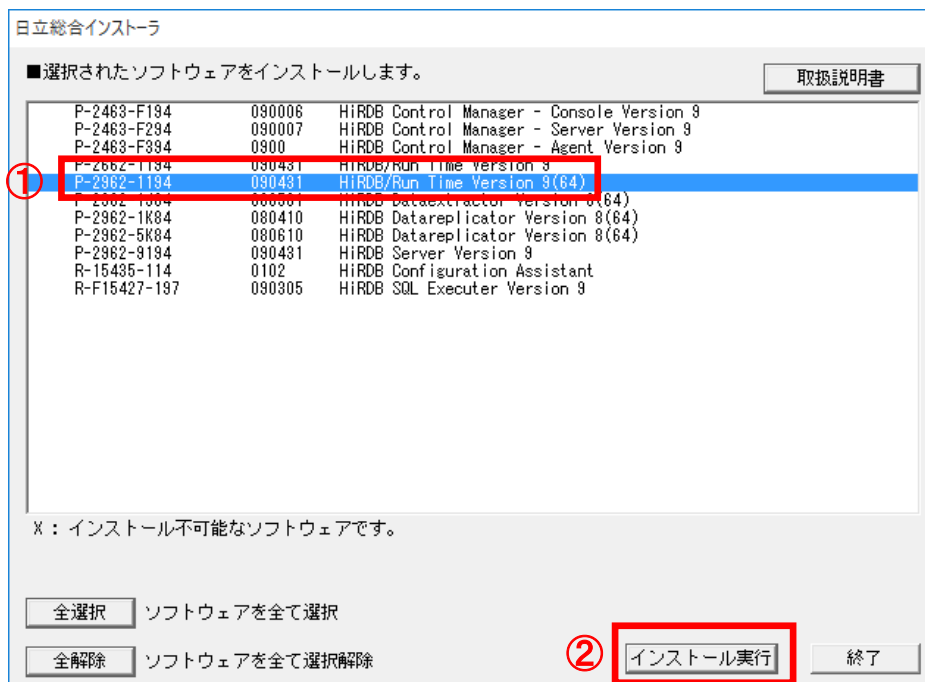


13) [ユーザアカウント制御] 画面で、「このアプリが PC に変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。

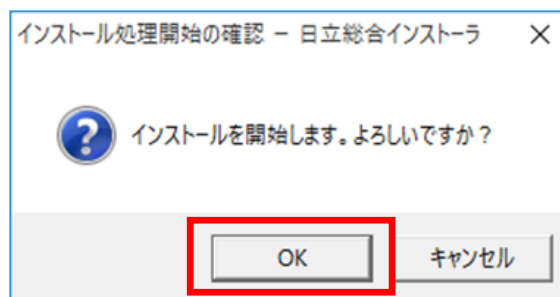
14) [日立総合インストーラ] 画面で、

- ① [HiRDB/Run Time Version 9(64)] を選択します。なお、[HiRDB/Run Time Version 9] を選択しないでください。末尾に“(64)”が付いた方を選択してください。
- ② [インストール実行] ボタンをクリックします。

地方公会計向け前提ミドルウェアをインストール CD-ROM で入手した場合で、かつ、地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール CD-ROM が複数枚ある場合は、何れかのインストール CD-ROM の総合インストーラに [HiRDB/Run Time Version 9(64)] が含まれていますので、探してください。



- 15) [インストール処理開始の確認 – 日立総合インストーラ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。

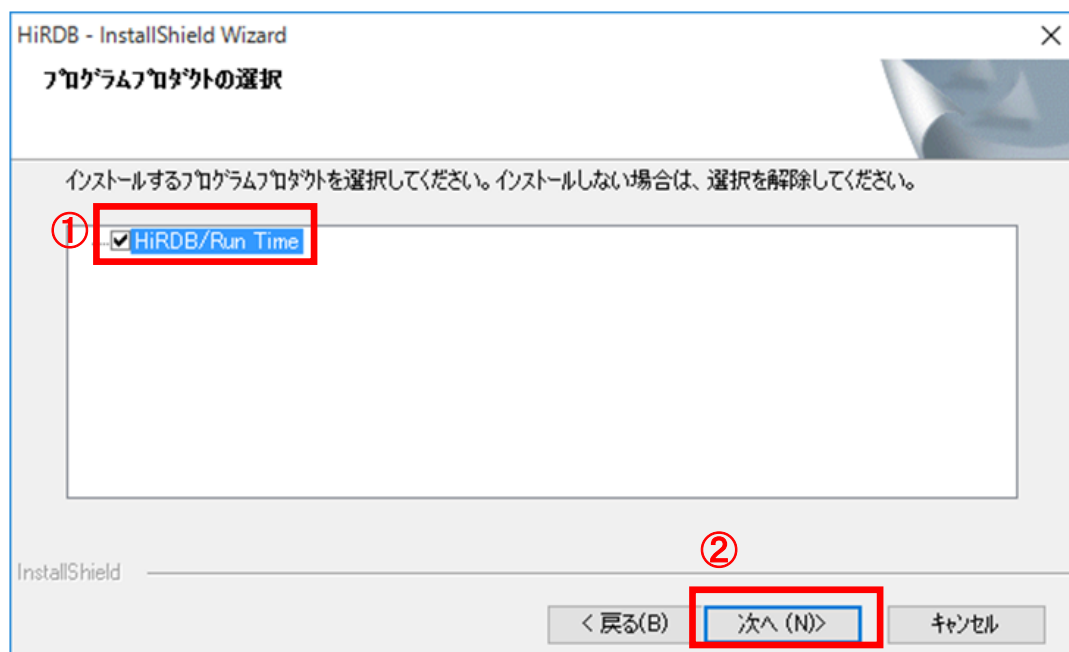


- 16) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

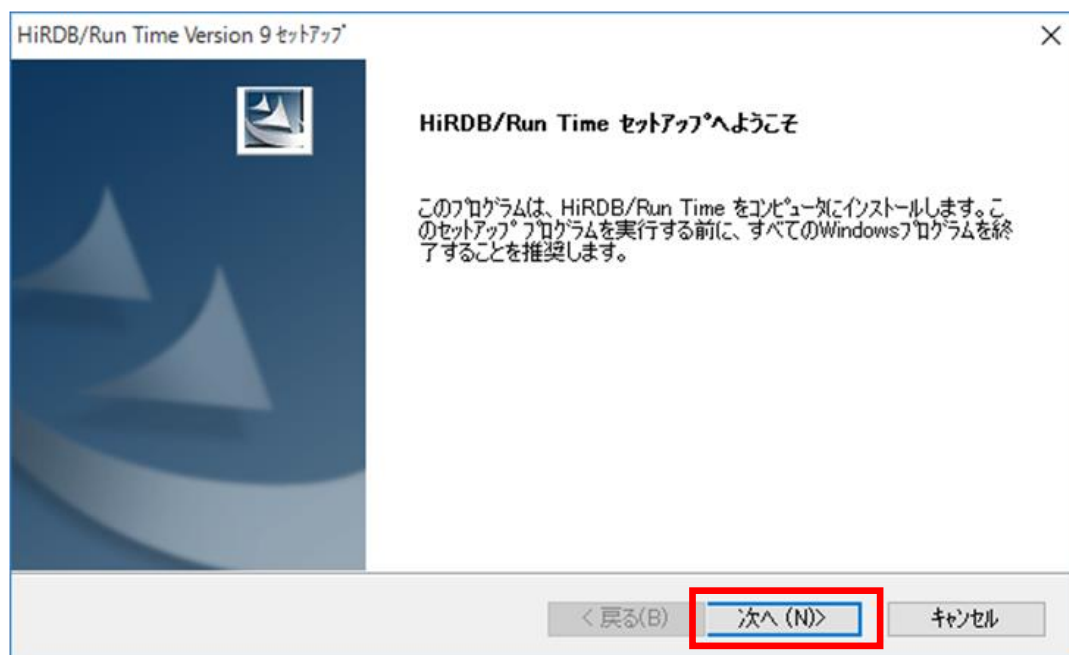


17) [プログラムプロダクトの選択] 画面で、

- ① [HiRDB/Run Time] チェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。



18) ようこそ画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



19) [ユーザ情報] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「ユーザ名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計太郎」と入力しています。
- ② [会社名] 欄のテキストボックスに「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた「会社名（ユーザ情報）」を入力します。以下では例として、「公会計市」と入力しています。
- ③ [次へ] ボタンをクリックします。

HiRDB/Run Time Version 9 セットアップ

ユーザ情報
 情報を入力してください。

ユーザ名、および会社名を入力してください。

① ユーザ名(U):
 公会計太郎

② 会社名(C):
 公会計市

InstallShield

③ 次へ (N) >

< 戻る(B) キャンセル

20) [インストール先の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。

HiRDB/Run Time Version 9 セットアップ

インストール先の選択
 ファイルをインストールするフォルダを選択します。

セットアップでは、次のフォルダにHiRDB/Run Time をインストールします。
 このフォルダへのインストールは、[次へ] ボタンをクリックします。
 別のフォルダへインストールする場合は、[参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択してください。

インストール先のフォルダ
 C:\Program Files\HITACHI\HiRDB

参照(R)...

InstallShield

③ 次へ (N) >

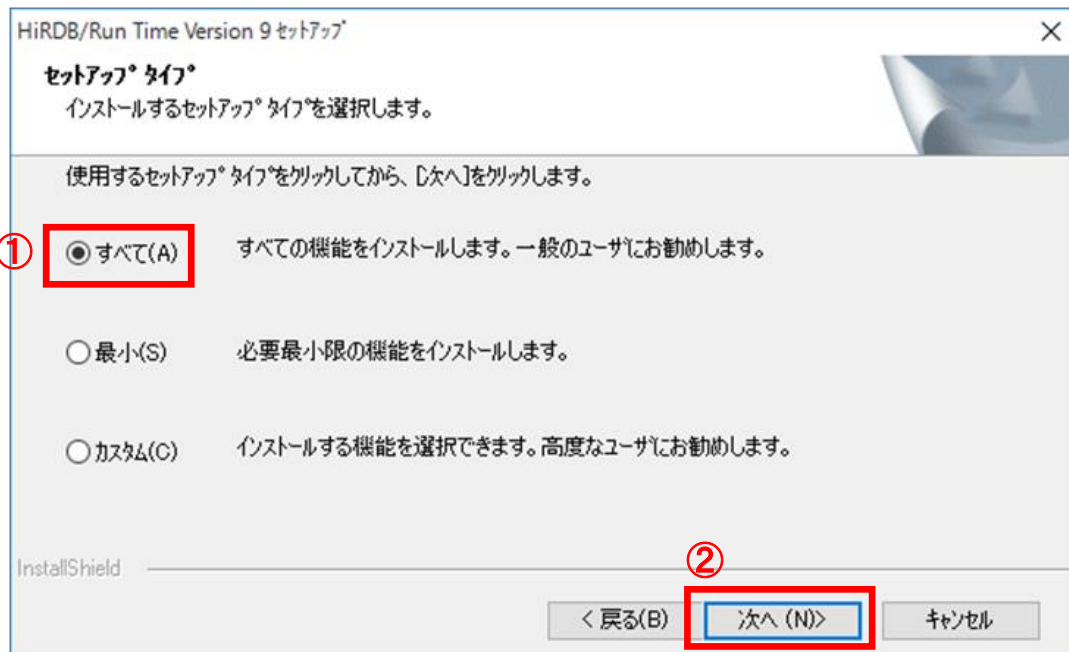
< 戻る(B) キャンセル

(注) インストール先のフォルダは、「C:\Program Files\HITACHI\HiRDB」が推奨です。インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックし

て任意のインストール先のフォルダを設定してください。

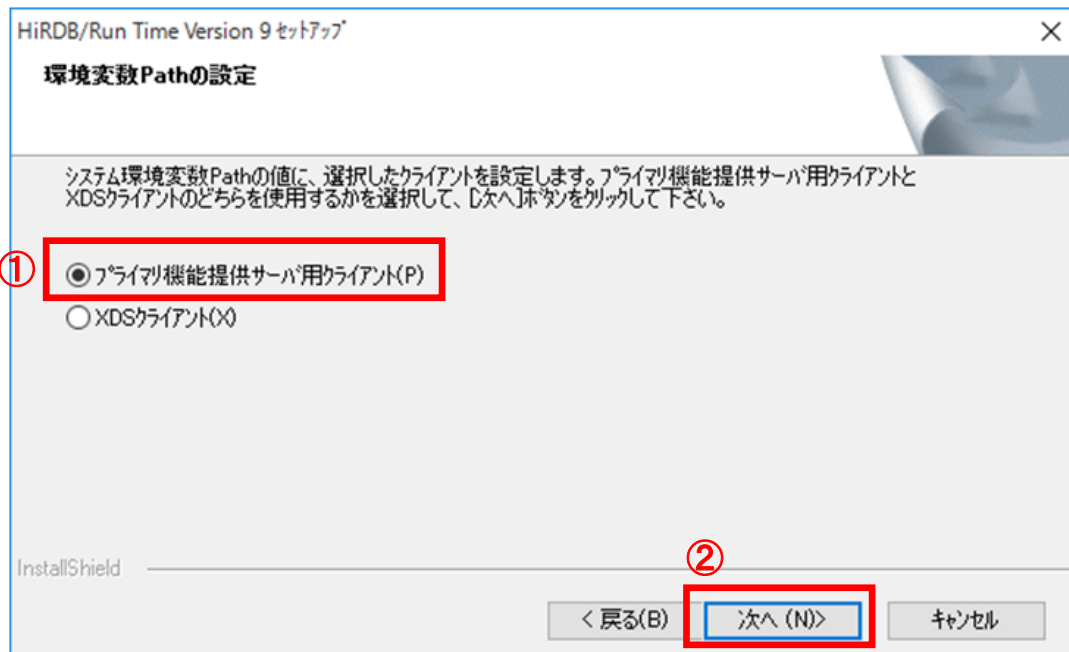
21) [セットアップタイプ] 画面で、

- ① [すべて] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。



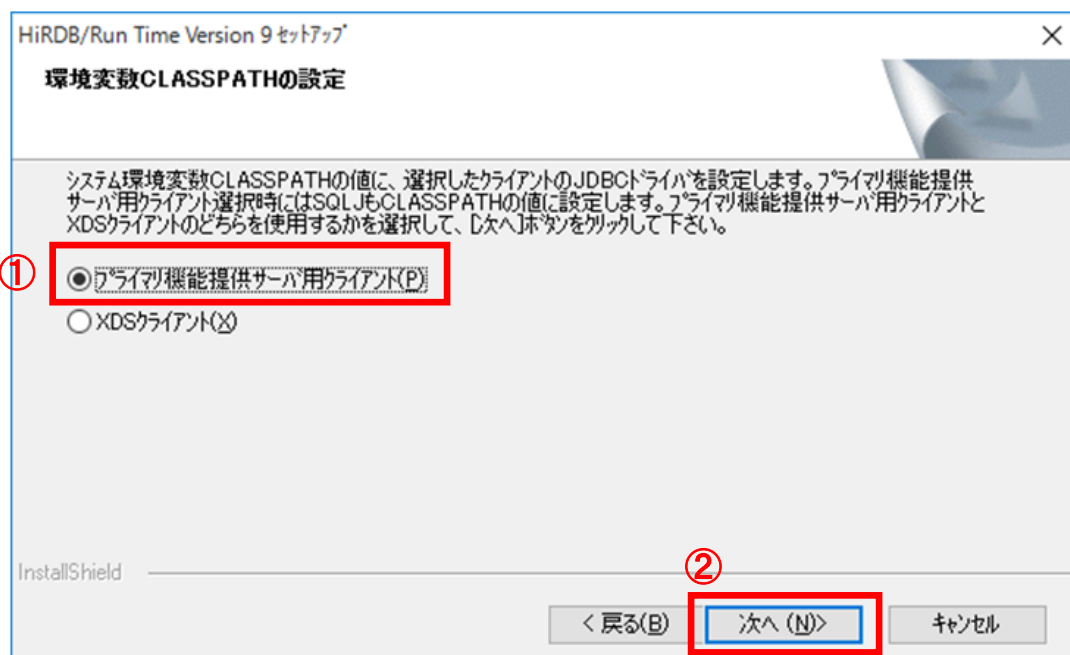
22) [環境変数 Path の設定] 画面で、

- ① [プライマリ機能提供サーバ用クライアント] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。

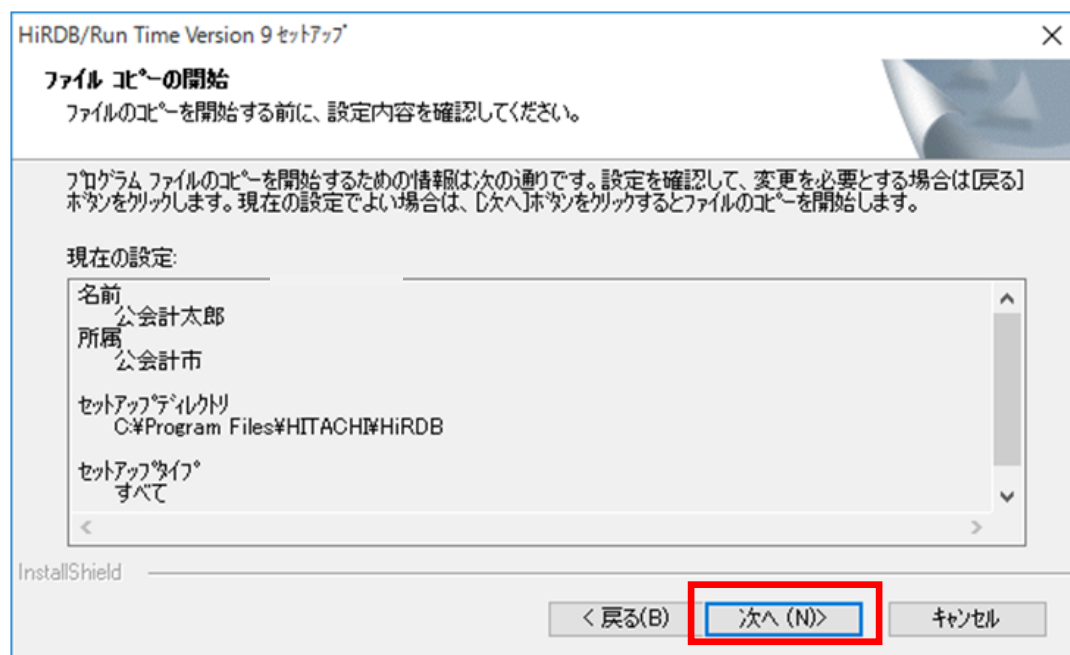


23) [環境変数 CLASSPATH の設定] 画面で、

- ① [プライマリ機能提供サーバ用クライアント] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [次へ] ボタンをクリックします。



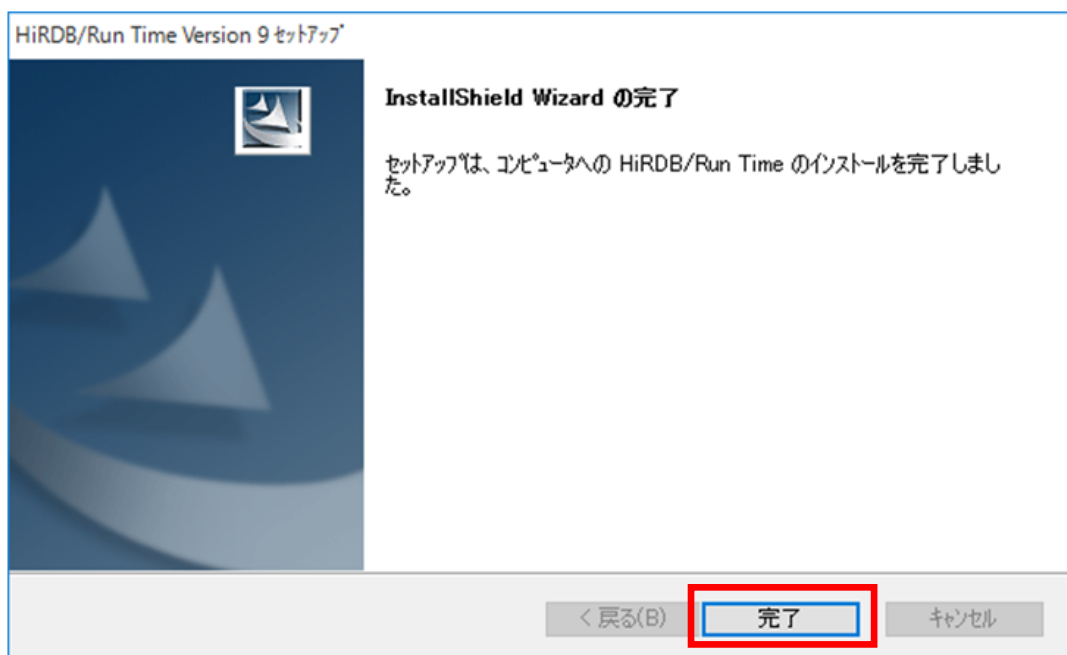
24) [ファイル コピーの開始] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



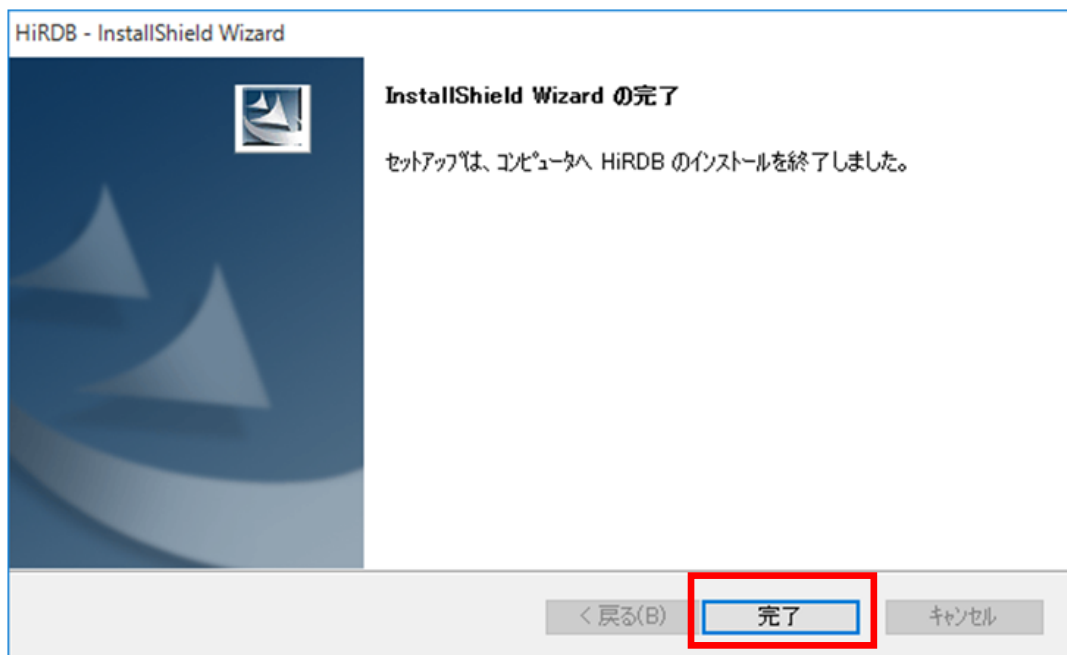
(注) ここで表示される名前と所属は、2.7 節の項番 8)で入力したユーザ名と会社名になります。

25) HiRDB/Run Time のインストールが開始されます。

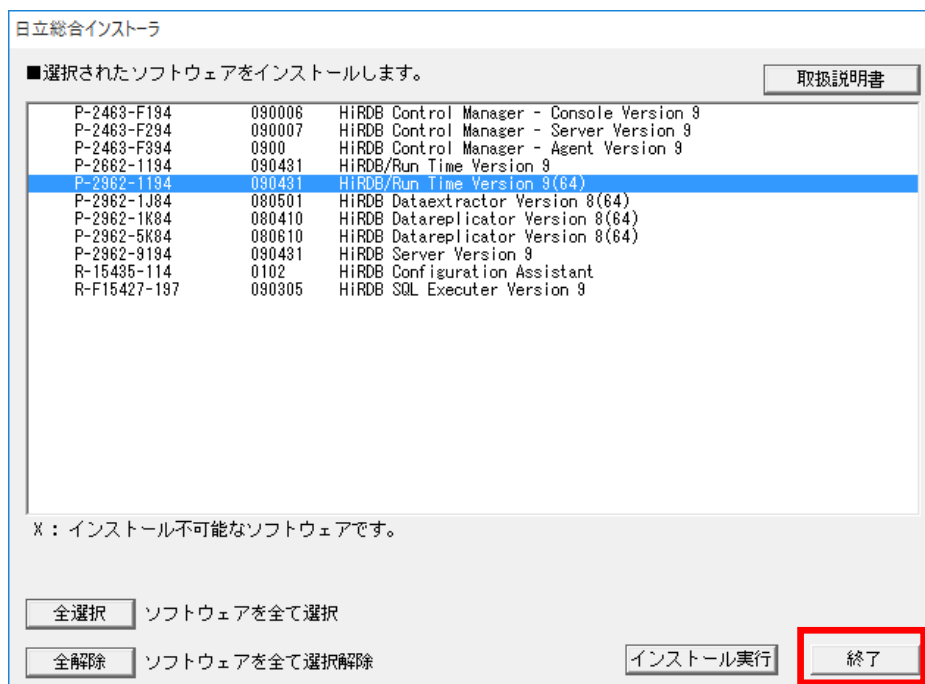
- 26) [InstallShield Wizard の完了] 画面で、[完了] ボタンをクリックします。



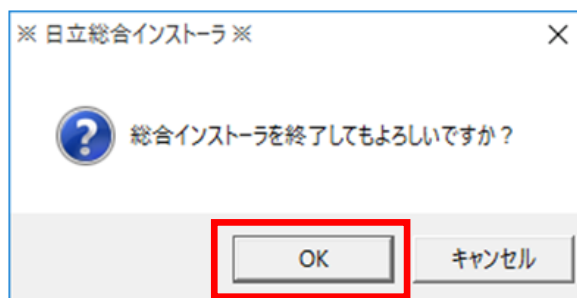
- 27) [InstallShield Wizard の完了] 画面で、[完了] ボタンをクリックします。



28) [日立総合インストーラ] 画面で、[終了] ボタンをクリックします。



29) 終了メッセージ画面で、[OK] ボタンをクリックします。



3 スタンドアロン PC のセットアップ 1

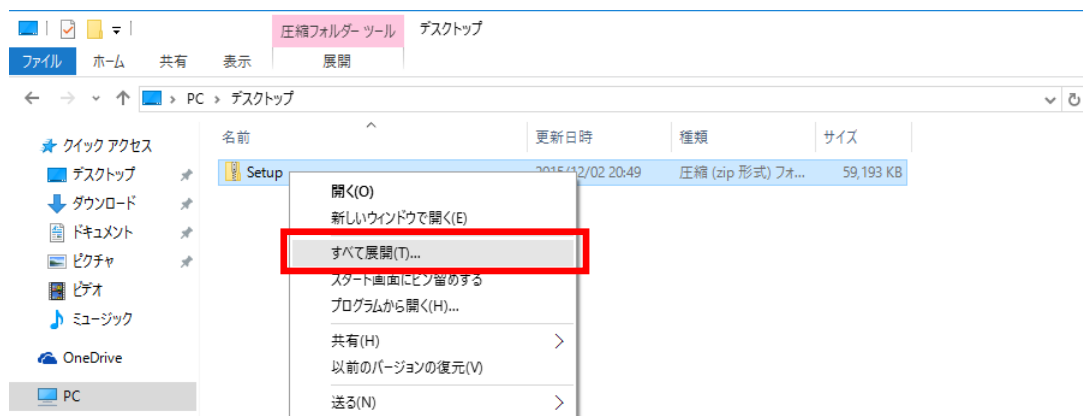
この章では、スタンドアロン PC のセットアップ用ファイルの設定方法について説明します。

3.1 セットアップ用ファイルの設定

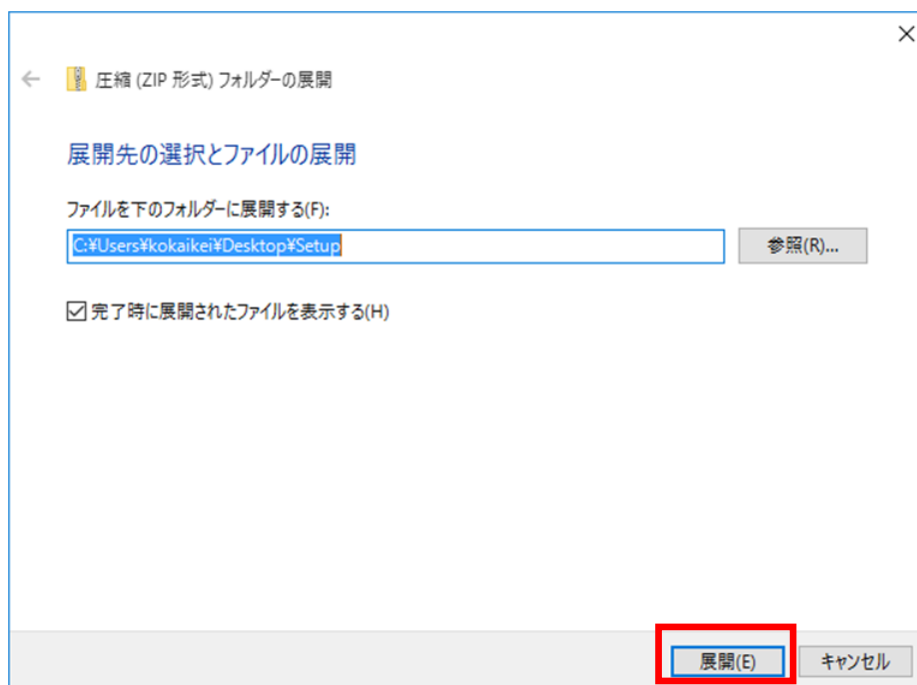
3.1 セットアップ用ファイルの設定

ここでは、セットアップ用ファイルの設定方法について説明します。セットアップファイルの設定はスタンドアロン PC で実施してください。

- 1) 地方公会計標準ソフトウェア配布用 Web サイトの [地方公会計標準ソフトウェアダウンロード] 画面から地方公会計標準ソフトウェアのプログラムをダウンロードします。地方公会計標準ソフトウェア配布用 Web サイトからプログラムをダウンロードすると、「Setup.zip」ファイルがダウンロードされます。
- 2) ダウンロードした「Setup.zip」ファイルを任意のフォルダにコピーし、「Setup.zip」ファイルを選択した状態で右クリックし、[すべて展開] をクリックします。



- 3) [圧縮 (ZIP 形式) フォルダーの展開] 画面で [展開] ボタンをクリックします。



- 4) 「Setup.zip」をコピーした任意のフォルダ下に「Setup」フォルダが展開されたことを確認します。
「Setup」フォルダ内には以下の2つのファイルが格納されています。

- ・ downloadfile_detail.pdf
- ・ Setup.bat



(注) ファイル拡張子「.pdf」「.bat」「.zip」が表示されない場合があります。

- 5) 「<任意のフォルダ>Setup」フォルダ下の「Setup.bat」ファイルをダブルクリックします。
6) [ユーザアカウント制御] 画面で「このアプリがPCに変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
7) [地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定] 画面が起動します。

①自治体コード(5桁)、会計年度(西暦4桁)、団体名(20文字以内)を入力してください。

自治体コード

会計年度

団体名

インストール中止(終了) 次の画面に進む >>

プログラム・ログ格納先

(6) 作業フォルダー
C:\kokaikai

(7) アプリケーションログフォルダー
C:\kokaikai\log

(9) HiRDB のインストール先
C:\win32app\hitachi\hirdb_s

(10) COBOL2002 のインストール先
C:\Program Files (x86)\Hitachi\COBOL2002

(11) SORT のインストール先
C:\Program Files (x86)\Hitachi\SORT

(12) SEWB+/標準サブルーチンのインストール先
C:\Program Files (x86)\Hitachi\SEWB+STD_SUB

(13) uCosminexus Application Server のインストール先
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus

(14) HiRDB/Run Time のインストール先
C:\Program Files\HITACHI\HiRDB

業務データ格納先

(17) HiRDB セットアップ先
C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area

(18) ダウンロード/アップロードファイルフォルダー
C:\kokaikai_ap\online

ログイン情報

(19) Cosminexus Management Serverの管理ユーザアカウントの管理ユーザID
kokaikai_CMSAdmin

(20) Cosminexus Management Serverの管理ユーザアカウントのパスワード
●●●●●●●●

ディスク容量 (CD/DVD・ネットワークドライブ等は表示されません)

名	空き領域	合計サイズ	種類
C:\	18GB	465GB	ローカル
F:\	268GB	297GB	ローカル

3.1 セットアップ用ファイルの設定

8) 「地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定」画面で、

- ① 「自治体コード」欄のテキストボックスに、自治体コード（5桁）を入力します。
- ② 「会計年度」欄のテキストボックスに、最初に財務書類を作成する会計年度（西暦4桁）を入力します。

入力例）・最初に2015年度の財務書類を作成する場合は、「2015」を入力します。

・最初に2016年度の財務書類を作成する場合は、「2016」を入力します。

- ③ 「団体名」欄のテキストボックスに、団体名（全角文字20文字以内）を入力します。全角文字20文字以内に収まらない場合は、略称を入力願います。

①自治体コード(5桁)、会計年度(西暦4桁)、団体名(20文字以内)を入力してください。

①	自治体コード	<input type="text"/>
②	会計年度	<input type="text"/>
③	団体名	<input type="text"/>

9) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番3)で事前に決めた項目のうち、(6)、(7)のいずれかが推奨値以外の場合は、「地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定」画面で、該当項目の値の変更が必要となるため、実在するフォルダを選択する場合は該当項目の右の「選択」ボタンをクリックし、事前に決めたフォルダを選択してください。実在しないフォルダであれば、手動で入力してください（フォルダは自動で作られます）。また、「! 存在しないドライブ」、「! CD/DVDドライブ」、「! 無効なパス」等のメッセージが表示されている場合は、設定したドライブやフォルダを見直してください。

(6) 作業フォルダー	
<input type="text" value="C:\kokaikai"/>	<input type="button" value="選択"/>
(7) アプリケーションログフォルダー	
<input type="text" value="C:\kokaikai\log"/>	<input type="button" value="選択"/>

(注) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番3)で事前に決めた項目が推奨値の場合は、変更不要です。

- 10) (9)～(14)のテキストボックスに、「2 地方公会計向け前提ミドルウェアのインストール」で指定したインストール先が入力されていることを確認します。なお、「2.6 uCosminexus Application Server のインストール」「2.7 HiRDB/Run Time Version 9(64)のインストール」で推奨値以外のインストール先のフォルダにインストールした場合は、(13) 及び(14)のテキストボックスに記載されたインストール先のフォルダを必ず変更する必要があります。その場合、「! 存在しないフォルダー」のメッセージが表示されていますので、(13)及び(14)の右の「選択」ボタンをクリックし、それぞれ uCosminexus Application Server 及び HiRDB/Run Time Version 9(64)をインストールしたフォルダを設定してください。また、「! 存在しないドライブ」、「! CD/DVD ドライブ」、「! 無効なパス」、「! 存在しないフォルダー」等のメッセージが表示されている場合は、設定したドライブやフォルダーを見直してください。

(9) HiRDB のインストール先	C:\win32app\hitachi\hirdb_s	選択
(10) COBOL2002 のインストール先	C:\Program Files (x86)\Hitachi\COBOL2002	選択
(11) SORT のインストール先	C:\Program Files (x86)\Hitachi\SORT	選択
(12) SEWB+/標準サブルーチンのインストール先	C:\Program Files (x86)\Hitachi\SEWB+STD_SUB	選択
(13) uCosminexus Application Server のインストール先	C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus	選択
(14) HiRDB/Run Time のインストール先	C:\Program Files\HITACHI\HiRDB	選択

- 11) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた項目のうち、(17)、(18)のいずれかが推奨値以外の場合は、「地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定」画面で、該当項目の値の変更が必要となるため、実在するフォルダを選択する場合は該当項目の右の「選択」ボタンをクリックし、事前に決めたフォルダを選択してください。実在しないフォルダであれば、手動で入力してください（フォルダは自動で作られます）。また、「! 存在しないドライブ」、「! CD/DVD ドライブ」、「! 無効なパス」等のメッセージが表示されている場合は、設定したドライブやフォルダーを見直してください。

(17) HiRDB セットアップ先	C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area	選択
(18) ダウンロード/アップロードファイルフォルダー	C:\kokaikai_ap\online	選択

(注) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた項目が推奨値の場合は、変更不要です。

3.1 セットアップ用ファイルの設定

- 12) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた項目のうち、(19)、(20)のいずれかが推奨値以外の場合は、[地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定] 画面で、該当項目の値の変更が必要となるため、該当項目のテキストボックスに事前に決めた値を入力してください。

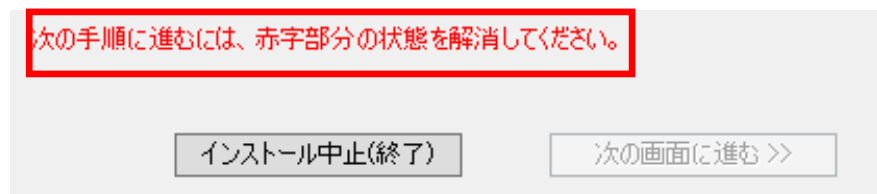


(19) Cosminexus Management Serverの管理ユーザアカウントの管理ユーザID
kokaikai_CMSadmin

(20) Cosminexus Management Serverの管理ユーザアカウントのパスワード
●●●●●●●●

(注) 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた項目が推奨値の場合は、変更不要です。

- 13) 「次の手順に進むには、赤字部分の状態を解消してください。」のメッセージが表示されている場合は、「! 存在しないドライブ」、「! CD/DVD ドライブ」、「! 無効なパス」、「! 存在しないフォルダー」等のメッセージが表示されている項目に設定したドライブやフォルダーを見直してください。



次の手順に進むには、赤字部分の状態を解消してください。

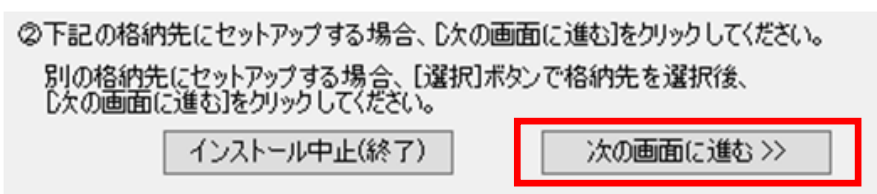
インストール中止(終了) 次の画面に進む >>

- 14) [地方公会計標準ソフトウェア セットアップ用ファイルの設定] 画面に表示されるディスク容量で、「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)に示すハードディスクの空き容量が確保されていることを確認します。

ディスク容量 (CD/DVD・ネットワークドライブ等は表示されません)

名...	空き領域	合計サイズ	種類
C:	912GB	931GB	ローカル

- 15) [次の画面に進む >>] ボタンをクリックします。

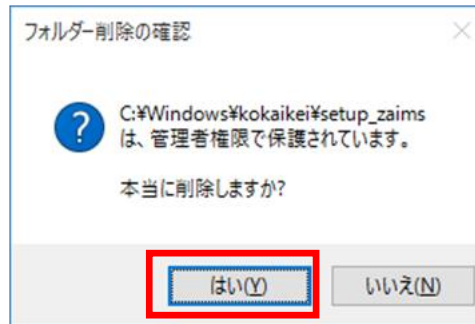


② 下記の格納先にセットアップする場合、[次の画面に進む]をクリックしてください。
別の格納先にセットアップする場合、[選択]ボタンで格納先を選択後、
[次の画面に進む]をクリックしてください。

インストール中止(終了) 次の画面に進む >>

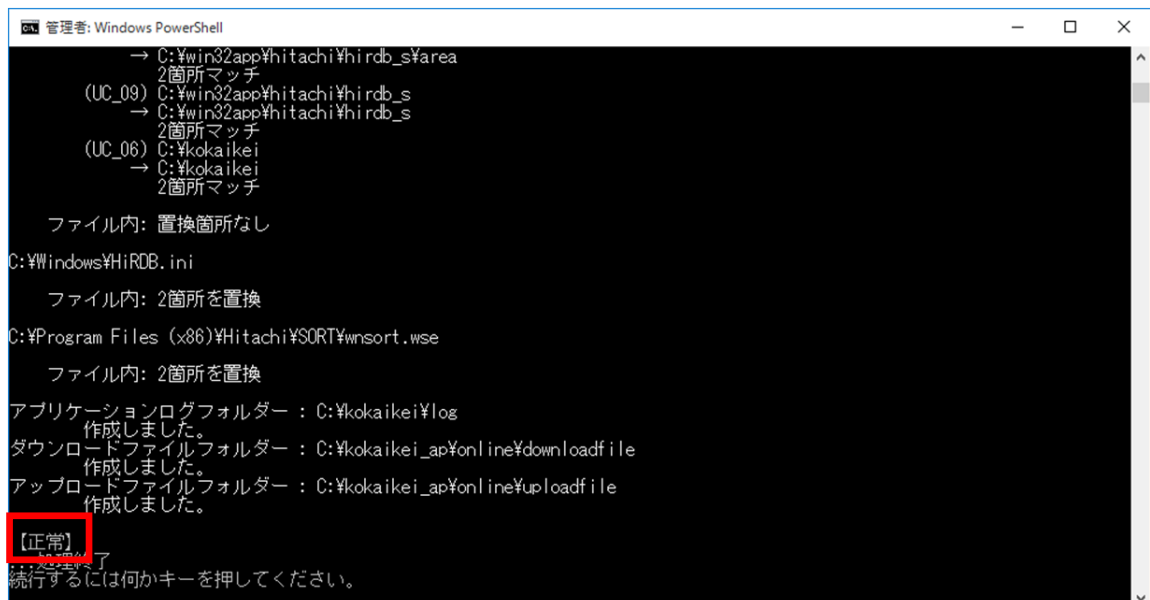
16) 自動的に処理が開始されます。

- ① 「フォルダー削除の確認」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。



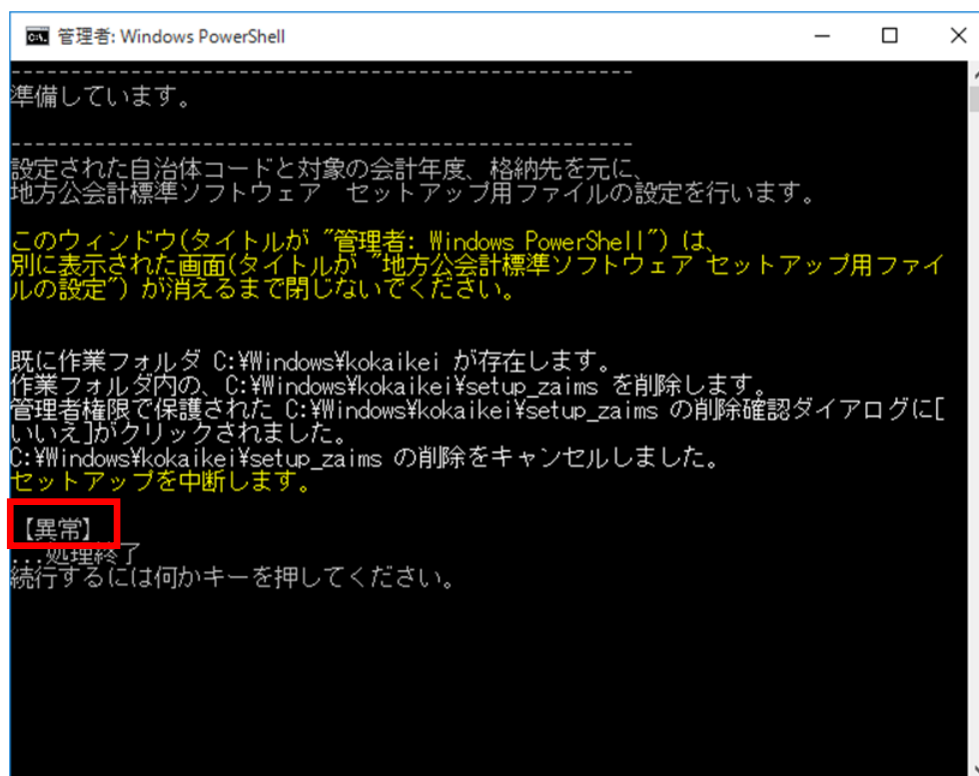
- ② 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、処理が正常に終了していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

<"【正常】"の文字が表示されている場合>



3.1 セットアップ用ファイルの設定

＜"【異常】"の文字が表示されている場合＞



(注) "【異常】"の文字が表示されている場合は、地方公共団体情報システム機構のFAQ・お問合せサイト(https://www.j-lis.go.jp/rdd/kokaikei/cms_93218820107_7.html)の「地方公会計標準ソフトウェアヘルプデスク利用手順」を参照し、同サイトに掲載されている「地方公会計標準ソフトウェア システム導入・操作に関する問合せ用 お問合せシート」に必要な情報を記入し、お問合せシートとログファイルを添付してヘルプデスクまでメールで送付してください。送付するログファイルは、「C:\¥ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント」フォルダ下の「kokaikeisetup_tools.log」ファイルです。

- ③ 「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

4 スタンドアロン PC のセットアップ2

この章では、スタンドアロン PC の DB のセットアップ方法について説明します。

4.1 DB のセットアップ

4.1 DB のセットアップ

ここでは、DB のセットアップ方法について説明します。DB のセットアップは、スタンドアロン PC で実施してください。

- 1) 「C:\¥kokaikei¥setup_zaims¥setup_tools¥C04_DBSetupTools」フォルダ下の「C04_SetupDBServer.bat」をダブルクリックします。

(注) ファイル拡張子「.bat」が表示されない場合があります。

- 2) 「地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール」画面が起動します。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、)減価償却パターンを選択してください。

☐ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割/日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。開始日時

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	-
2: DBサーバファイル設置	-
3: DB環境変数変更	-
4: 簡易セットアップツール起動	-

[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。

5: HiRDB環境構築(共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	-
8: スキーマと表の作成	-
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

3) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、

- ① [システム構成パターン A 及び B] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [6 : HiRDB 環境構築 (パターン A 及び B- 共通)] ボタンが活性化することを確認します。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、) 減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB ①

☐ システム構成パターンC及びD

☐ 減価償却パターン: 年割

☐ 減価償却パターン: 月割/日割

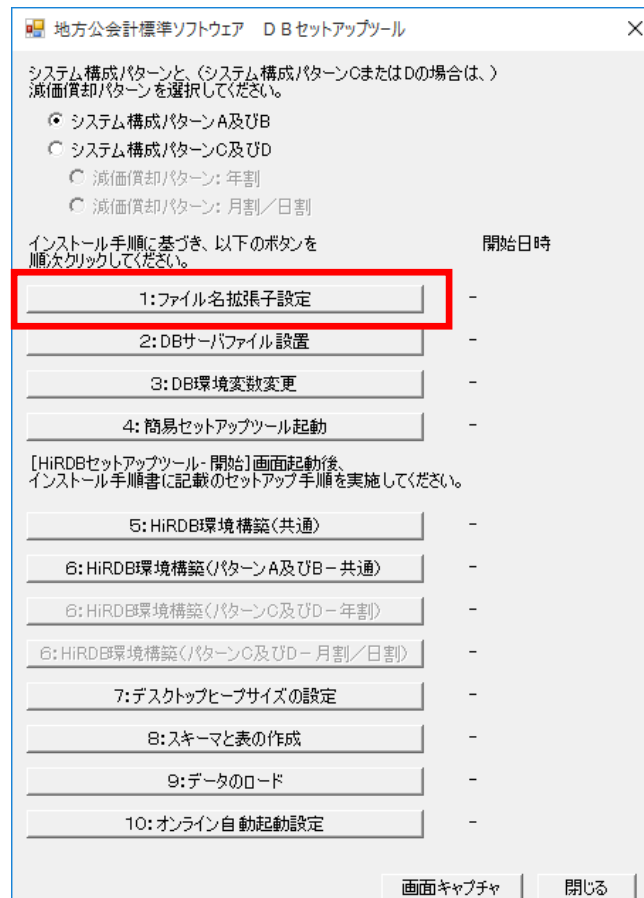
インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	-
2: DBサーバファイル設置	-
3: DB環境変数変更	-
4: 簡易セットアップツール起動	-
[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。	
5: HiRDB環境構築(共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通) ②	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	-
8: スキーマと表の作成	-
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

4.1 DBのセットアップ

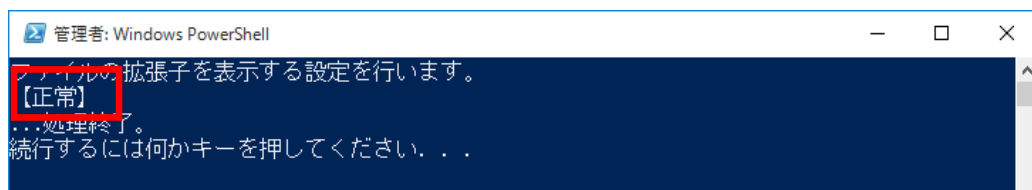
- 4) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[1：ファイル名拡張子設定] ボタンをクリックします。



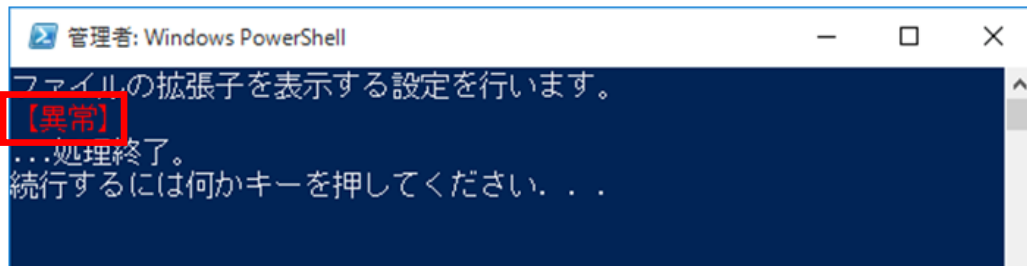
- 5) 自動的に処理が開始されます。

- ① 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、処理が正常に終了していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

<"【正常】"の文字が表示されている場合>



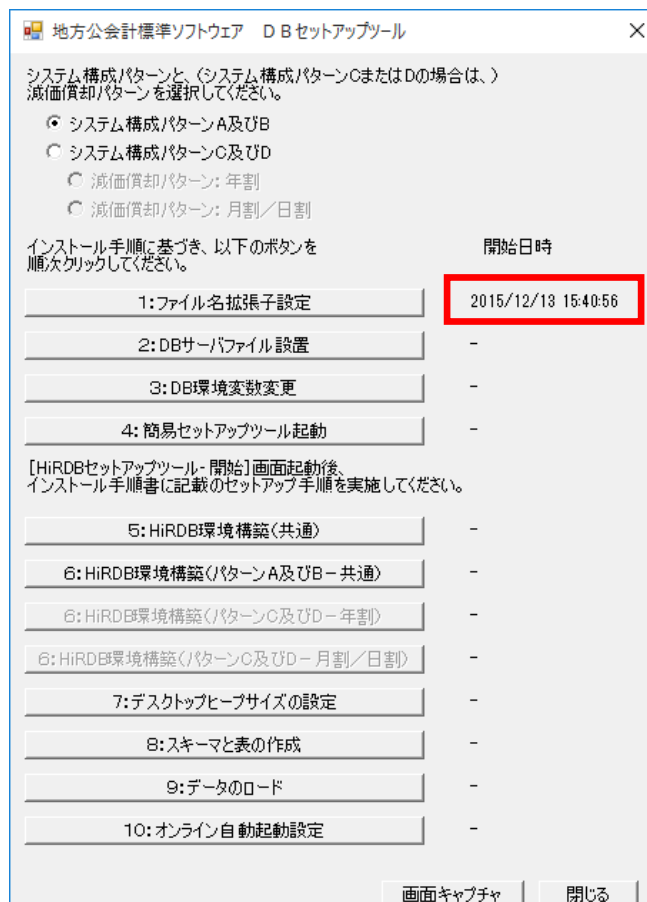
＜"【異常】"の文字が表示されている場合＞



(注) "【異常】"の文字が表示されている場合は、地方公共団体情報システム機構のFAQ・お問合せサイト (https://www.j-lis.go.jp/rdd/kokaikei/cms_93218820107_7.html) の「地方公会計標準ソフトウェアヘルプデスク利用手順」を参照し、同サイトに掲載されている「地方公会計標準ソフトウェア システム導入・操作に関する問合せ用 お問合せシート」に必要な情報を記入し、お問合せシートとログファイルを添付してヘルプデスクまでメールで送付してください。送付するログファイルは、「C:\¥ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント」フォルダ下の「kokaikeisetup_tools.log」ファイルです。

- ② 画面に「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

- 6) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面の [1：ファイル名拡張子設定] ボタンの右側の開始日時に、[1：ファイル名拡張子設定] ボタンをクリックした日時が表示されていることを確認します。



4.1 DB のセットアップ

- 7) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[2 : DB サーバファイル設置] ボタンをクリックします。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、)減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割/日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	2015/12/13 15:40:56
2: DBサーバファイル設置	-
3: DB環境変数変更	-
4: 簡易セットアップツール起動	-
[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。	
5: HiRDB環境構築(共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	-
8: スキーマと表の作成	-
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

- 8) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください。

- 9) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[3 : DB 環境変数変更] ボタンをクリックします。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、)減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割/日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	2015/12/13 15:40:56
2: DBサーバファイル設置	2015/12/13 15:41:14
3: DB環境変数変更	-
4: 簡易セットアップツール起動	-

[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。

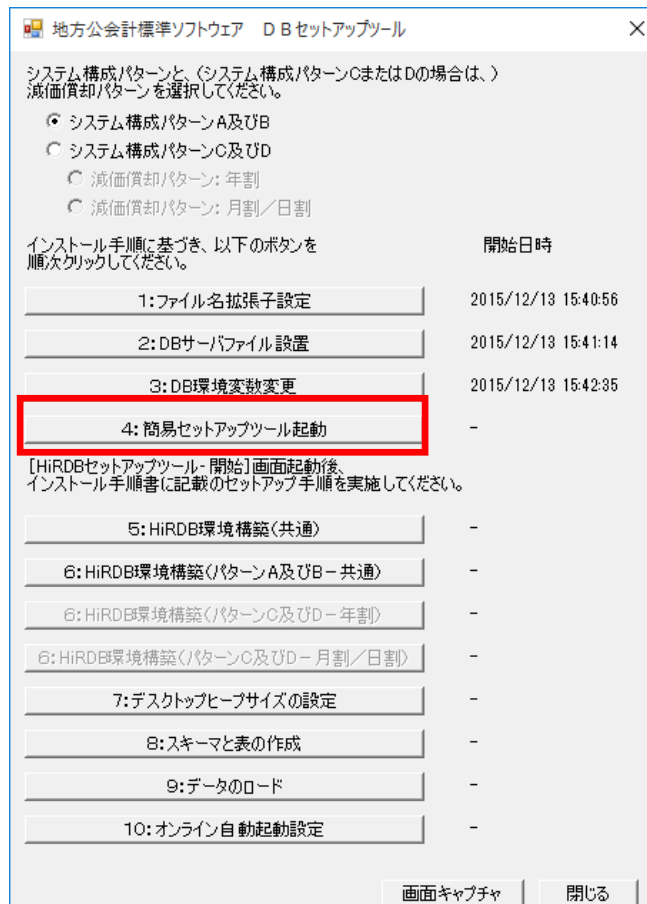
5: HiRDB環境構築(共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	-
8: スキーマと表の作成	-
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

- 10) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください。

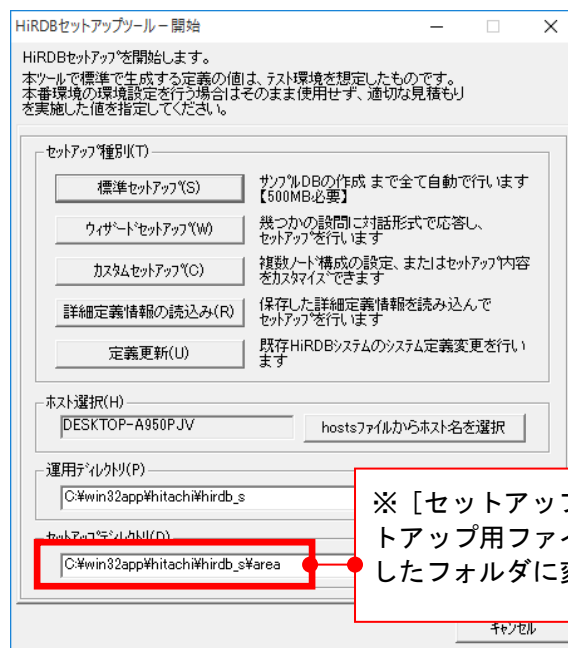
4.1 DB のセットアップ

- 11) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[4：簡易セットアップツール起動] ボタンをクリックします。



- 12) [HiRDB セットアップツール - 開始] 画面が起動します。

- 13) [HiRDB セットアップツール - 開始] 画面で、[セットアップディレクトリ] を、「3.1 セットアップ用ファイルの設定」の項番 11)で指定したフォルダに変更します。

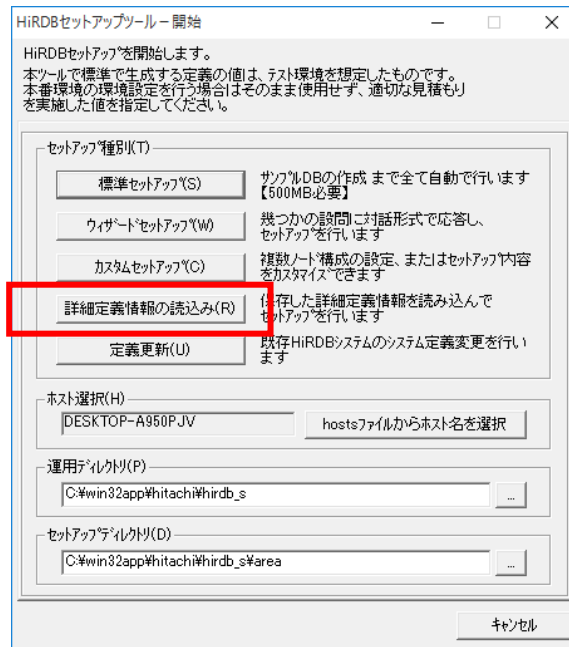


※ [セットアップディレクトリ] を「3.1 セットアップ用ファイルの設定」の項番 11)で指定したフォルダに変更します。

(注) セットアップディレクトリのフォルダは「C:\win32app\hitachi\hirdb_s\area」

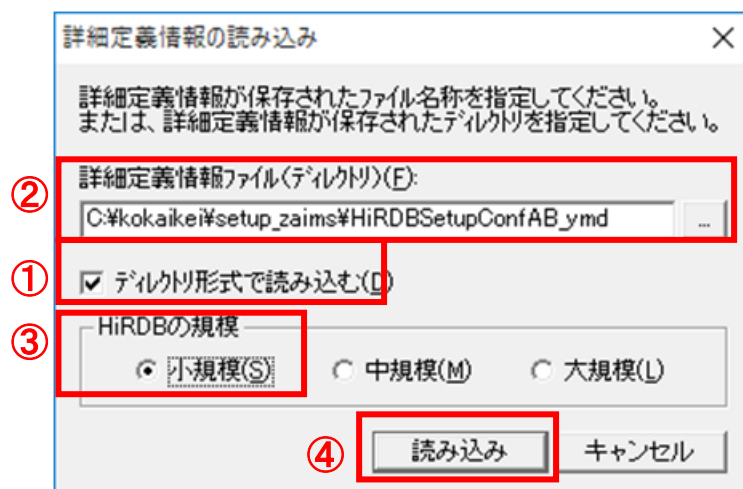
が推奨値です。セットアップディレクトリのフォルダを変更する場合は、[...] ボタンをクリックして任意のフォルダを設定してください。ただし、必ず「3.1 セットアップ用ファイルの設定」の項番 11) で指定したフォルダと同じフォルダを設定してください。

14) [HiRDB セットアップツール-開始] 画面で [詳細定義情報の読み込み] ボタンをクリックします。



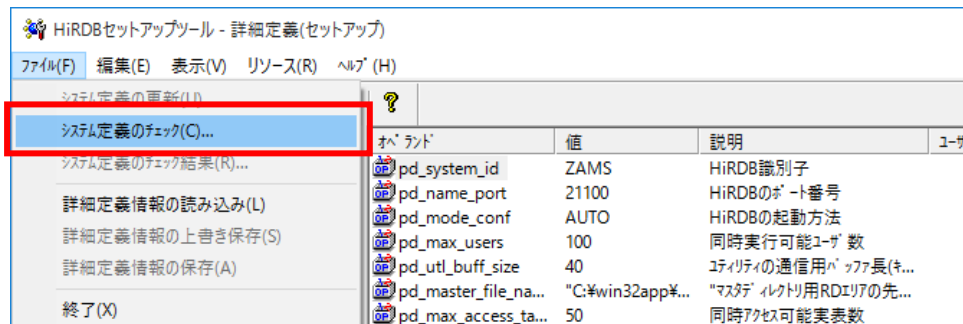
15) [詳細定義情報の読み込み] 画面で、

- ① 「ディレクトリ形式で読み込む」チェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。
- ② [詳細定義情報ファイル（ディレクトリ）] 欄のテキストボックスで [参照] ボタンをクリックして、詳細定義情報ファイルのコピー先に「C:\%kokaikai%\setup_zaims%\HiRDBSetupConfAB_ymd」フォルダを指定します。
- ③ HiRDB の規模で「小規模」欄のラジオボタンを選択します。
- ④ [読み込み] ボタンをクリックします。



4.1 DB のセットアップ

- 16) [HiRDB セットアップツール - 詳細定義(セットアップ)] 画面で、[ファイル] - [システム定義のチェック] をクリックします。

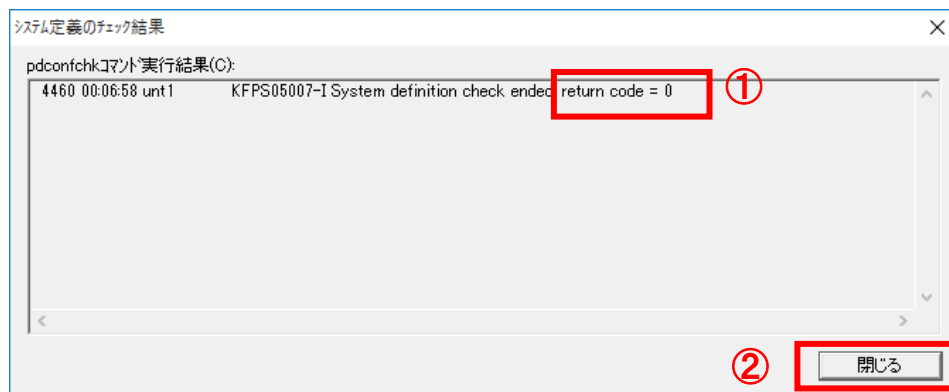


- 17) [システム定義のチェック結果] 画面で、

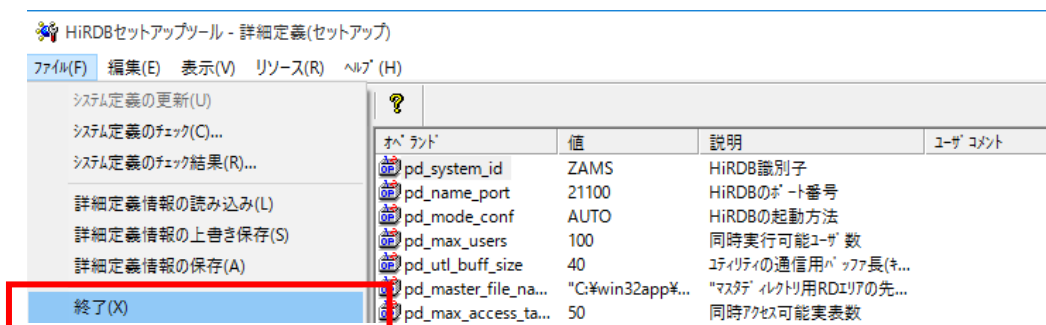
① 「return code = 0」が表示されていることを確認します。

② 確認後、[閉じる] ボタンをクリックします。

(注) エラーが生じた場合は、エラーメッセージに従い、エラーの原因を取り除いてから再度 HiRDB のシステム定義のチェックを行ってください。



- 18) [HiRDB セットアップツール - 詳細定義(セットアップ)] 画面で、[ファイル] - [終了] をクリックします。

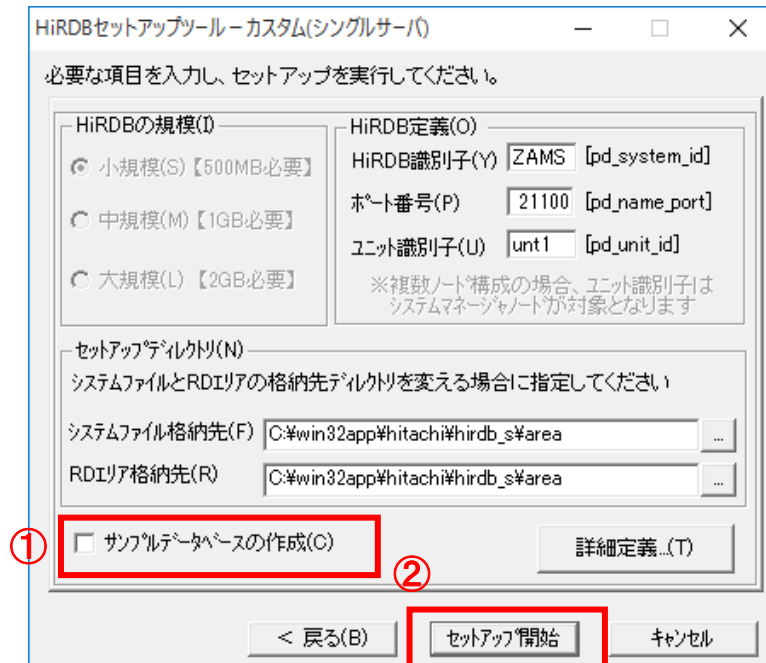


19) [HiRDB セットアップツール - カスタム(シングルサーバ)] 画面で、

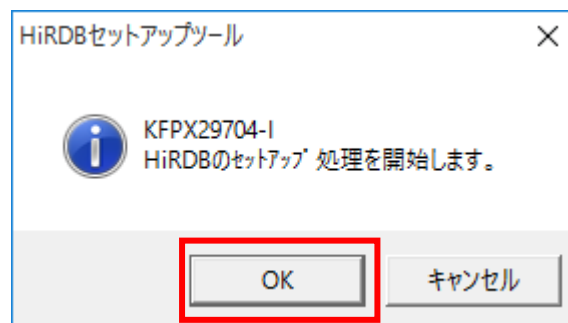
① 「サンプルデータベースの作成」 チェックボックスをクリックします（チェックが外れます）。

（注）デフォルト（初期値）はチェックが付いています。必ずチェックを外してください。

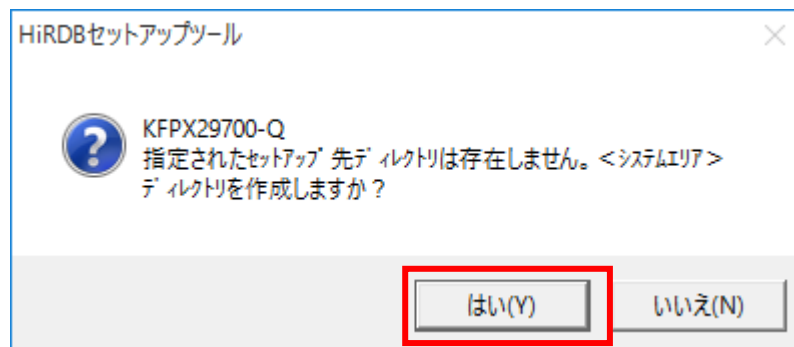
② [セットアップ開始] ボタンをクリックします。



20) [HiRDB セットアップツール] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



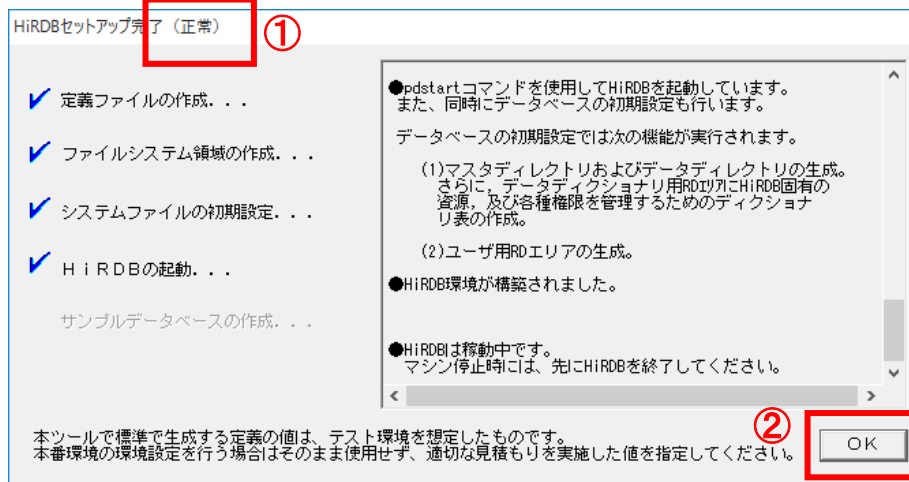
21) [HiRDB セットアップツール] 画面で、[はい] ボタンをクリックします。以降、数十分程度、HiRDB のセットアップ処理が実行されます。



4.1 DB のセットアップ

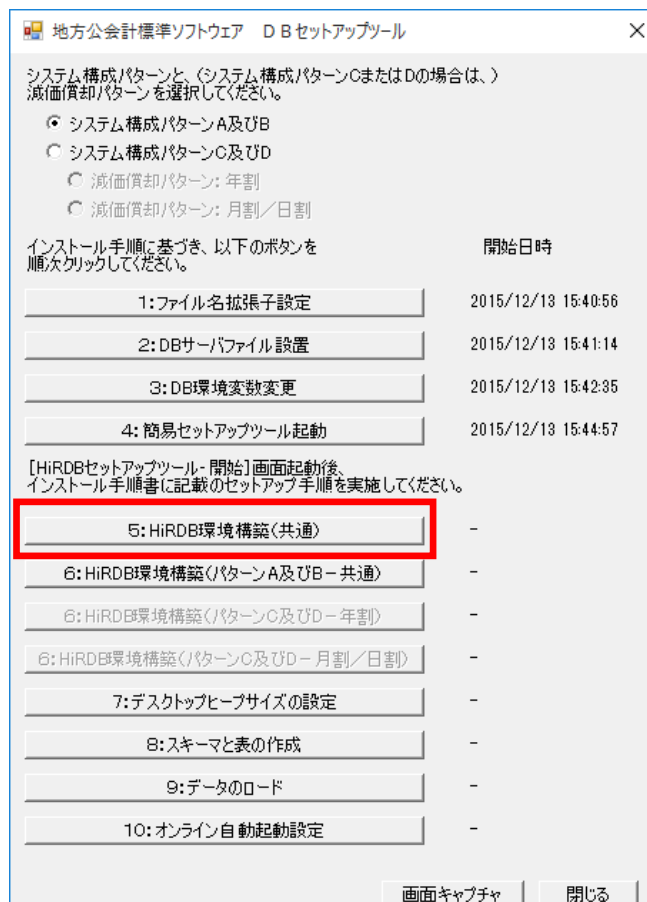
22) [HiRDB セットアップ完了] 画面で、

- ① HiRDB セットアップの後に「（正常）」と表示されていることを確認します。
- ② [OK] ボタンをクリックします。

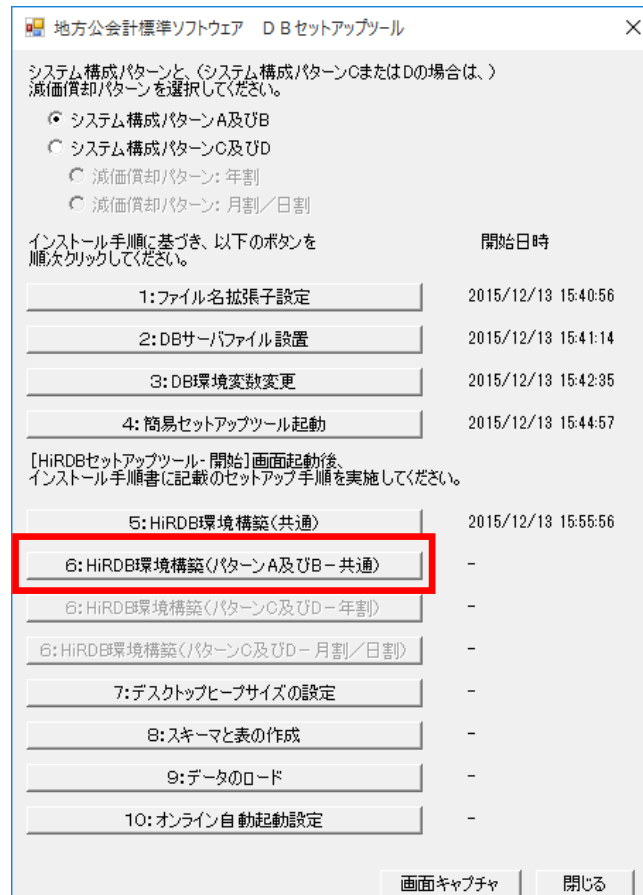


23) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、4.1 節の項番 6)と同様の確認（開始日時が表示されていること）を実施してください。

24) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[5 : HiRDB 環境構築（共通）] ボタンをクリックします。



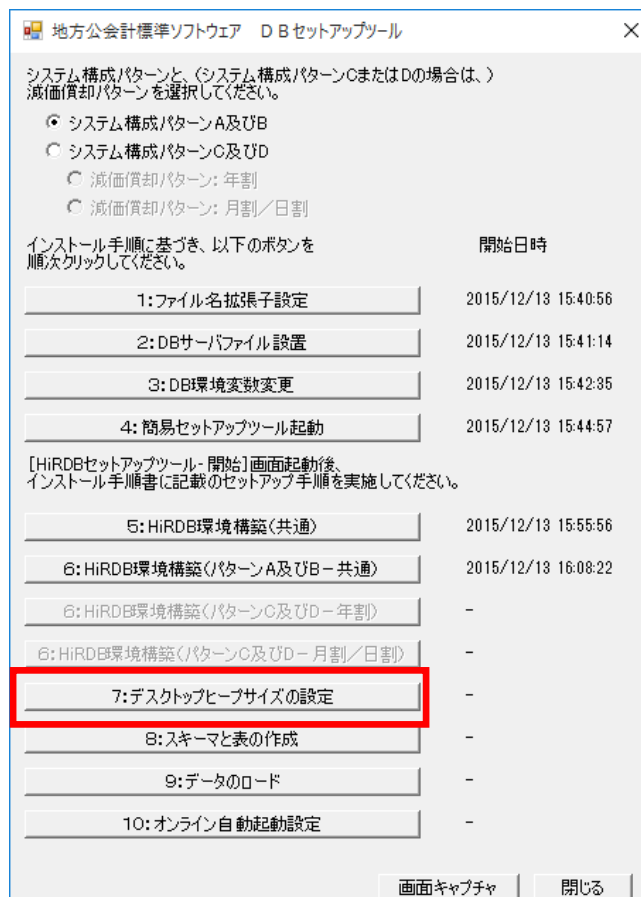
- 25) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認（"【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること）を実施してください。
- 26) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[6：HiRDB 環境構築（パターン A 及び B - 共通）] ボタンをクリックします。以降、数分程度、HiRDB のセットアップ処理が実行されます。



- 27) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認（"【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること）を実施してください。

4.1 DB のセットアップ

28) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[7：デスクトップヒープサイズの設定] ボタンをクリックします。



29) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください。

- 30) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[8：スキーマと表の作成] ボタンをクリックします。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、) 減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割／日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	2015/12/13 15:40:56
2: DBサーバファイル設置	2015/12/13 15:41:14
3: DB環境変数変更	2015/12/13 15:42:35
4: 簡易セットアップツール起動	2015/12/13 15:44:57
[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。	
5: HiRDB環境構築(共通)	2015/12/13 15:55:56
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	2015/12/13 16:08:22
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割／日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	2015/12/13 16:12:43
8: スキーマと表の作成	-
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

- 31) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください。

4.1 DB のセットアップ

32) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[9 : データのロード] ボタンをクリックします。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、)減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割/日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	2015/12/13 15:40:56
2: DBサーバファイル設置	2015/12/13 15:41:14
3: DB環境変数変更	2015/12/13 15:42:35
4: 簡易セットアップツール起動	2015/12/13 15:44:57
[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。	
5: HiRDB環境構築(共通)	2015/12/13 15:55:56
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	2015/12/13 16:08:22
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	2015/12/13 16:12:43
8: スキーマと表の作成	2015/12/13 16:18:36
9: データのロード	-
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

33) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。

- 34) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[10: オンライン自動起動設定 実行] ボタンをクリックします。

地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール

システム構成パターンと、(システム構成パターンCまたはDの場合は、) 減価償却パターンを選択してください。

☒ システム構成パターンA及びB
☐ システム構成パターンC及びD
 ☐ 減価償却パターン: 年割
 ☐ 減価償却パターン: 月割/日割

インストール手順に基づき、以下のボタンを順次クリックしてください。

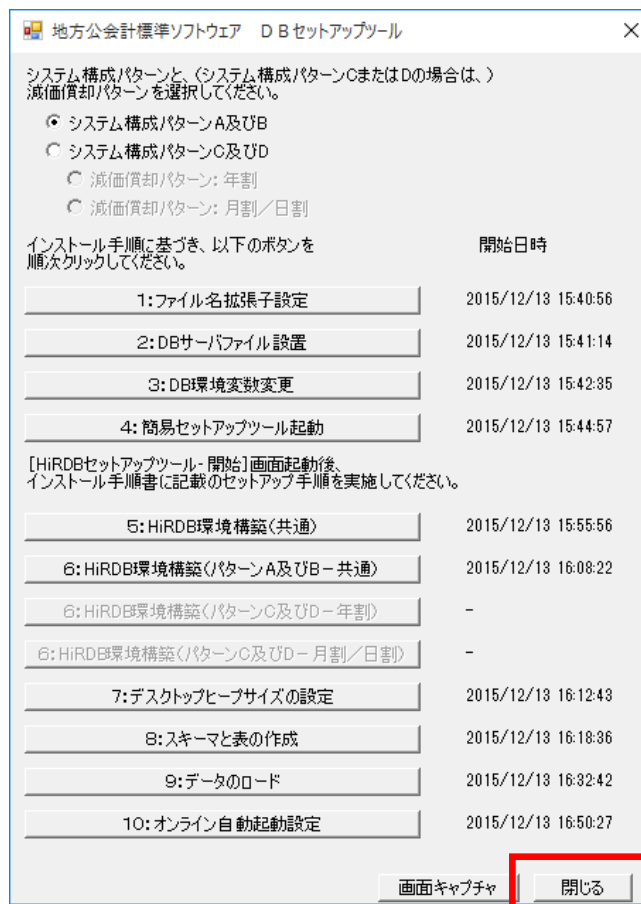
	開始日時
1: ファイル名拡張子設定	2015/12/13 15:40:56
2: DBサーバファイル設置	2015/12/13 15:41:14
3: DB環境変数変更	2015/12/13 15:42:35
4: 簡易セットアップツール起動	2015/12/13 15:44:57
[HiRDBセットアップツール-開始]画面起動後、インストール手順書に記載のセットアップ手順を実施してください。	
5: HiRDB環境構築(共通)	2015/12/13 15:55:56
6: HiRDB環境構築(パターンA及びB-共通)	2015/12/13 16:08:22
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-年割)	-
6: HiRDB環境構築(パターンC及びD-月割/日割)	-
7: デスクトップヒープサイズの設定	2015/12/13 16:12:43
8: スキーマと表の作成	2015/12/13 16:18:36
9: データのロード	2015/12/13 16:32:42
10: オンライン自動起動設定	-

画面キャプチャ 閉じる

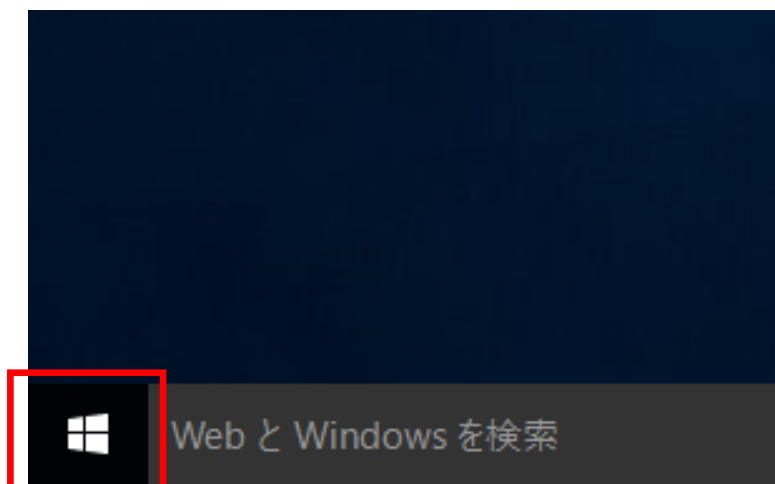
- 35) 4.1 節の項番 5)と同様に自動的に処理が開始されます。4.1 節の項番 5)及び項番 6)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。

4.1 DB のセットアップ

36) [地方公会計標準ソフトウェア DB セットアップツール] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックします。

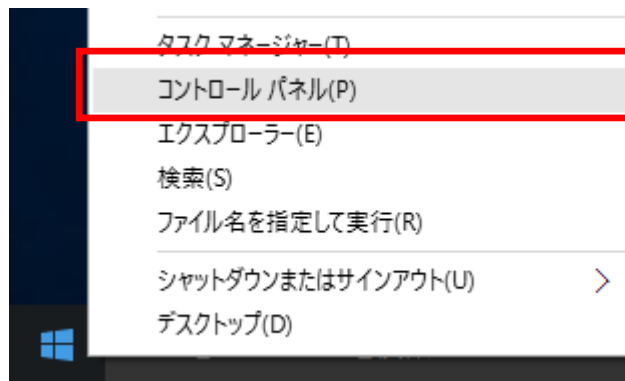


37) [スタート] ボタンを右クリックします。

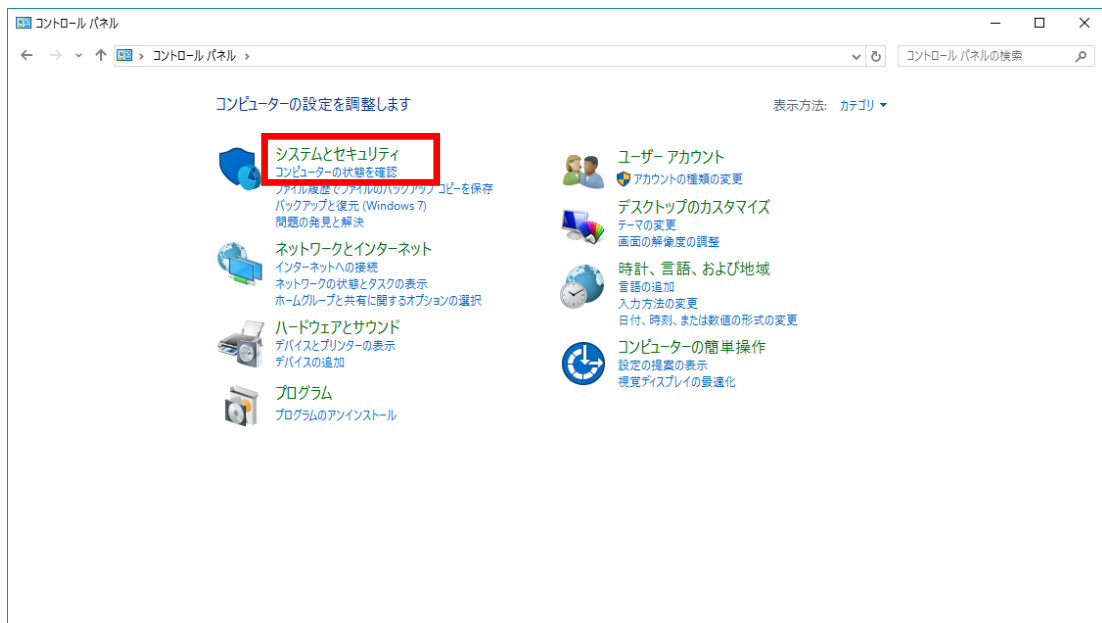


(注) スタンドアロン PC のデスクトップ画面は、スタンドアロン PC のデフォルト設定の画面です。

38) [コントロールパネル] ボタンをクリックします。



39) [コントロールパネル] 画面で、[システムとセキュリティ] をクリックします。



40) [システムとセキュリティ] 画面で、[システム] をクリックします。



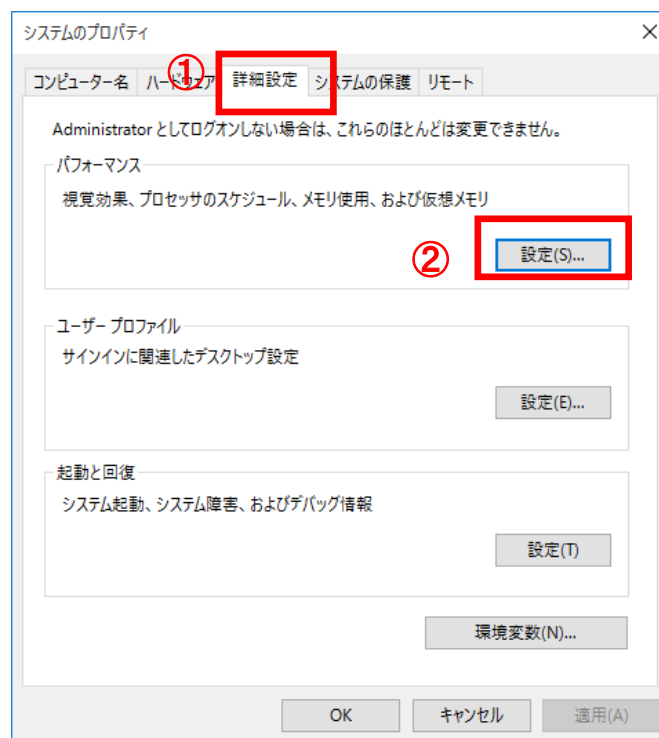
4.1 DB のセットアップ

41) [システム] 画面で、[システムの詳細設定] をクリックします。



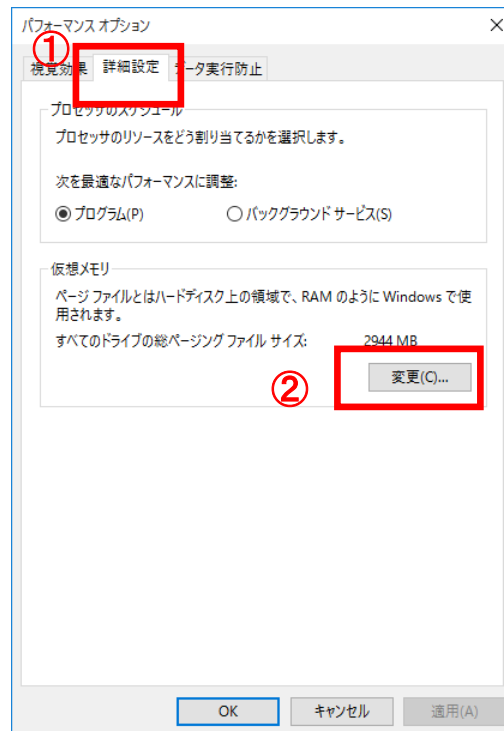
42) [システムのプロパティ] 画面で、

- ① [詳細設定] を選択します。
- ② 「パフォーマンス」の[設定] ボタンをクリックします。

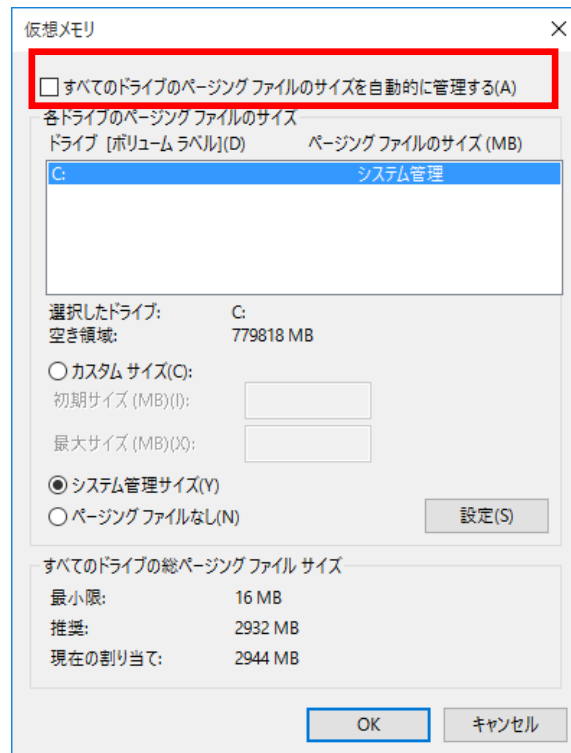


43) [パフォーマンスオプション] 画面で、

- ① [詳細設定] を選択します。
- ② 「仮想メモリ」の[変更] ボタンをクリックします。



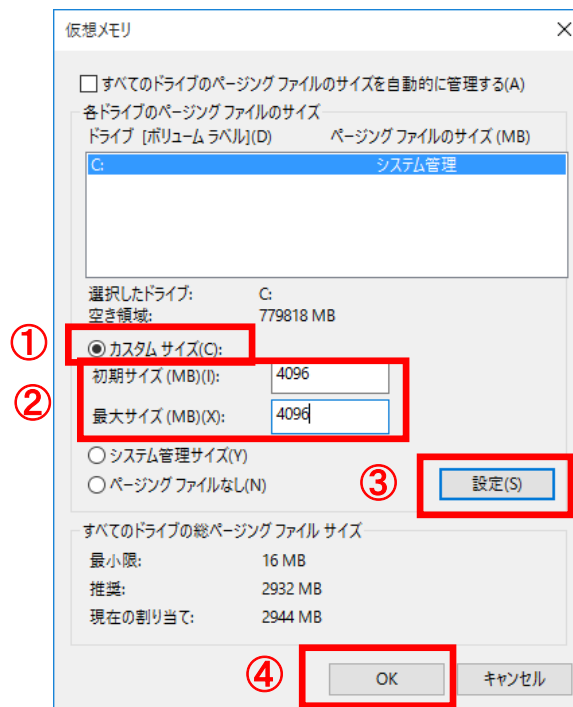
44) [仮想メモリ] 画面で、[すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する] 欄のチェックボックスのチェックが付いている場合は、チェックボックスをクリックします（チェックが外れます）。



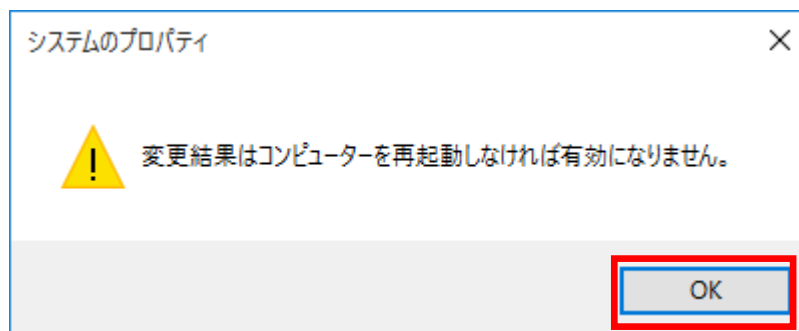
45) [仮想メモリ] 画面で、

- ① [カスタムサイズ] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [初期サイズ] 及び [最大サイズ] 欄のテキストボックスに、「4096」を入力します。
- ③ [設定] ボタンをクリックします。
- ④ [OK] ボタンをクリックします。

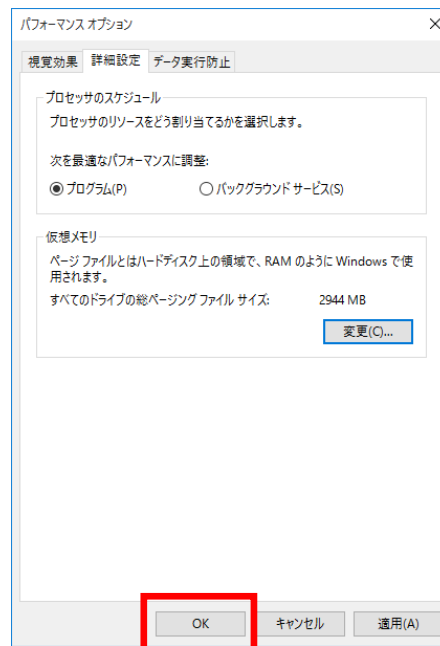
(注) 地方公会計向け前提ミドルウェア及び地方公会計標準ソフトウェア以外のバックアップ管理ソフトウェアやセキュリティ対策ソフトウェア等のその他ミドルウェアを導入している場合は、その他ミドルウェアが使用するメモリ容量を加算した値を設定してください。



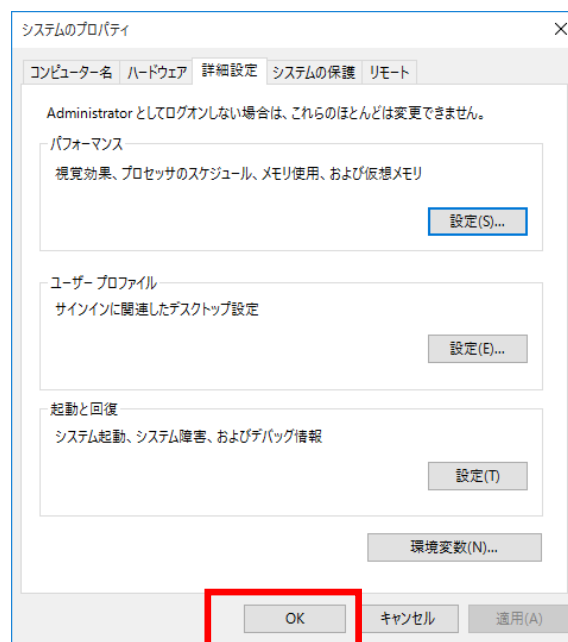
46) 「変更結果はコンピューターを再起動しなければ有効になりません。」というメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



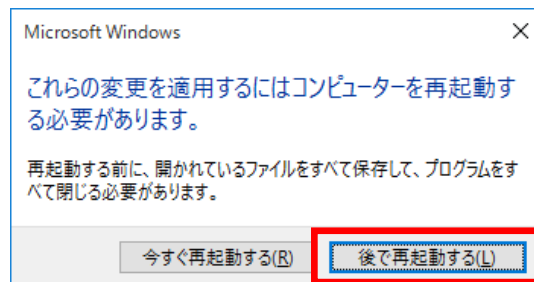
47) [パフォーマンスオプション] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



48) [システムのプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



49) 「これらの変更を適用するにはコンピューターを再起動する必要があります。」というメッセージが表示されたら、[後で再起動する] ボタンをクリックします。



4.1 DB のセットアップ

50) [システム] 画面で、右上の [×] ボタンをクリックします。



5 スタンドアロン PC のセットアップ 3

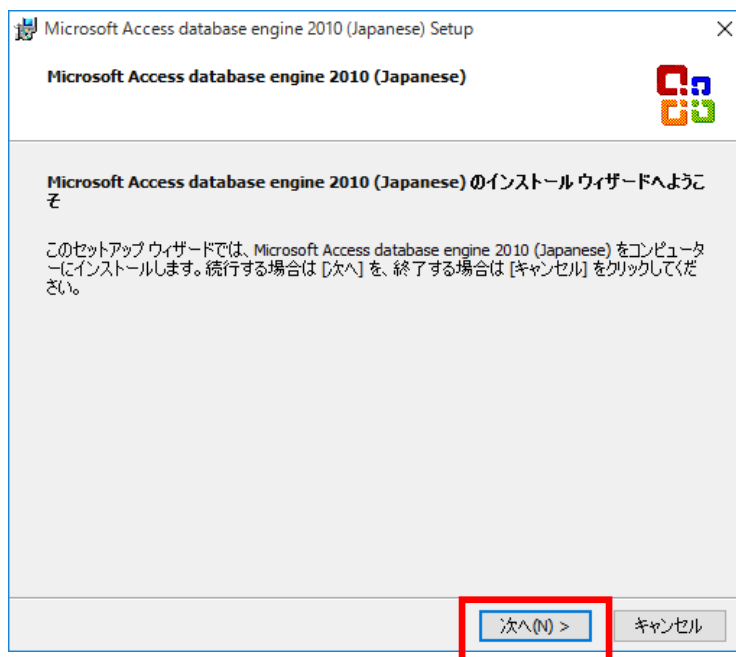
この章では、スタンドアロン PC の AP のセットアップ方法について説明します。

5.1 AP のセットアップ

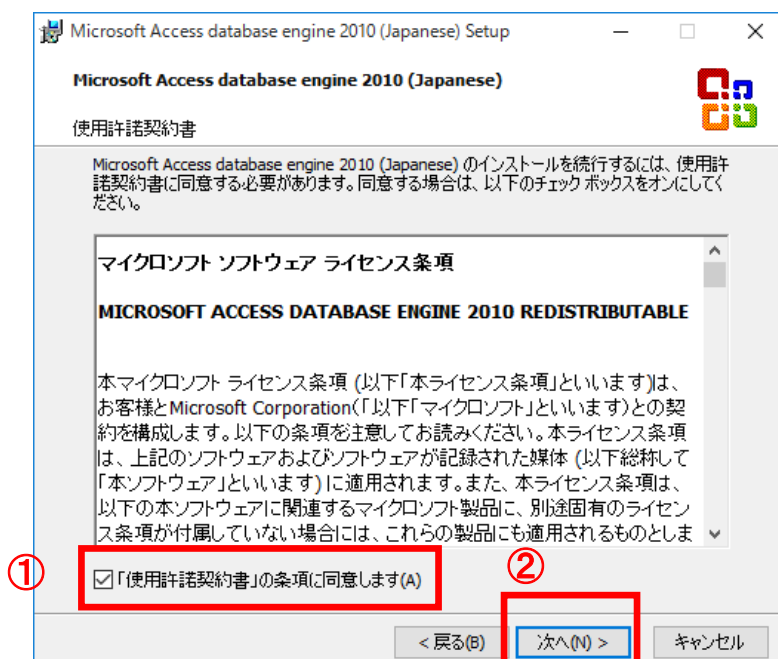
5.1 AP のセットアップ

ここでは、AP のセットアップ方法について説明します。AP のセットアップは、スタンドアロン PC で実施してください。

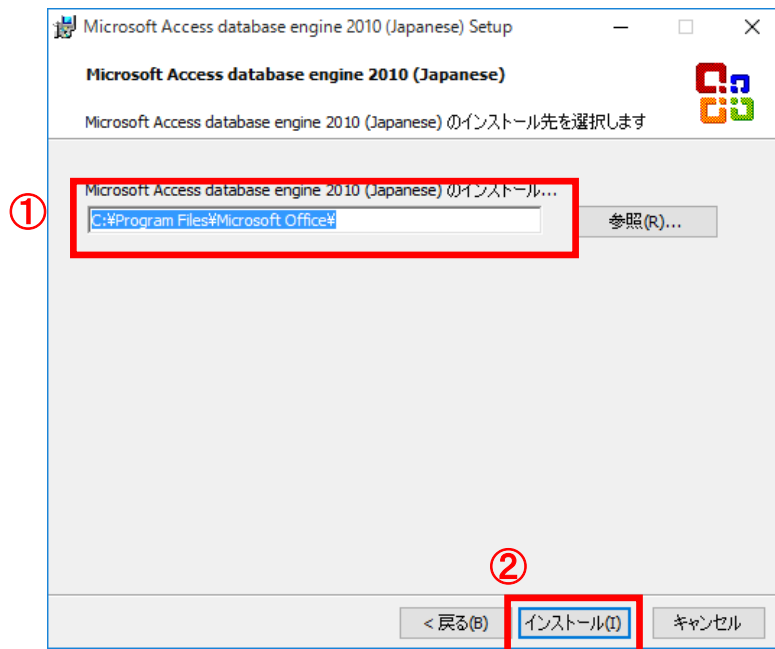
- 1) 「C:\¥kokaikei¥setup_zaims¥setup_tools¥C05_WebAPSetupTools」フォルダ下の「AccessDatabaseEngine_X64.exe」ファイルをダブルクリックします。
- 2) [Microsoft Access database engine 2010 (Japanese) Setup] 画面で [次へ] ボタンをクリックします。



- 3) [Microsoft Access database engine 2010 (Japanese) ソフトウェア使用許諾契約書] 画面で、
 - ① [「使用許諾契約書」の条項に同意します] 欄のチェックボックスをクリックします（チェックが付きます）。
 - ② [次へ] ボタンをクリックします。

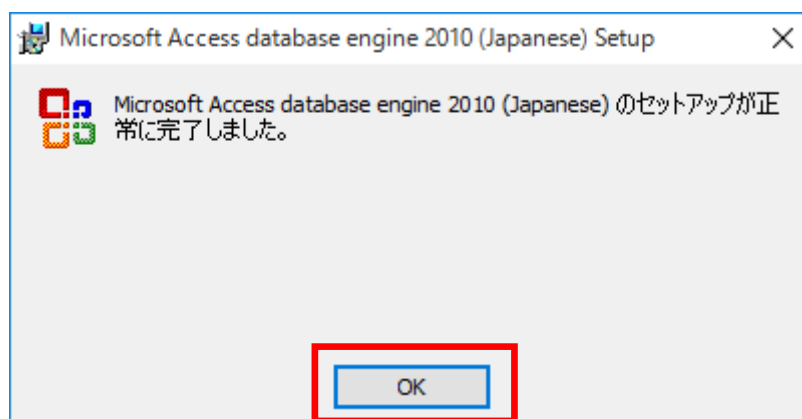


- 4) [Microsoft Access database engine 2010 (Japanese) インストール先のフォルダ] 画面で、
- ① 「1.1 地方公会計標準ソフトウェアの前提環境」の項番 3)で事前に決めた [Microsoft Access Database Engine のインストールディレクトリ] を設定します。
 - ② [インストール] ボタンをクリックします。



(注) インストール先のフォルダは、「C:\Program Files\Microsoft Office\」が推奨です。
インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照] ボタンをクリックして任意のインストール先のフォルダを設定してください。

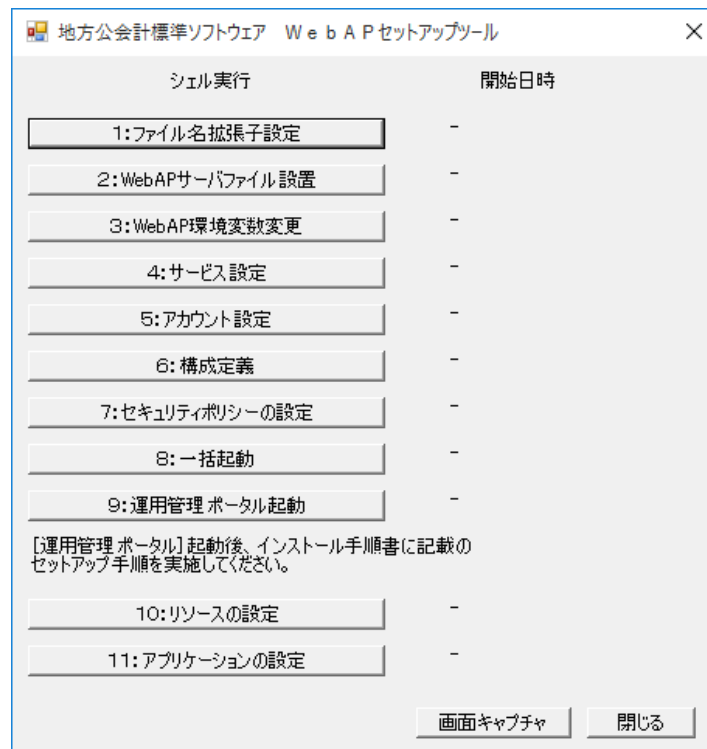
- 5) インストールが完了し、以下の画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。



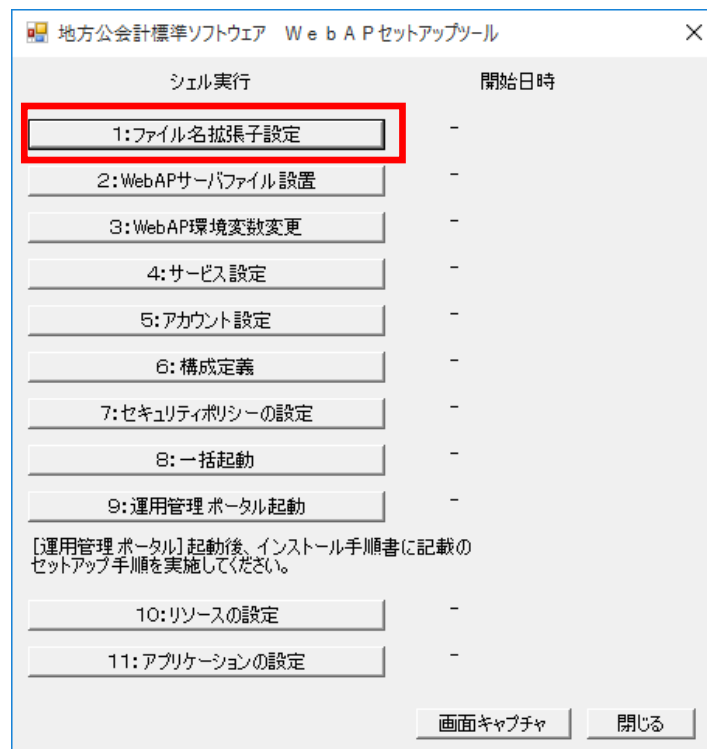
- 6) 「C:\kokaikei\setup_zaims\setup_tools\C05_WebAPSetupTools」フォルダ下の「C05_SetupWebAPServer.bat」をダブルクリックします。

5.1 AP のセットアップ

7) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面が開きます。



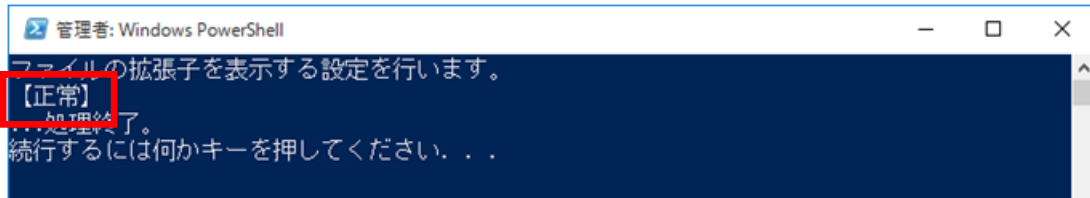
8) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[1 : ファイル名拡張子設定] ボタンをクリックします。



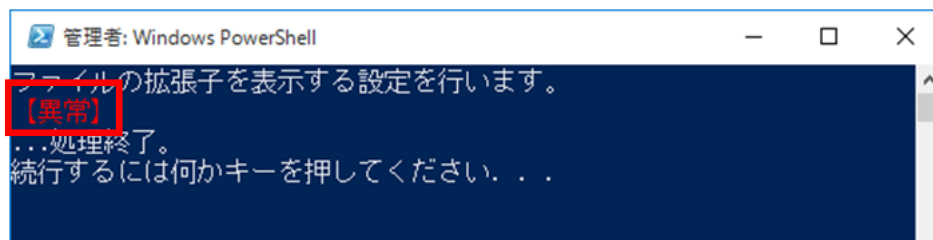
9) 自動的に処理が開始されます。

- ① 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、処理が正常に終了していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

＜"【正常】"の文字が表示されている場合＞



＜"【異常】"の文字が表示されている場合＞

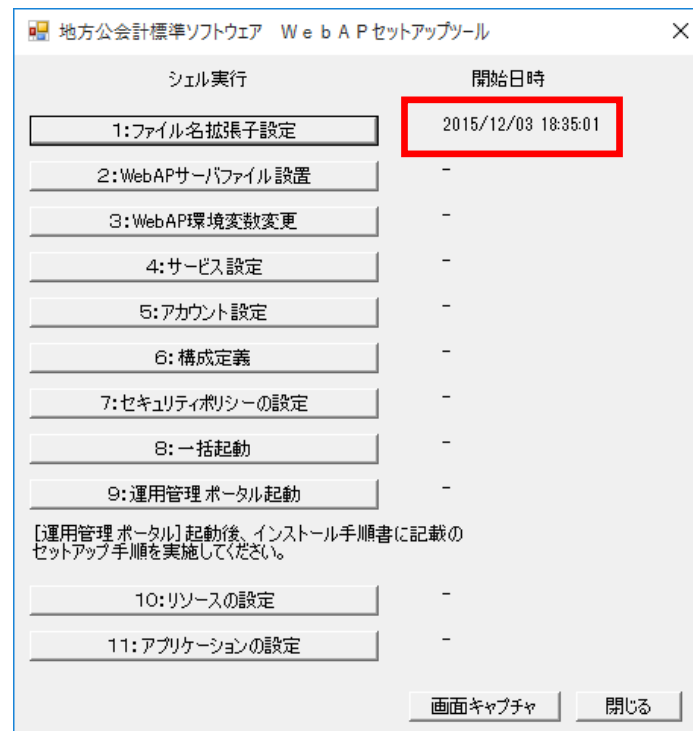


（注）"【異常】"の文字が表示されている場合は、地方公共団体情報システム機構のFAQ・お問合せサイト（https://www.j-lis.go.jp/rdd/kokaikei/cms_93218820107_7.html）の「地方公会計標準ソフトウェアヘルプデスク利用手順」を参照し、同サイトに掲載されている「地方公会計標準ソフトウェア システム導入・操作に関する問合せ用 お問合せシート」に必要な情報を記入し、お問合せシートとログファイルを添付してヘルプデスクまでメールで送付してください。送付するログファイルは、「C:¥ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント」フォルダ下の「kokaikeisetup_tools.log」ファイルです。

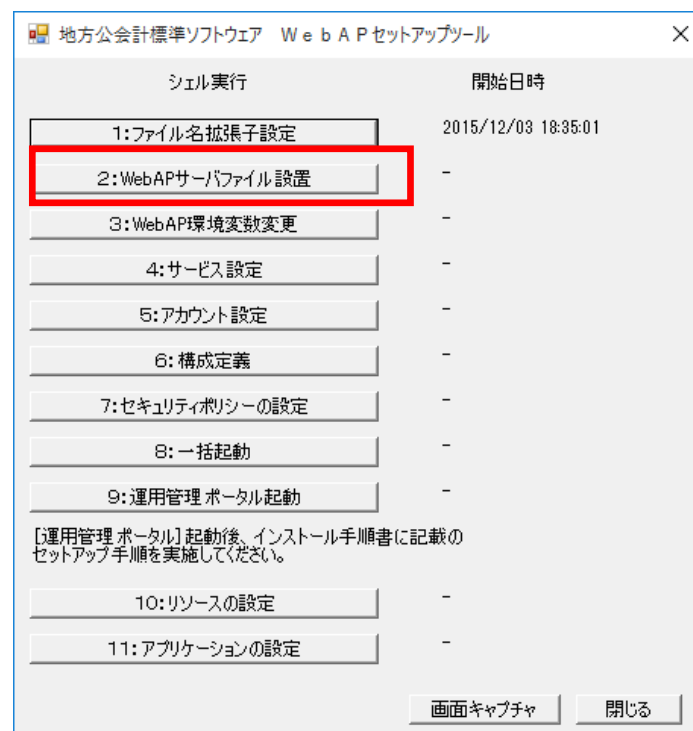
- ② 画面に「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

5.1 AP のセットアップ

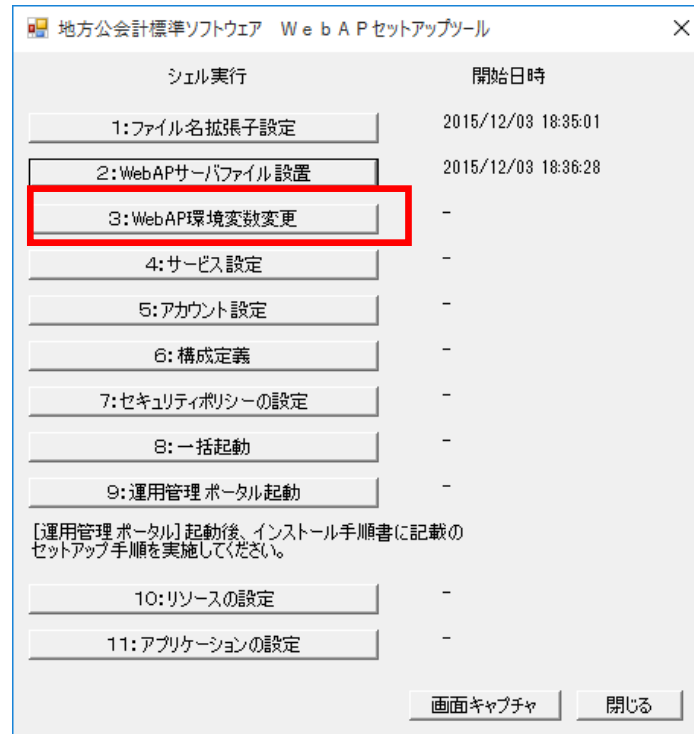
- 10) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面の [1 : ファイル名拡張子設定] ボタンの右側の開始日時に、[1 : ファイル名拡張子設定] ボタンをクリックした日時が表示されていることを確認します。



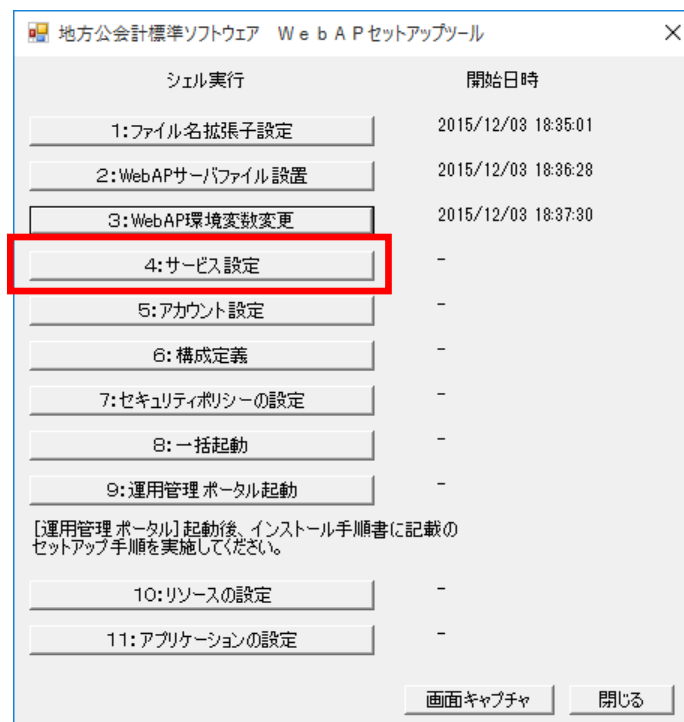
- 11) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[2 : WebAP サーバファイル設置] ボタンをクリックします。



- 12) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。
- 13) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[3 : WebAP 環境変数変更] ボタンをクリックします。

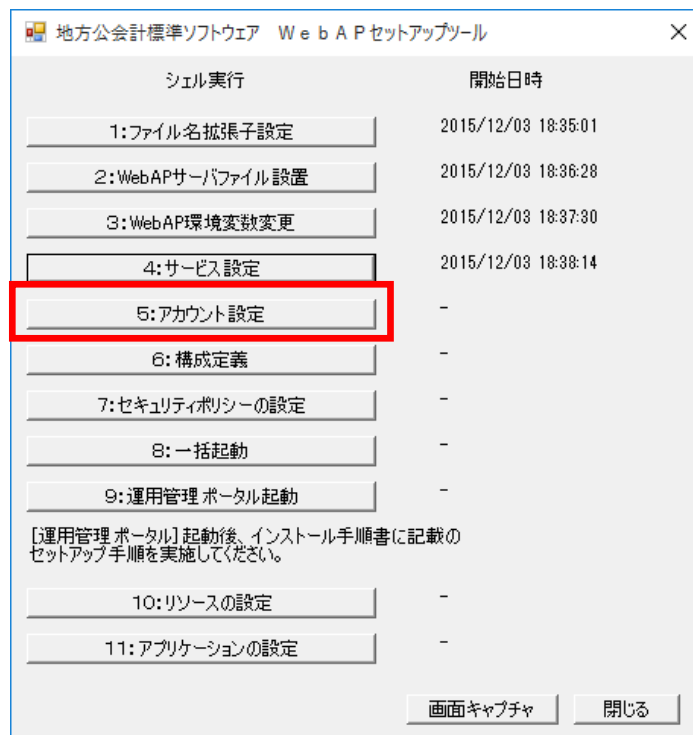


- 14) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。
- 15) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[4 : サービス設定] ボタンをクリックします。

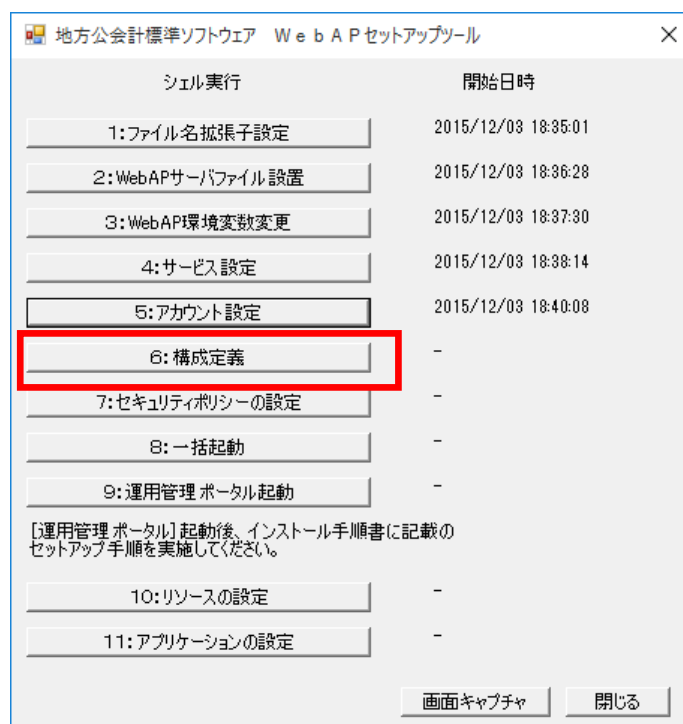


5.1 AP のセットアップ

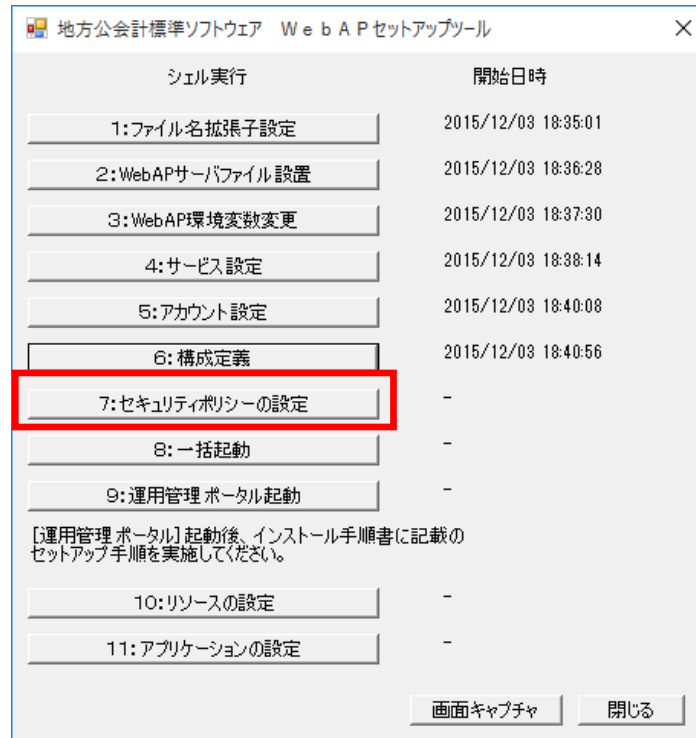
- 16) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。
- 17) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[5 : アカウント設定] ボタンをクリックします。



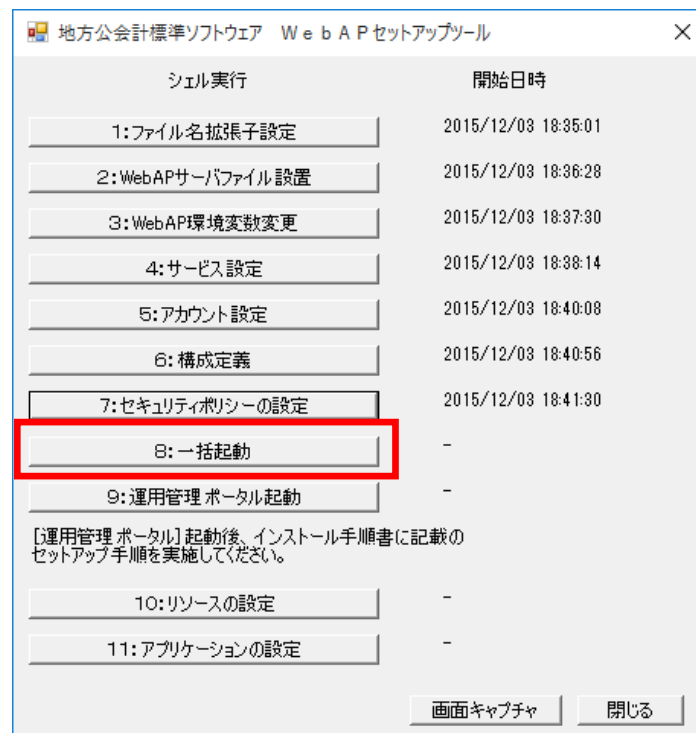
- 18) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。
- 19) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[6 : 構成定義] ボタンをクリックします。



- 20) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください
- 21) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[7:セキュリティポリシーの設定] ボタンをクリックします。



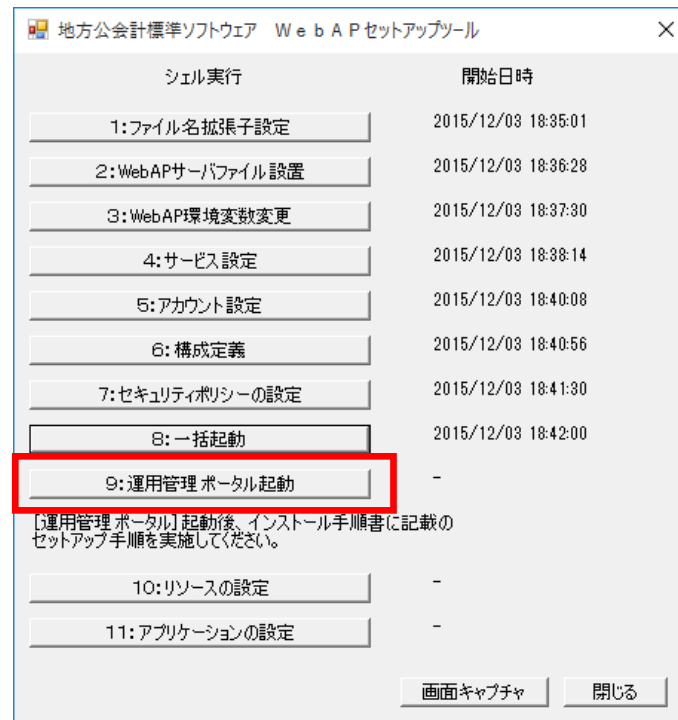
- 22) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること) を実施してください。
- 23) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[8:一括起動] ボタンをクリックします。



5.1 AP のセットアップ

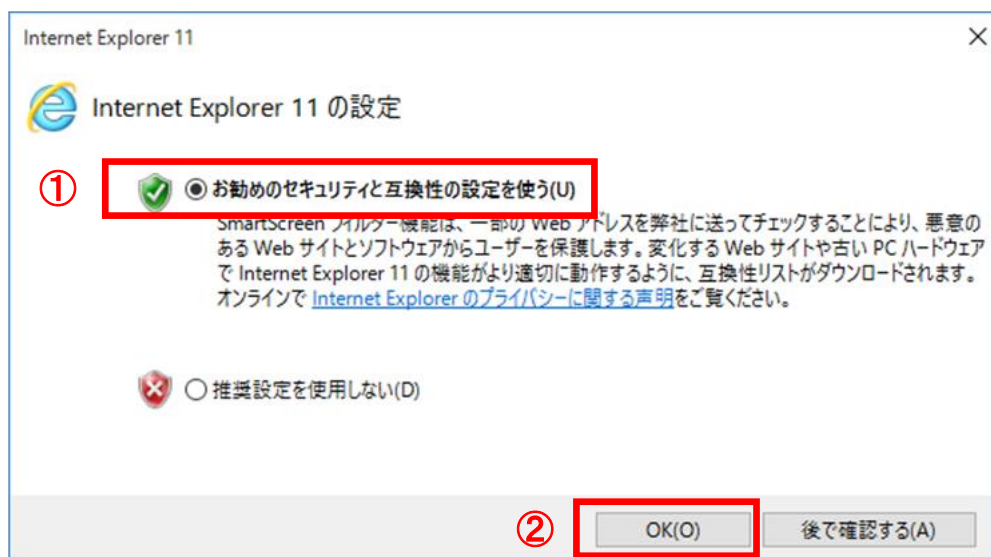
24) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。

25) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[9 : 運用管理ポータル起動] ボタンをクリックします。



26) 以下の [Internet Explorer 11 の設定] 画面が表示された場合は、

- ① [お勧めのセキュリティと互換性の設定を使う] 欄のラジオボタンを選択します。
- ② [OK] ボタンをクリックします。



27) スタンドアロン PC がネットワークに接続していない場合は、以下の画面が表示されますので、[Cosminexus Management Server] タブをクリックします。



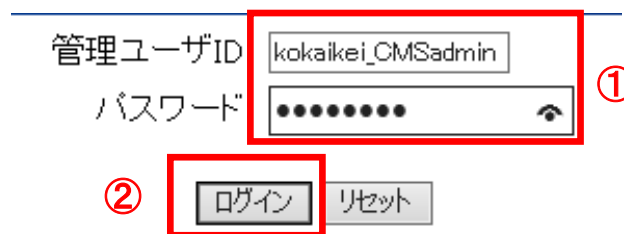
28) [運用管理ポータルログイン] 画面が起動します。



5.1 AP のセットアップ

29) [運用管理ポータルログイン] 画面で、

- ① [管理ユーザ ID] 欄のテキストボックスに 3.1 節の項番 12) で設定した管理ユーザ ID とパスワードを入力します。
- ② [ログイン] ボタンをクリックします。



30) [運用管理ポータル] 画面で、「Cosminexus Management Server の設定」をクリックします。

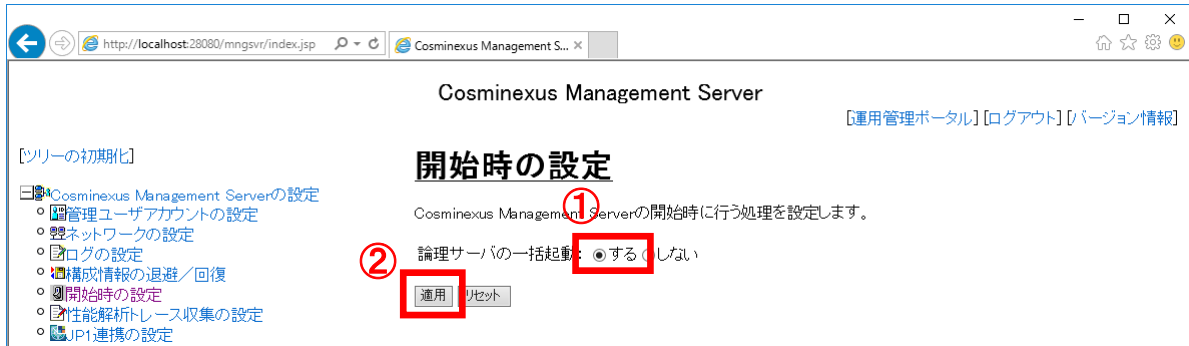


31) [Cosminexus Management Server の設定] - [開始時の設定] をクリックします。



32) [開始時の設定] 画面で、

- ① [論理サーバの一括移動] の「する」のラジオボタンを選択します。
- ② 「適用」をクリックします。



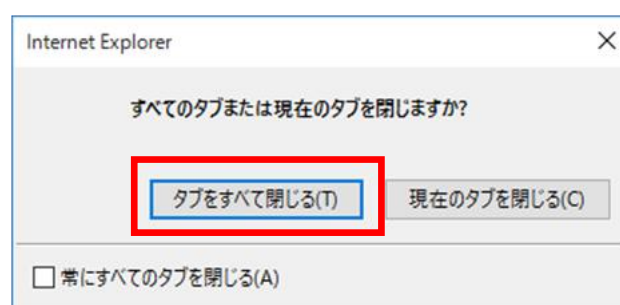
33) [開始時の設定] 画面で、「ログアウト」をクリックします。



34) [Cosminexus Management Server] 画面で、[×] ボタンをクリックしてインターネットエクスプローラ画面を閉じます。

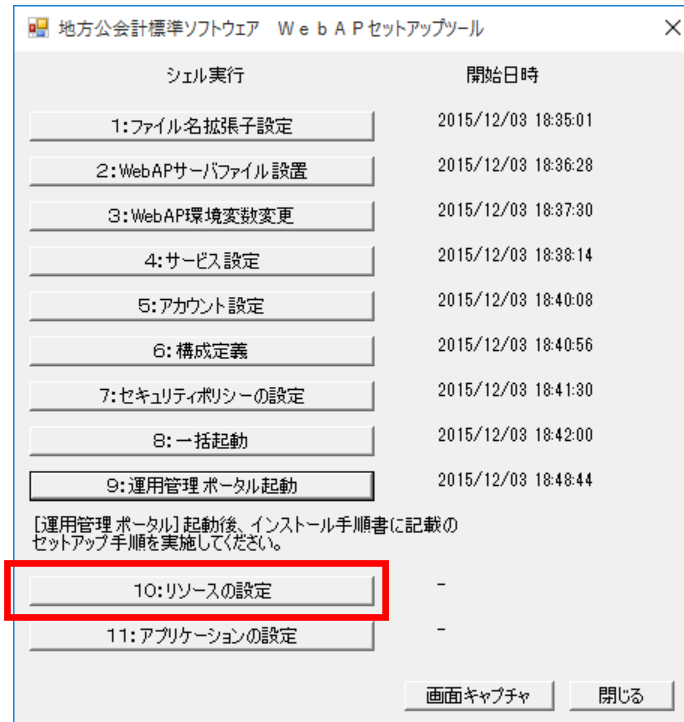


35) 「すべてのタブまたは現在のタブを閉じますか?」のメッセージが表示されたら、[タブをすべて閉じる] ボタンをクリックします。

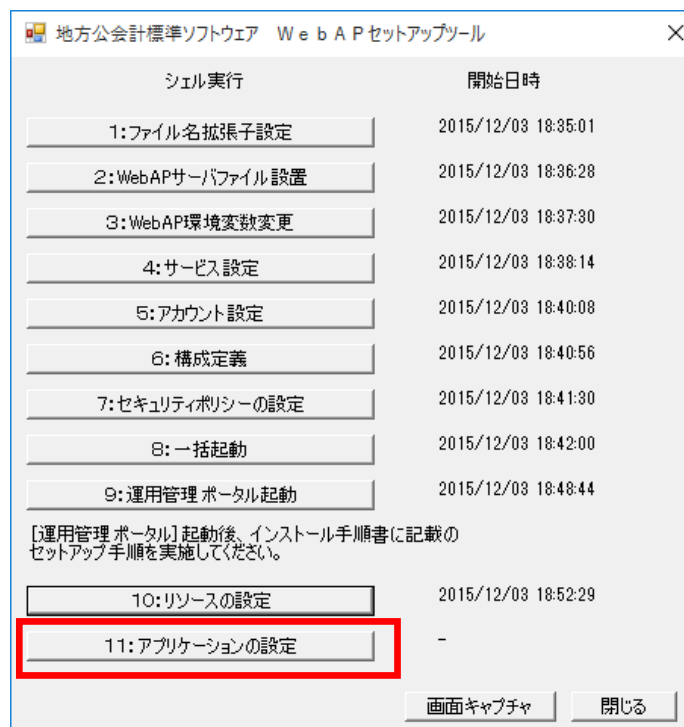


5.1 AP のセットアップ

- 36) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、5.1 節の項番 10)と同様の確認（開始日時が表示されていること）を実施してください。
- 37) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[10：リソースの設定] ボタンをクリックします。

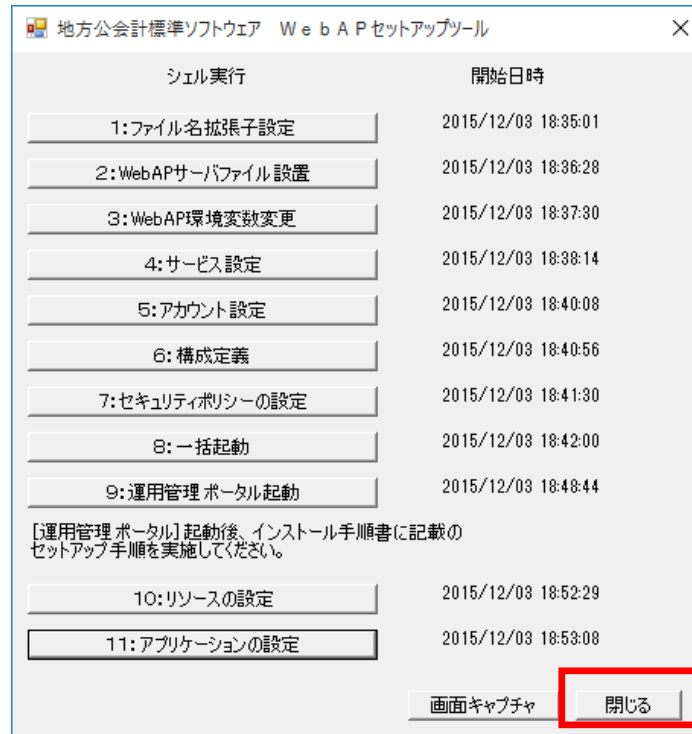


- 38) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認（「【正常】」の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること）を実施してください。
- 39) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[11：アプリケーションの設定] ボタンをクリックします。



40) 5.1 節の項番 9)と同様に自動的に処理が開始されます。5.1 節の項番 9)及び項番 10)と同様の確認 ("【正常】"の文字が表示されていること、及び開始日時が表示されていること)を実施してください。

41) [地方公会計標準ソフトウェア WebAP セットアップツール] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックします。



6 OS 再起動後の確認

この章では、OS 再起動後の確認方法について説明します。

6.1 OS 再起動後の確認

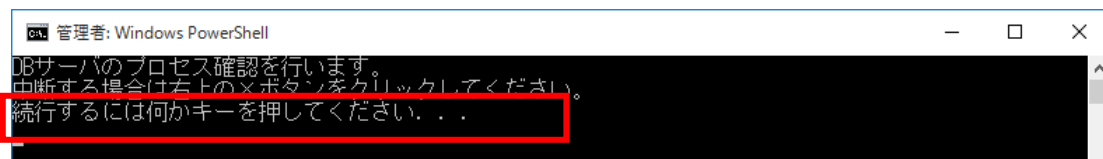
6.1 OS 再起動後の確認

ここでは、OS 再起動後の確認方法について説明します。OS 再起動後の確認は、スタンドアロン PC で実施してください。

1) OS を再起動します。

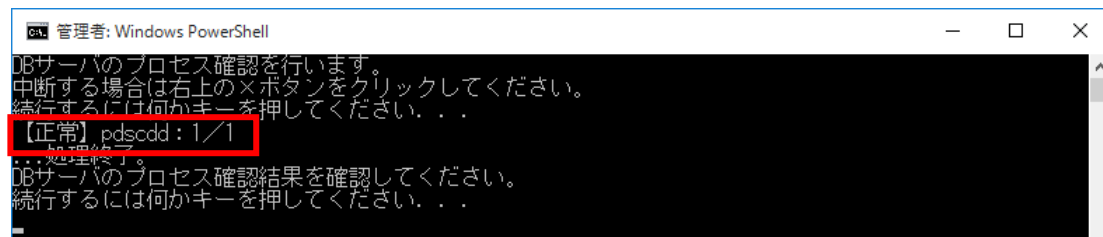
(注) プロセスが起動するまでに時間がかかる場合があります。そのため、OS 再起動後、最低でも 5 分程度待ってから、以下の手順を実施してください。

- 2) 「C:\%kokaikai%\setup_zaims\unyo_tools」フォルダ下の「DBck01_プロセス確認.bat」ファイルをダブルクリックします。
- 3) 自動的に処理が開始されます。以下のように「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。処理が続行されます。

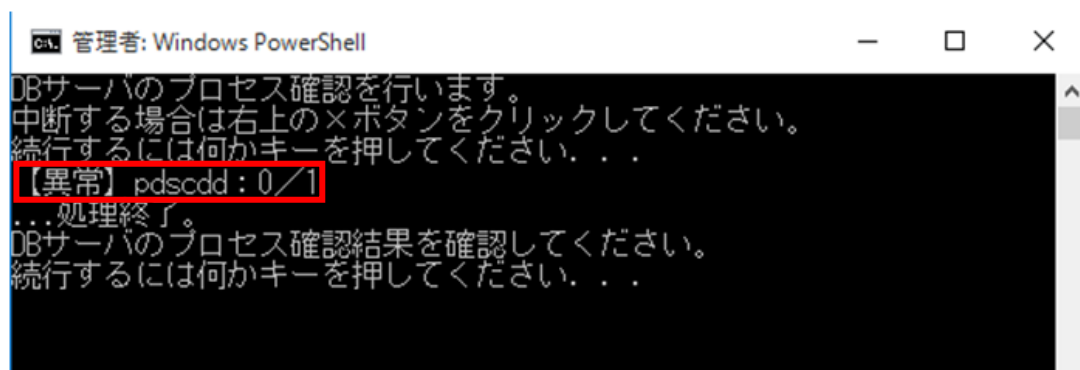


- 4) 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、DB サーバのプロセスが起動していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

<"【正常】"の文字が表示されている場合>



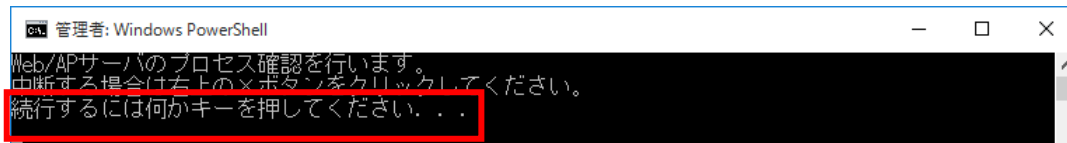
<"【異常】"の文字が表示されている場合>



- 5) 6.1 節の項番 4)で"【異常】"の文字が表示されている場合、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (1)DB サーバのプロセス起動」に示す手順で DB サーバのプロセスを起動してください。
- 6) 6.1 節の項番 4)で、「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください
- 7) 「C:\%kokaikai%\setup_zaims\unyo_tools」フォルダ下の「APck01_プロセス確認.bat」ファイルをダブルクリックします。

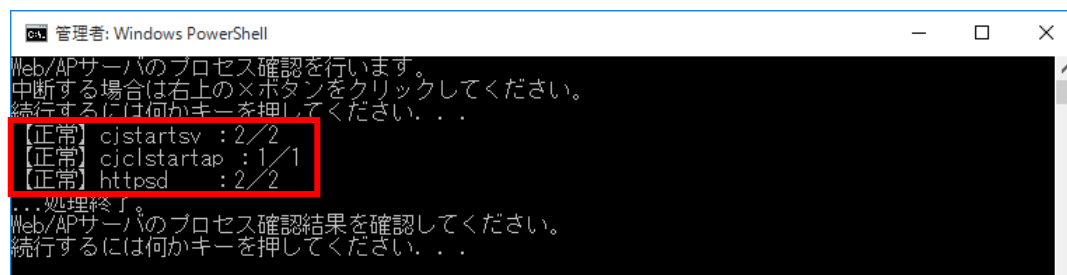
6.1 OS 再起動後の確認

- 8) 自動的に処理が開始されます。以下のように「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。処理が続行されます。

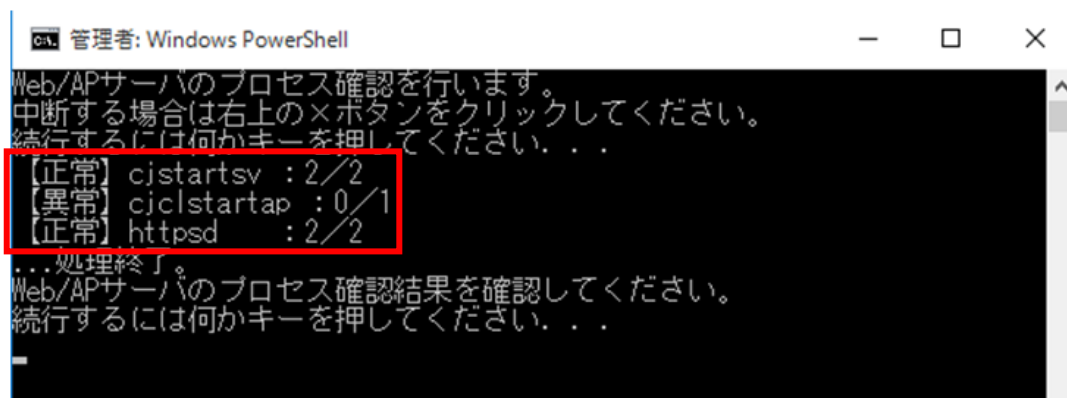


- 9) 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、Web/AP サーバのプロセスが起動していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

<"【正常】"の文字が表示されている場合>



<"【異常】"の文字が表示されている場合>



- 10) 6.1 節の項番 9)で「cstartsv」または「httpsd」の前に"【異常】"の文字が表示されている場合は、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (2) Web/AP サーバのプロセス起動」に示す手順でプロセスを起動します。また、6.1 節の項番 9)で「cjclstartsv」の前に"【異常】"の文字が表示されている場合は、別冊資料「システム運用マニュアル案」の「4.9 プロセス起動 (3) 地方公会計標準ソフトウェアオンラインバッチのプロセス起動」に示す手順で各プロセスを起動します。
- 11) 6.1 節の項番 9)で、「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

7 スタンドアロン PC のセットアップ 4

この章では、地方公会計標準ソフトウェアを操作するためのセットアップ方法について説明します。

- 7.1 地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップ
- 7.2 地方公会計標準ソフトウェアの画面の起動確認
- 7.3 地方公会計標準ソフトウェアの初回ログイン時の作業
- 7.4 地方公会計標準ソフトウェアの利用開始にあたって

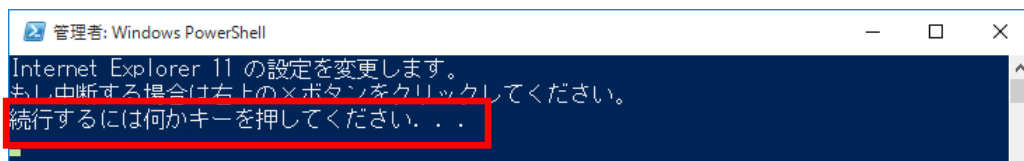
7.1 地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップ

ここでは地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップ方法について説明します。地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップは、スタンドアロン PC で実施してください。

1) 「C:\¥kokaikai¥setup_zaims¥setup_tools¥C07_ClientPCSetupTools」フォルダ下の「C07-01_IE 設定.bat」をダブルクリックします。

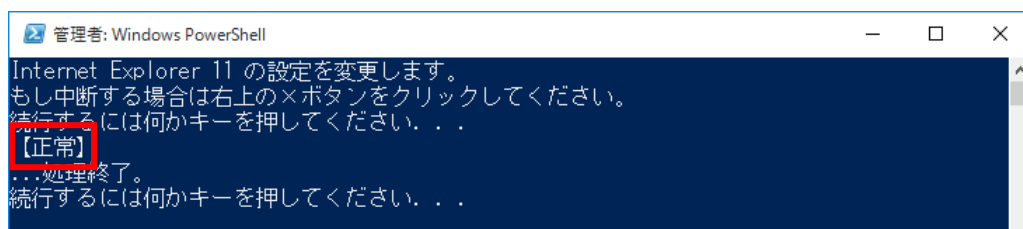
2) 自動的に処理が開始されます。

- ① 以下のように「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

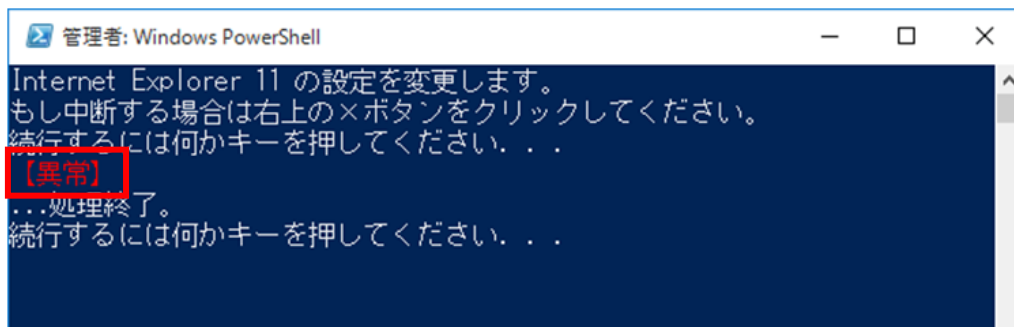


- ② 以下のように"【正常】"の文字が表示されていることを確認します。なお、処理が正常に終了していない場合は、"【異常】"の文字が表示されます。

<"【正常】"の文字が表示されている場合>



<"【異常】"の文字が表示されている場合>

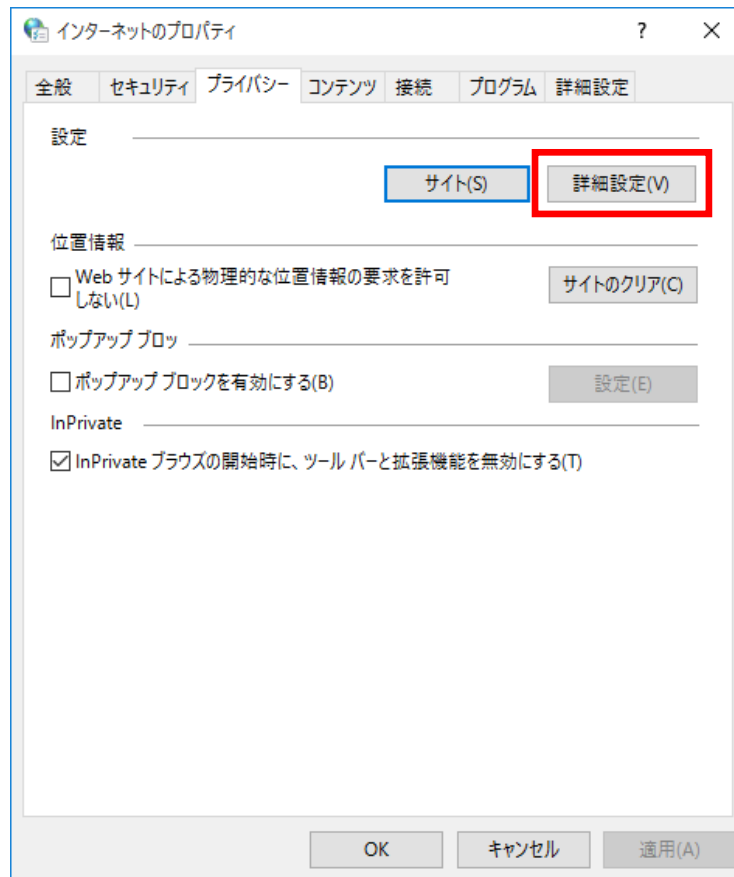


(注) "【異常】"の文字が表示されている場合は、地方公共団体情報システム機構のFAQ・お問合せサイト(https://www.j-lis.go.jp/rdd/kokaikai/cms_93218820107_7.html)の「地方公会計標準ソフトウェアヘルプデスク利用手順」を参照し、同サイトに掲載されている「地方公会計標準ソフトウェア システム導入・操作に関する問合せ用 お問合せシート」に必要な情報を記入し、お問合せシートとログファイルを添付してヘルプデスクまでメールで送付してください。送付するログファイルは、「C:\¥ユーザー¥パブリック¥パブリックのドキュメント」フォルダ下の「kokaikaisetup_tools.log」ファイルです。

- ③ 「続行するには何かキーを押してください・・・」のメッセージが出力されている場合は、キーボードの何れかのキーを押してください。

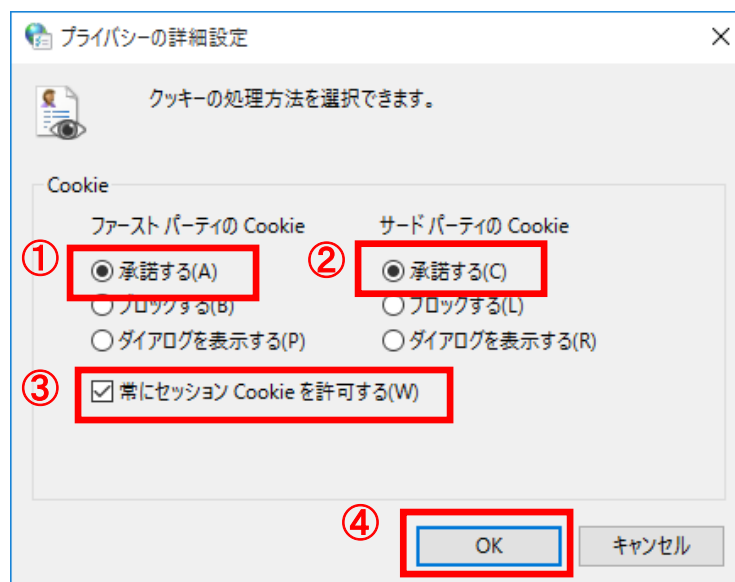
7.1 地方公会計標準ソフトウェアの画面のセットアップ

- 3) 「C07_ClientPCSetupTools」フォルダ下の「C07-02_インターネットオプション（プライバシータブ）を開く.bat」をダブルクリックします。
- 4) [インターネットのプロパティ] 画面で、[詳細設定] ボタンをクリックします。

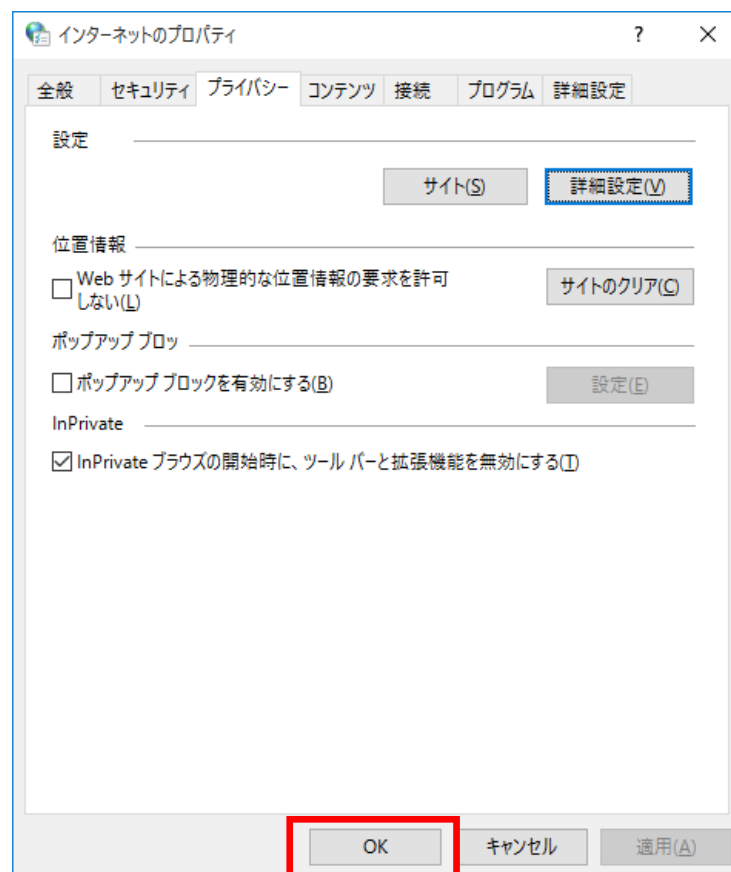


5) [プライバシーの詳細設定] 画面で、

- ① [ファーストパーティの Cookie] - [承諾する] ラジオボタンをオンにします。
- ② [サードパーティの Cookie] - [承諾する] ラジオボタンをオンにします。
- ③ [常にセッション Cookie を許可する] チェックボックスをクリックします (チェックが付きます)
- ④ [OK] ボタンをクリックします。



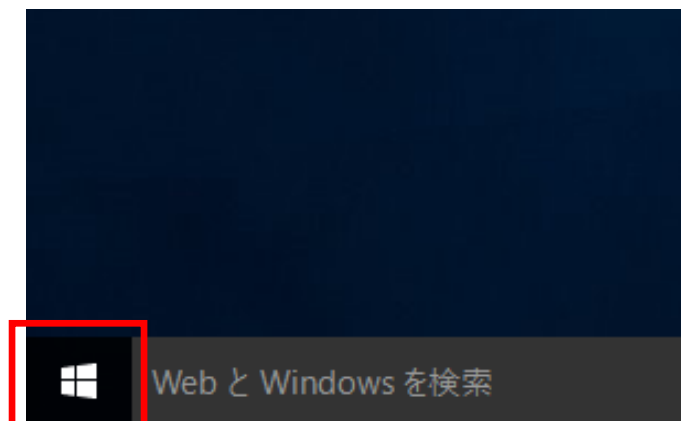
6) [インターネットのプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



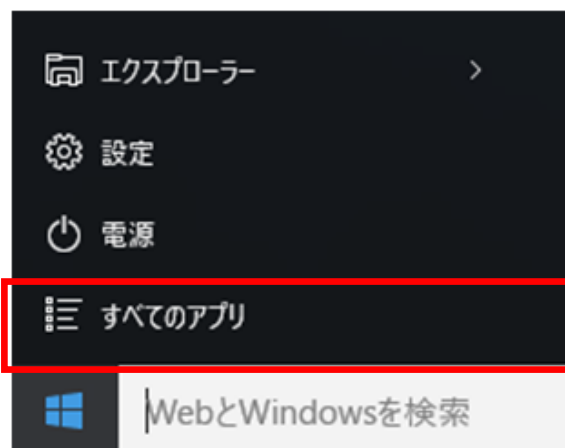
7.2 地方公会計標準ソフトウェアの画面の起動確認

ここでは、地方公会計標準ソフトウェアの画面の起動確認方法について説明します。

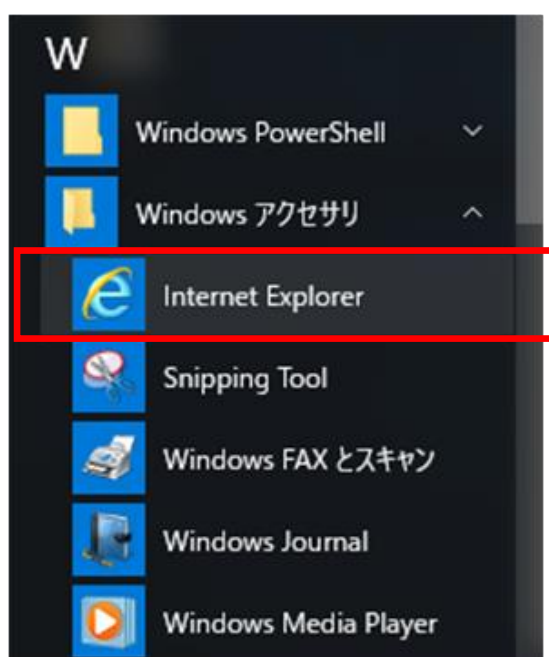
1) [スタート] ボタンをクリックします。



2) [すべてのアプリ] をクリックします。

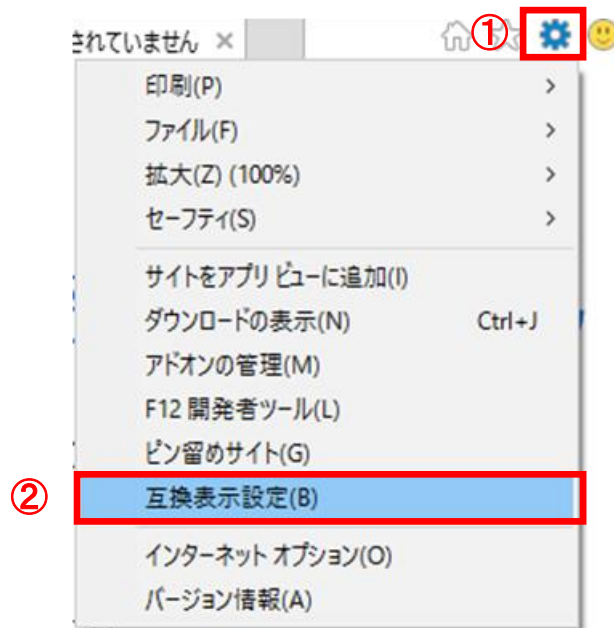


3) 下にスクロールして、[Windows アクセサリ] - [Internet Explorer] をクリックします。



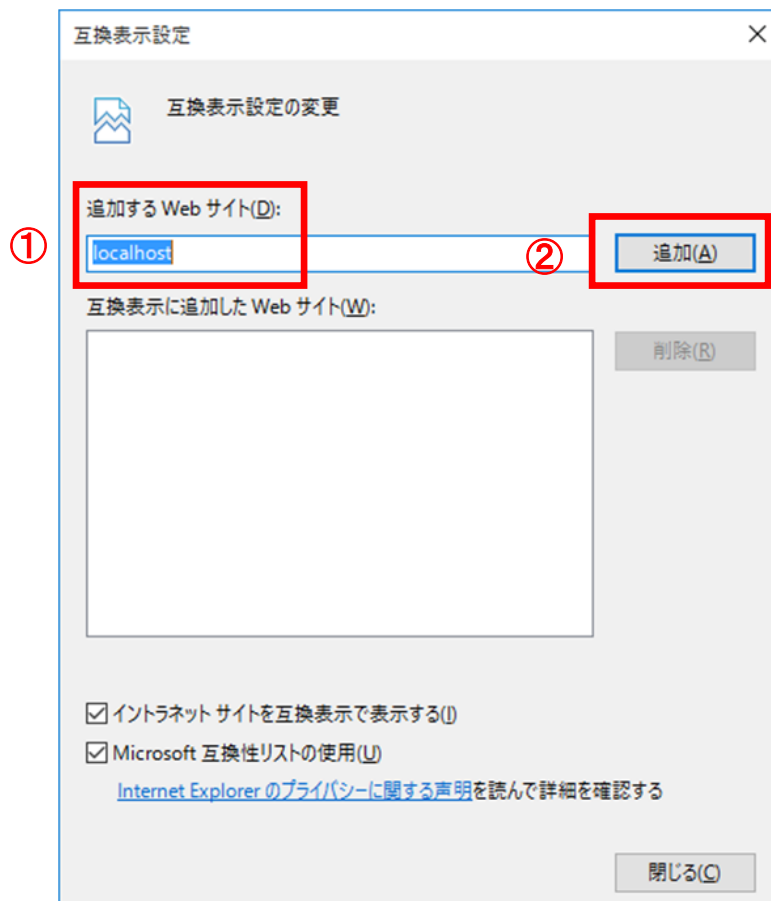
4) インターネットエクスプローラで、

- ① [ツール] マークをクリックします。
- ② [互換表示設定] をクリックします。



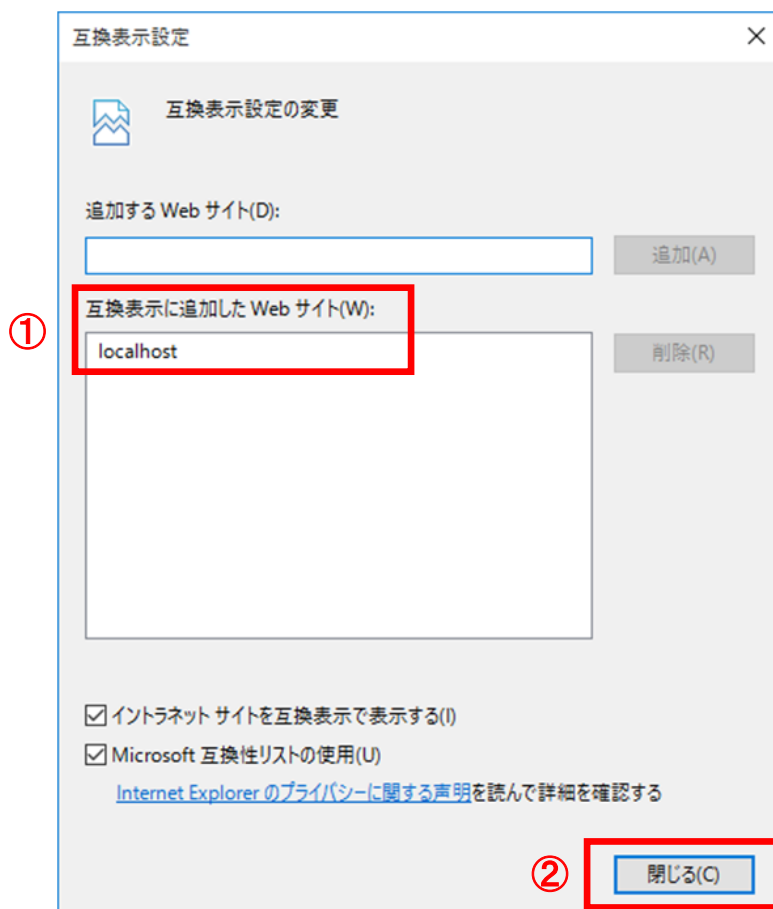
5) [互換表示設定] 画面で、

- ① [追加する Web サイト] の入力欄に「localhost」と入力します。
- ② [追加] ボタンをクリックします。



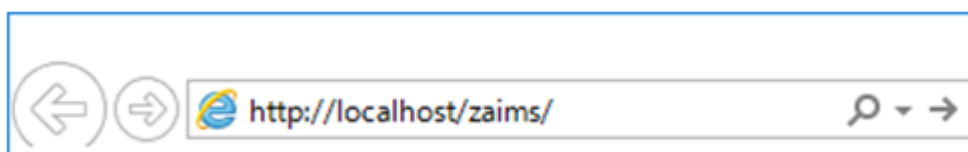
6) [互換表示設定] 画面で、

- ① [互換表示に追加した Web サイト] 欄に「localhost」が追加されたことを確認します。
- ② [閉じる] ボタンをクリックします。

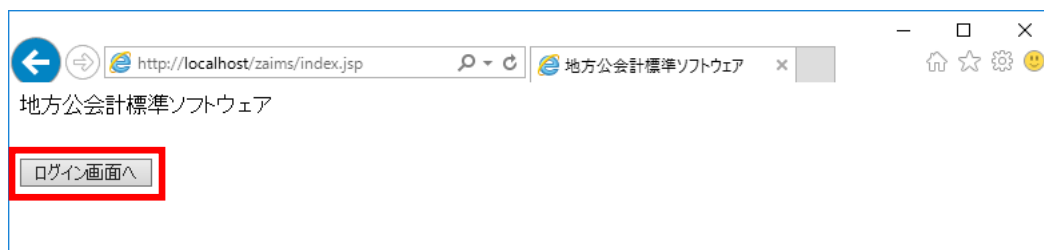


7) インターネットエクスプローラで、次に示す URL をアドレスバーに入力して、[Enter] キーを押します。

http://localhost /zaims/

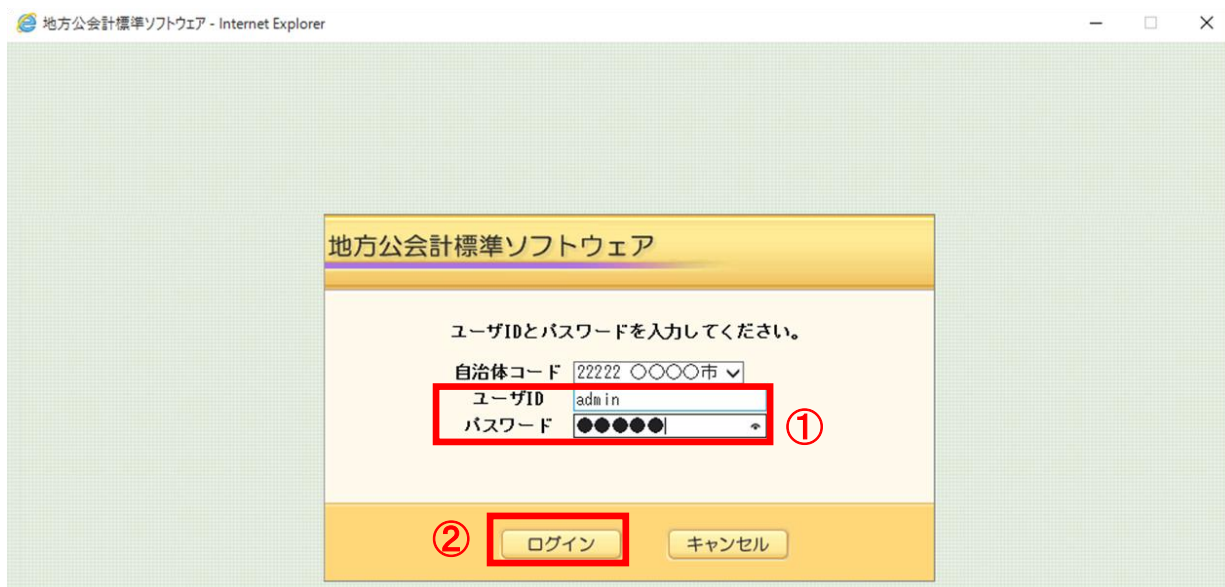


8) [地方公会計標準ソフトウェア] 画面で、[ログイン画面へ] ボタンをクリックします。



9) [地方公会計標準ソフトウェアログイン] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「admin」、[パスワード] 欄のテキストボックスに「admin」と入力します。
- ② [ログイン] ボタンをクリックします。

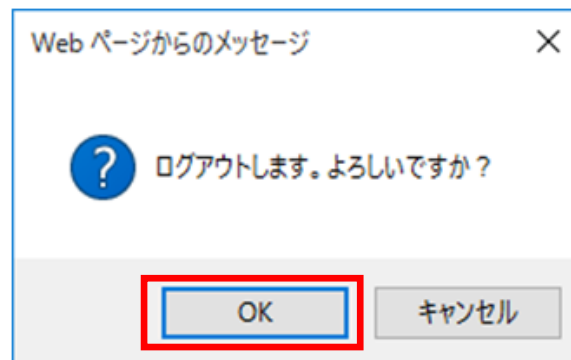


10) メニュー画面が表示されることを確認して、[ログアウト] ボタンをクリックします。



7.2 地方公会計標準ソフトウェアの画面の起動確認

- 11) [Web ページからのメッセージ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。必要に応じて、地方公会計標準ソフトウェアの画面を閉じてください。



7.3 地方公会計標準ソフトウェアの初回ログイン時の作業

ここでは、地方公会計標準ソフトウェアの画面の初回ログイン時に実施する作業について説明します。初回ログイン時には必要に応じて、システム管理権限を持つ初期登録ユーザ「admin」のパスワードを変更してください。ユーザ「admin」のパスワード変更手順は付録 B を参照ください。

7.4 地方公会計標準ソフトウェアの利用開始にあたって

以上で地方公会計標準ソフトウェアのインストール作業は完了です。尚、本手順で初期セットアップされる、利用開始にあたって必要な情報を以下に示します。以下の情報を用いて別冊資料「操作手順書」に沿って地方公会計標準ソフトウェアの利用をお願いします。

項番	必要な情報	値	備考
1	地方公会計標準ソフトウェア ログイン画面の URL	http://localhost/zaims/	
2	地方公会計標準ソフトウェア の初期登録ユーザ	admin	利用開始後もユーザ 「admin」は削除しない ください。

付録

この章では、地方公会計標準ソフトウェアの環境構築手順において必要な場合に参照して頂きたい項目について説明しています。

付録 A システム構成パターン

付録 B パスワード変更手順

付録 C システム環境変数 PATH 追加手順

付録 A システム構成パターン

地方公会計標準ソフトウェアの稼働に必要なシステム構成パターンは、団体規模、仕訳方式の組合せにより決まります。各地方公共団体は自団体が該当するシステム構成パターンにより、本手順書においてセットアップに使用する設定ファイルや設定値が異なる箇所があるため、事前に自団体が該当するシステム構成パターンを確認してください。

(1) 団体規模

団体規模は、財務会計システム等から地方公会計標準ソフトウェアに取り込む財務伝票データ件数により表 A-1 のとおり分類します。実際の財務伝票データ件数が、表 A-1 の財務伝票データ件数の目安と異なる場合は、実際の財務伝票データ件数に該当する団体規模としてください。（例えば、人口 5 万人の団体規模で、実際の財務伝票データ件数が 20 万件の場合は、団体規模は「中規模」とします。）

表 A-1 団体規模の分類

項番	団体規模	地方公会計標準ソフトウェアに取り込む 財務伝票データ件数の目安（1 団体当たり）
1	小規模（人口 10 万人未満）	1 万件～10 万件
2	中規模（人口 10 万人～100 万人）	10 万件～100 万件
3	大規模（都道府県、政令指定都市）	100 万件程度

表 A-1 に示す団体規模が小規模の場合は、業務運用パターンにより、団体規模を表 A-2 のとおり分類します。小規模に該当する各地方公共団体は、いずれの業務運用パターンを採用するか事前に検討する必要があります。

表 A-2 業務運用パターンによる小規模団体の分類

項番	区分	業務運用パターン
1	小規模①	1 台の PC で、地方公会計標準ソフトウェアを利用して仕訳を行うなどの公会計に関する業務を実施する。
2	小規模②	複数台の PC で、同時に地方公会計標準ソフトウェアを利用して仕訳を行うなどの公会計に関する業務を実施する。

(2) 仕訳方式

仕訳方式は、財務伝票の仕訳を行うタイミングにより、表 A-3 のとおり分類します。各地方公共団体は、どちらの方式を採用するか事前に検討する必要があります。

表 A-3 仕訳方式

項番	方式	説明
1	期末一括仕訳	日々の財務伝票を蓄積し、期末に一括して複式仕訳を行い財務書類等の作成を行う仕訳方式。
2	日々仕訳	財務伝票について都度複式仕訳を行い財務書類等の作成を行う仕訳方式。

(3) 減価償却パターン

減価償却パターンは、固定資産の減価償却の算出を行う単位により、表 A-4 のとおり分類します。各地方公共団体は、いずれのパターンを採用するか事前に検討する必要があります。

表 A-4 減価償却パターン

項番	減価償却パターン	説明
1	年割	減価償却額を年単位で算出する。
2	月割／日割	減価償却額を月単位又は日単位で算出する。

(4) システム構成パターン

地方公会計標準ソフトウェアのシステム構成は、上記「(1)団体規模」、「(2)仕訳方式」の組合せにより、地方公会計標準ソフトウェアの稼働に必要なシステム構成パターンを表 A-5 に示すとおり分類することができます。

尚、システム構成パターンごとに(3)減価償却パターンにより、ハードディスク容量が決まります。仕様は、別冊資料「システム仕様書」の「第4章システム構成例」を参照してください。

表 A-5 システム構成パターン

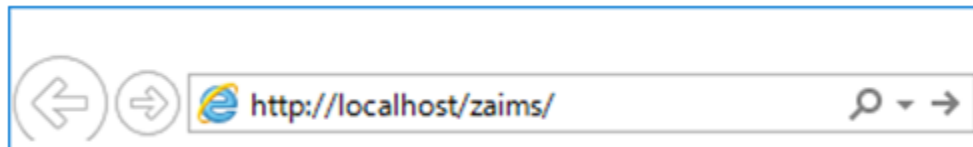
項番	団体規模	仕訳方式		備考
		期末一括仕訳	日々仕訳	
1	小規模①	パターン A	パターン C	(3)減価償却パターンによりハードディスク容量の仕様が異なる。仕様は別冊資料「システム仕様書」の「第4章システム構成例」を参照。
2	小規模②	パターン B	パターン C	
3	中規模	パターン C	パターン D	
4	大規模	パターン D		

付録 B パスワード変更手順

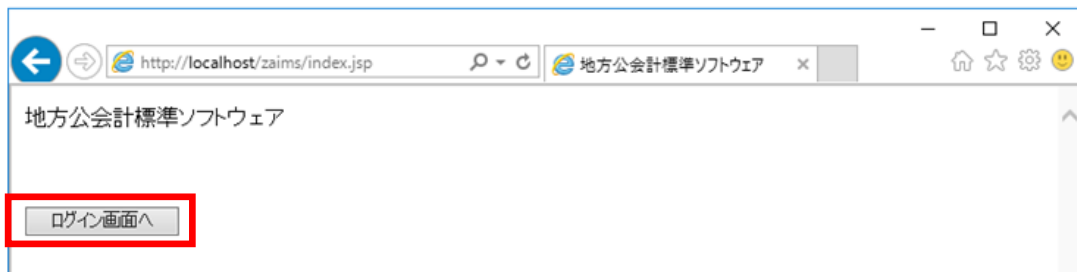
ここでは、ユーザ「admin」のパスワードを変更する手順を説明します。

- 1) インターネットエクスプローラを起動して、次に示す URL をアドレスバーに入力して、[Enter] キーを押します。

http://localhost /zaims/

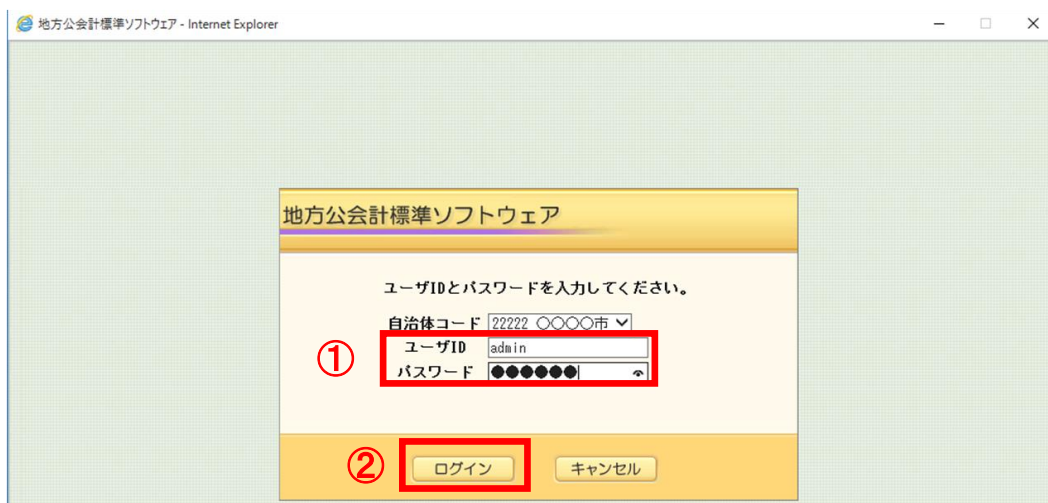


- 2) [地方公会計標準ソフトウェア] 画面で、[ログイン画面へ] ボタンをクリックします。

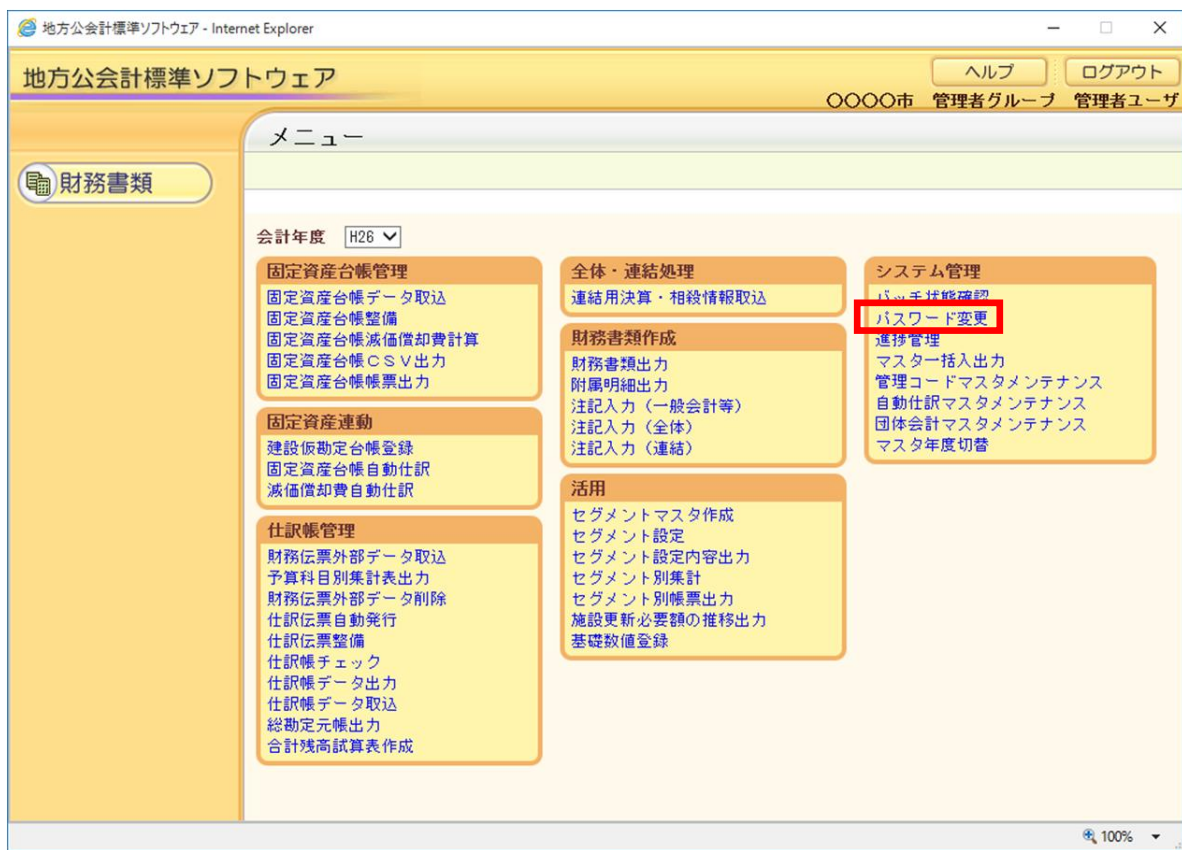


- 3) [地方公会計標準ソフトウェアログイン] 画面で、

- ① [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「admin」、[パスワード] 欄のテキストボックスに「admin」と入力します。
- ② [ログイン] ボタンをクリックします。



4) メニュー画面が表示されることを確認して、[パスワード変更] をクリックします。



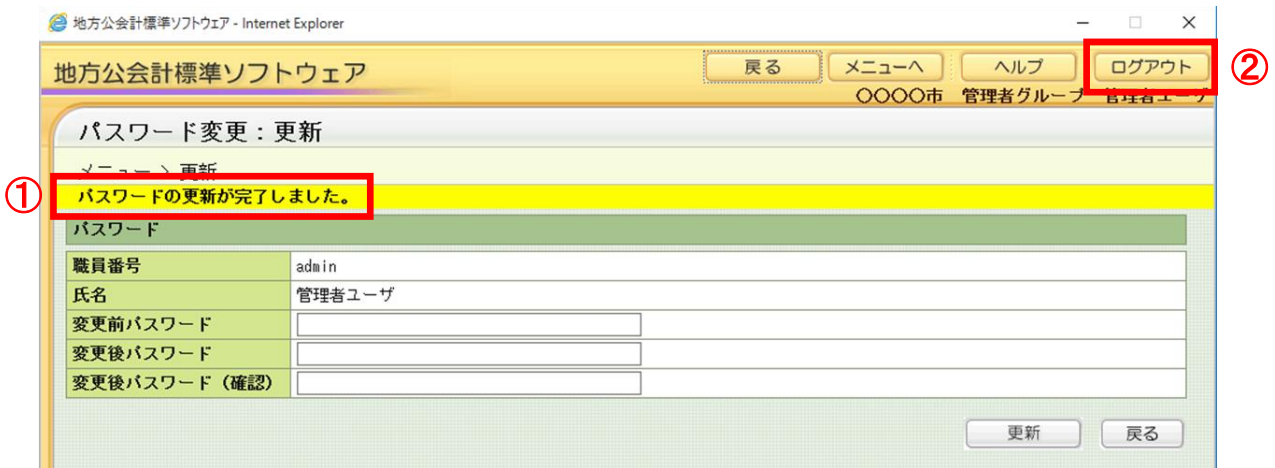
5) [パスワード変更] 画面で、

- ① [職員番号] 欄に「admin」が表示されていることを確認します。
- ② [変更前パスワード] 欄のテキストボックスに「admin」と入力します。
- ③ [変更後パスワード] 欄のテキストボックスに変更後のパスワードを入力します。
- ④ [変更後パスワード（確認）] 欄のテキストボックスに③で入力したパスワードを入力します。
- ⑤ [更新] ボタンをクリックします。

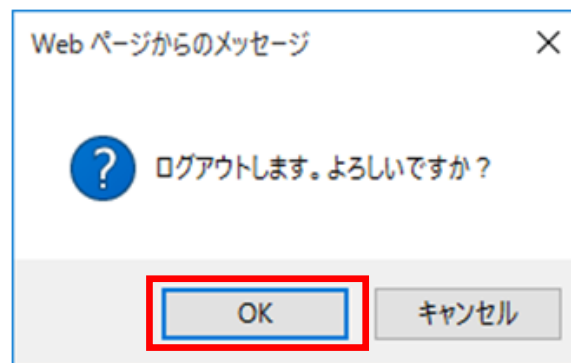


6) [パスワード変更] 画面で、

- ① 「パスワードの更新が完了しました。」のメッセージが表示されていることを確認します。
- ② [ログアウト] ボタンをクリックします。

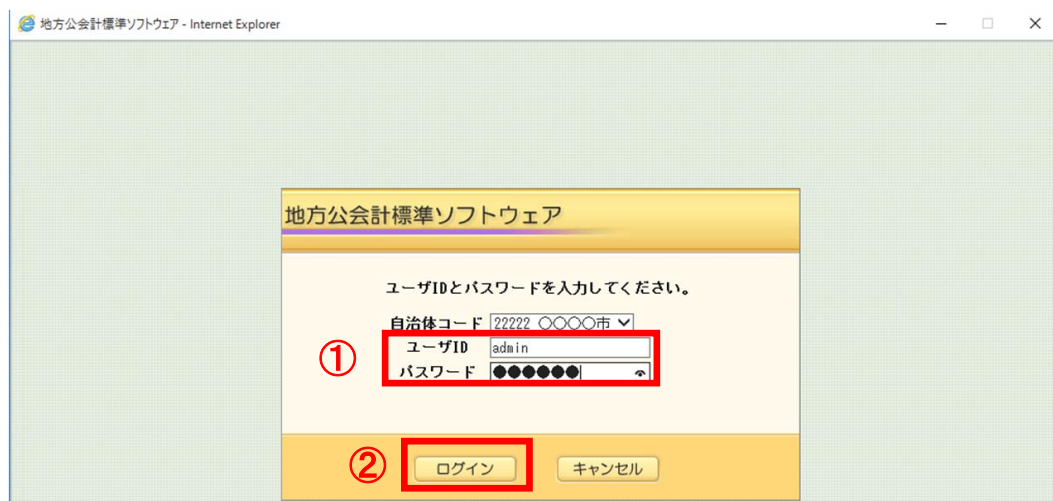


7) [Web ページからのメッセージ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



8) [地方公会計標準ソフトウェアログイン] 画面で、

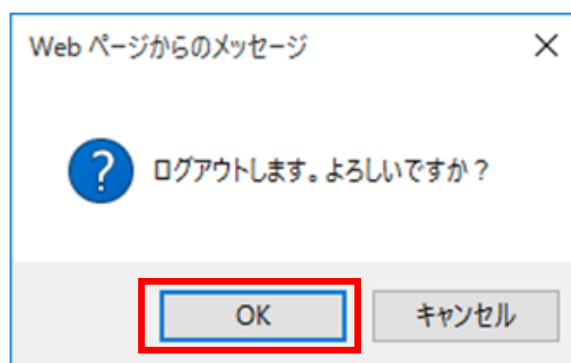
- ③ [ユーザ名] 欄のテキストボックスに「admin」、[パスワード] 欄のテキストボックスに付録 C の項番 5) で「admin」から変更したパスワードを入力します。
- ④ [ログイン] ボタンをクリックします。



- 9) メニュー画面が表示されることを確認して、[ログアウト] ボタンをクリックします。



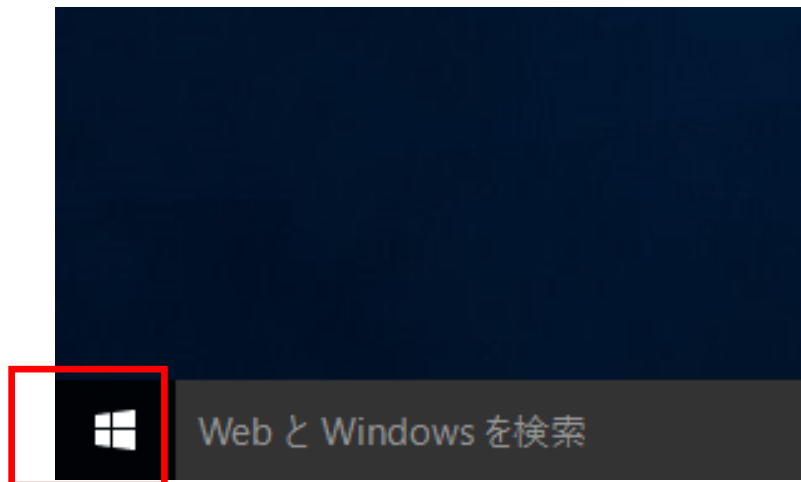
- 10) [Web ページからのメッセージ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。必要に応じて、地方公会計標準ソフトウェアの画面を閉じてください。



付録 C システム環境変数 PATH 追加手順

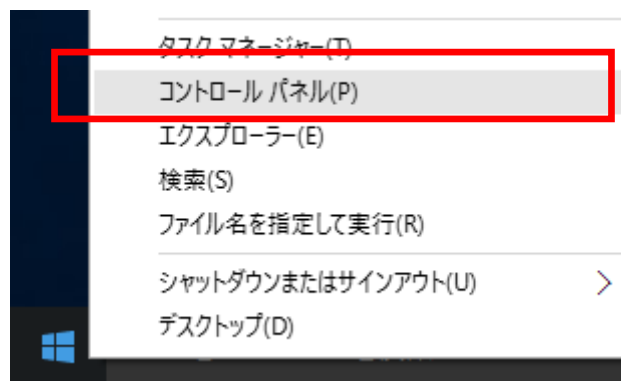
ここでは、システム環境変数 PATH にパスを手動で追加する必要がある場合に、システム環境変数 PATH にパスを追加する手順を説明します。

- 1) [スタート] ボタンを右クリックします。

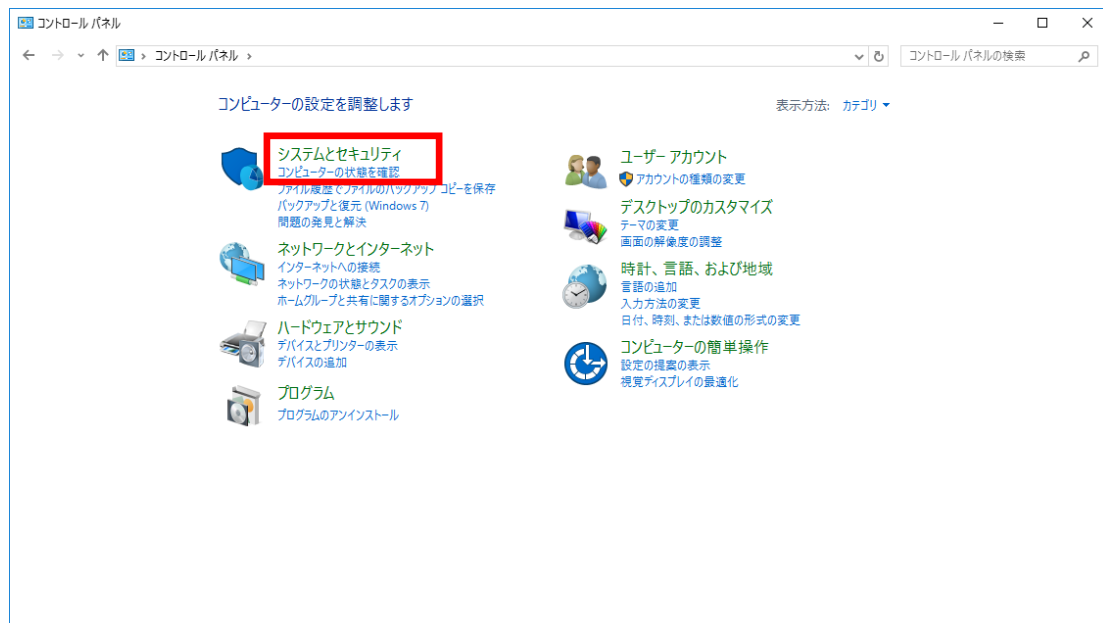


(注) スタンドアロン PC のデスクトップ画面は、スタンドアロン PC のデフォルト設定の画面です。

- 2) [コントロールパネル] ボタンをクリックします。



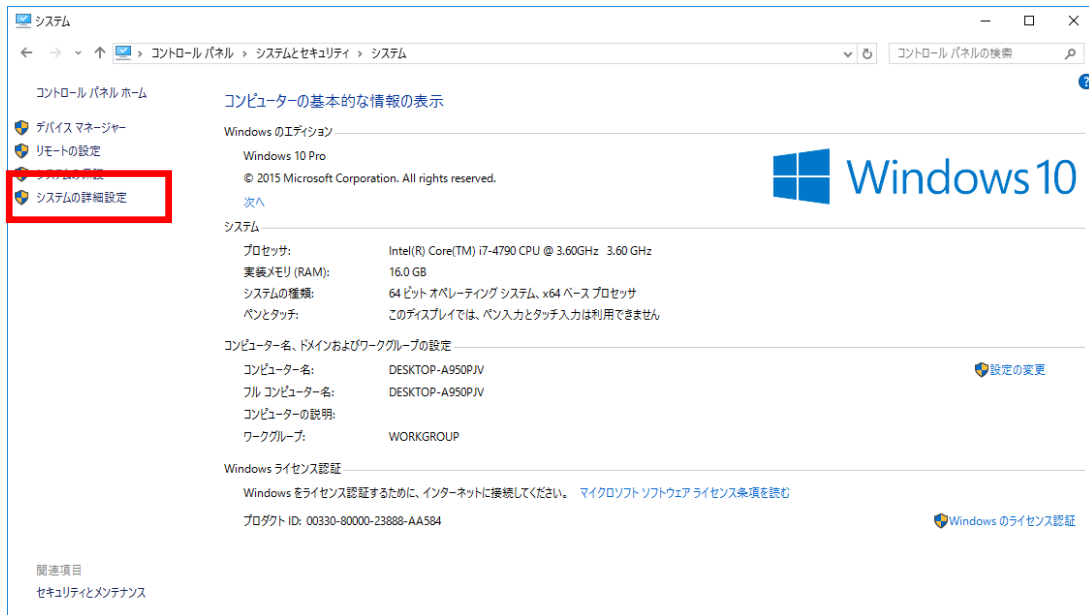
3) [コントロールパネル] 画面で、[システムとセキュリティ] をクリックします。



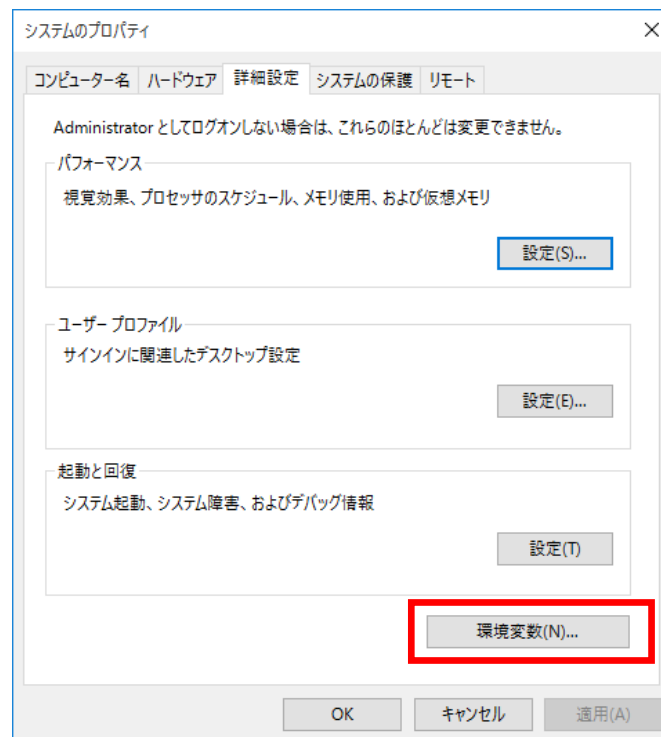
4) [システムとセキュリティ] 画面で、[システム] をクリックします。



5) [システム] 画面で、[システムの詳細設定] をクリックします。

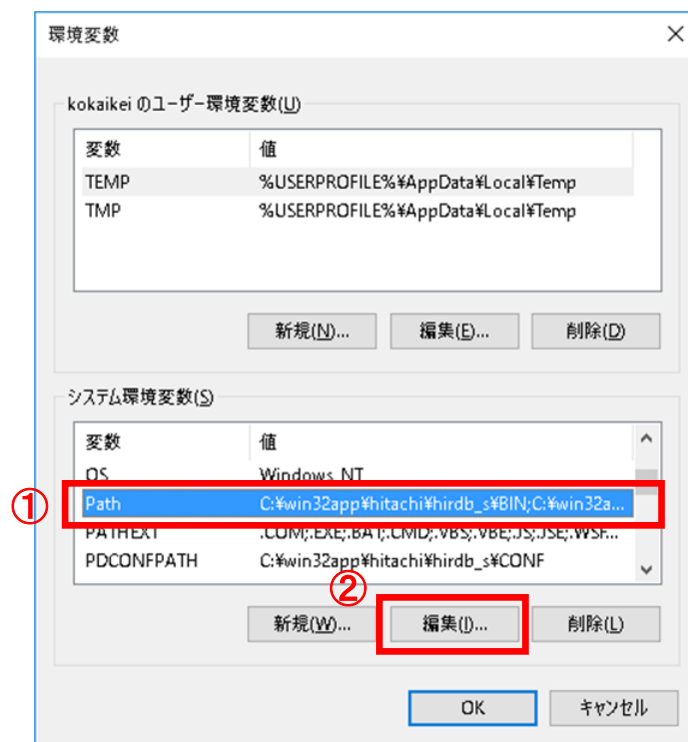


6) [システムのプロパティ] 画面で、[環境変数] ボタンをクリックします。



7) [環境変数] 画面で、

- ① [システム環境変数] - [Path] を選択します。
- ② [編集] ボタンをクリックします。

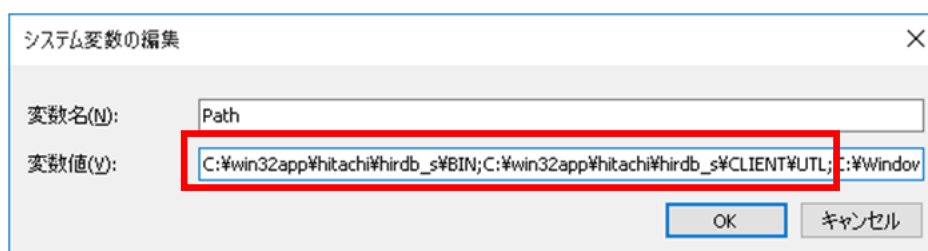


8) [システム変数の編集] 画面で、[変数値] に以下のパスを追加します。

- 追加するパス

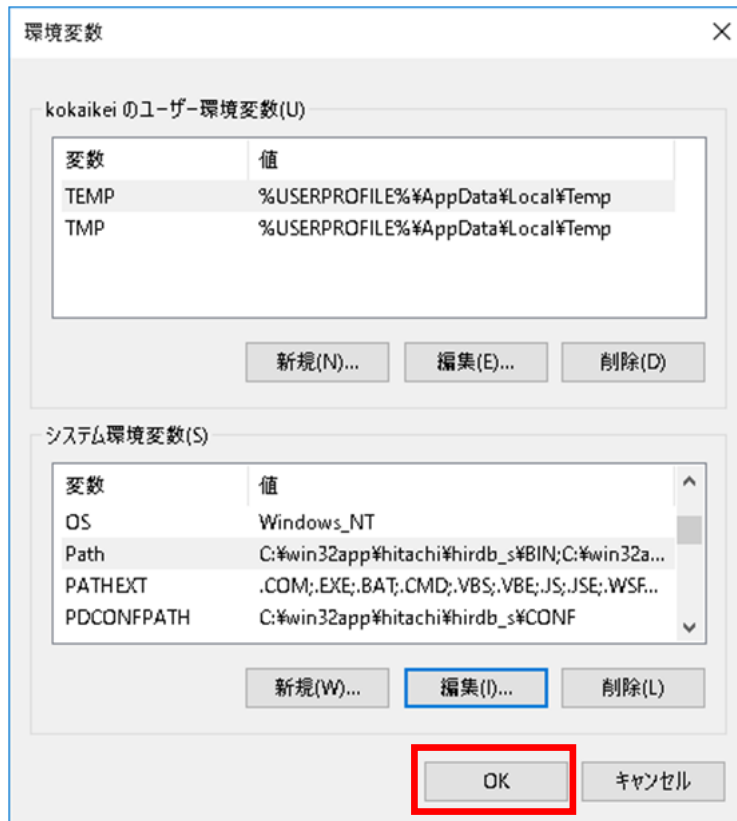
C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥BIN;

C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥CLIENT¥UTL;

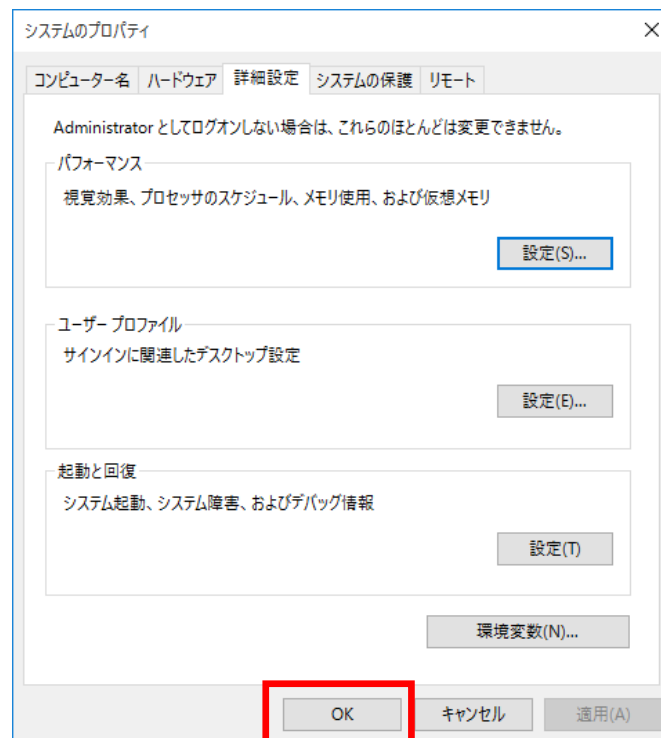


(注) [変数値] の値を事前にメモ帳等に貼り付け、バックアップとして保存しておくことを推奨します。また、入力制限により入力できない場合は不要なパスを削除してから、上記のパスを追加してください。

9) [環境変数] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



10) [システムのプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックします。



11) [システム] 画面で、右上の [×] ボタンをクリックします。

